平　成　24　年　度　　　　　　　　　　　　　　　　　社　第　6　号

石動東部保育所耐震補強工事その１

工事実施設計書

小矢部市

平成　24　年度　　小矢部市役所

設　計　書

小矢部市　畠中町　地内

石動東部保育所耐震補強工事その１

工事金額　　円　（消費税相当額　　円）

内　訳

第 6 号	工事 概要	項目 ・耐震ブレース取付工事　1　式 ・耐震壁設置工事　1　式 ・耐震スリット取付工事　1　式 ・ベランダ補強工事　1　式 ・電気設備工事　1　式 ・給排水衛生設備工事　1　式

特記事項

設計図面特記仕様書のとおり

符号	名 称	仕 様	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	石動東部保育所耐震補強工事 その1						
Ⅰ	耐震ﾌﾞﾚｰｽ取付工事		1.0	式			
Ⅱ	耐震壁設置工事		1.0	式			
Ⅲ	耐震スリット取付工事		1.0	式			
Ⅳ	ベランダ補強工事		1.0	式			
Ⅴ	電気設備工事		1.0	式			
Ⅵ	給排水衛生設備工事		1.0	式			
Ⅶ	諸経費		1.0	式			
	計						
	消費税						
	合計						

符号	名 称	仕 様	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
Ⅰ	耐震ﾌﾞﾚｰｽ 耐震壁工事						
1	直接仮設工事		1.0	式			
2	アンカー工事		1.0	式			
3	鉄筋工事		1.0	式			
4	鉄骨工事		1.0	式			
5	コンクリート工事		1.0	式			
6	土工事		1.0	式			
7	雑工事		1.0	式			
8	撤去工事		1.0	式			
	合計						

符号	名 称	仕 様	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
1	直接仮設工事						
	墨だし		65.0	㎡			施単 P15
	枠組み足場 W=600	手摺先行方式	87.0	㎡			施単 P19
	登り桟橋		12.0	m			施単 P19
	ﾒｯｼｭｼｰﾄ		87.0	㎡			施単 P24
	仕上養生費		65.0	㎡			施単 P16
	整理清掃費		65.0	㎡			施単 P16
	仮囲い		44.0	m			
	高圧洗浄		18.6	㎡			施 P347
	機械器具費	ﾗﾌﾀｰｸﾚｰﾝ5t	2.0	回			物 P787
		ﾗﾌﾀｰｸﾚｰﾝ25t	4.0	回			物 P787
	合計						

符号	名 称	仕 様	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
2	アンカー工事						
	樹脂アンカー打設	ﾊﾝﾏｰﾄﾞﾘﾙ D19L540(穿孔深さ11da)	184.0	ヶ所			見積×0.8
	樹脂アンカー打設	下向き D19L590(穿孔深さ11da)	4.0	ヶ所			〃
	樹脂アンカー用墨出し		188.0	ヶ所			〃
	既設鉄筋探査費		188.0	ヶ所			〃
	樹脂アンカー引張試験	3本/1ﾛｯﾄ	3.0	ヶ所			〃
	樹脂アンカー打撃試験	ｱﾝｶｰ全数	188.0	ヶ所			〃
	穿孔深さ確認		188.0	ヶ所			〃
	既設面補修費	樹脂ﾓﾙﾀﾙ ﾀﾞﾒ穴補修 5%	9.0	ヶ所			〃
	既設躯体補修費	樹脂ﾓﾙﾀﾙ 目荒し面積	18.6	㎡			〃
	合計						

符号	名 称	仕 様	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
3	鉄筋工事						
	割裂防止筋	O型 D6 340×190	172.0	本			見積×0.8
	割裂防止筋	O型 D6 490×190	274.0	本			〃
	割裂防止筋	O型 D6 540×190	266.0	本			〃
	割裂防止筋	U型 D6 290×190	18.0	本			〃
	割裂防止筋	U型 D6 490×190	20.0	本			〃
	割裂防止筋	U型 D6 640×190	46.0	本			〃
	割裂防止筋	U型 D6 690×190	49.0	本			〃
	割裂防止筋取付費	O型	712.0	ヶ所			〃
	割裂防止筋取付費	U型	133.0	ヶ所			〃
	組立・乱れ防止筋	SD295A D10	34.0	Kg			物 P17
	組立・乱れ防止筋	SD295A D13	223.0	Kg			物 P17
	組立・乱れ筋加工取付費		257.0	Kg			施 P375
	打増部補強筋	SD295A D10	74.0	Kg			物 P17
	打増部補強筋	SD295A D13	133.0	Kg			物 P17
	打増部補強筋加工取付費		207.0	Kg			施 P375
	鉄筋運搬費		712.0	Kg			コ市 P5
	合計						

符号	名 称	仕 様	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
4	鉄骨工事						
	鋼板	SN400B PL12	301.0	Kg			物 P40・41
	鋼板	SN400B PL19	3,911.0	Kg			物 P40・41
	角座金	樹脂ｱﾝｶｰ用 □45	184.0	個			見積×0.8
	角座金	位置固定用 □45	56.0	個			〃
	ハイテンションボルト	S10T M22 L80	172.0	本			〃
	工場加工費		4,212.0	Kg			〃
	アンカー位置調査費		184.0	ヶ所			〃
	加工図・型出し		4,212.0	Kg			〃
	アンカー用孔あけ		184.0	ヶ所			〃
	ボルト用孔あけ		516.0	ヶ所			〃
	鉄骨取付費	～8.0mｽﾊﾟﾝ	1.0	面			〃
	鉄骨取付用重機費		4,341.0	Kg			〃
	鉄骨運搬費		4,341.0	Kg			〃
	鉄骨場内小運搬費		4,341.0	Kg			〃
	割裂防止筋組立筋固定金具	鉄板～補強筋	60.0	ヶ所			〃
	割裂防止筋組立筋固定筋取付費		60.0	ヶ所			〃
	鉄骨地組用架台	割裂防止筋配筋時共	1.0	式			〃
	合計						

符号	名 称	仕 様	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
5	コンクリート工事						
	耐 震 型 枠	鋼板内蔵鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾚｰｽ	50.7	㎡			見積×0.8
	既設取合目地取付		58.1	m			〃
	打継・化粧目地取付		17.8	m			〃
	水切目地取付		12.6	m			〃
	化粧面木取付		54.9	m			〃
	ｾﾊﾟﾚｰﾀｰ溶接及び金具取付費		16.8	㎡			〃
	運 搬 費	小運搬共	50.7	㎡			〃
	普通コンクリート［補強部］	ＦＣ30+Ｓ値 打増共	9.1	㎥			物 P94 FC36
	打設手間		9.1	㎥			施 P375
	高性能ＡＥ減水剤		9.1	㎥			物 P114 36N
	ポンプ基本料金	50m3未満/1回	1.0	回			コ市 P10
	ポンプ車生モルタル		1.0	㎥			物 P95
	高周波バイブレーター		1.0	回			物 P785
	合計						

符号	名 称	仕 様	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
6	土工事						
	根切		1.6	㎥			施単 P50
	埋戻し		1.4	㎥			〃
	残土処分	積込	1.6	㎥			
	残土処分	運搬 処分	2.7	t			
	重機運搬費		2.0	往復			コ市 P2
	合計						

符号	名 称	仕 様	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
7	雑工事						
	（ 外部 ）						
	梁天端 コンクリート金鏝		7.0	㎡			コ市 P20
	梁天端仕上		6.5	㎡			
	コンクリート打放補修		49.5	㎡			コ P293
	取合補修	入隅	59.8	m			コ P295
	下地調整	ｾﾒﾝﾄ系	49.5	㎡			コ市 P23
	防水形複層塗材Ｅ	高弾性吹付タイル レナエクセレント程度	49.5	㎡			公表価格×0.8 コ P309
	横引きドレン 改修		2.0	箇所			
	縦樋 付け替え		2.0	箇所			
	取合い目地シーリング	PU-2 25×20	58.1	m			コ市 P16
	打継･化粧目地シーリング	PU-2 15×15	17.8	m			コ市 P16
	（ 内部 ）						
	配膳室 流し台 隙間ふさぎ		1.0	式			
	合計						

符号	名 称	仕 様	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
8	撤去工事						
	（ 外部 ）						
	外壁モルタル撤去		18.6	㎡			
	コンクリート面目荒し	全面（ひと皮むき）	18.6	㎡			
	発生材積込	ｺﾝｸﾘｰﾄ・ﾓﾙﾀﾙ類	0.7	㎥			
	発生材運搬	ｺﾝｸﾘｰﾄ・ﾓﾙﾀﾙ類	0.7	㎥			
	発生材処分	ｺﾝｸﾘｰﾄ・ﾓﾙﾀﾙ類	1.8	t			ｺｽﾄ P592
	合計						

符号	名 称	仕 様	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
Ⅱ	耐震壁設置工事						
1	直接仮設工事		1.0	式			
2	躯体工事		1.0	式			
3	仕上げ補修工事		1.0	式			
4	解体工事		1.0	式			
	合計						

符号	名 称	仕 様	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
1	直接仮設工事						
	墨だし		12.0	m^2			施単 P15
	枠組み足場 W=600	手摺先行方式	24.0	m^2			施単 P19
	安全手摺		12.0	m			施単 P19
	脚立足場		24.0	m^2			施単 P24
	仮間仕切り	木合板	32.0	m^2			
	躯体養生費		65.0	m^2			施単 P16
	仕上養生費		65.0	m^2			施単 P16
	整理清掃費		65.0	m^2			施単 P16
	合計						

符号	名 称	仕 様	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
2	躯体工事						
	目荒らし		17.7	m			施単 P337
	ケミカルアンカー打設	D19 上	27.0	本			施単 P191
		D19 中	36.0	本			〃
		D19 下	27	本			〃
	コンクリート		3.7	㎥			建物 P95
	ポンプ車		1.0	回			
	コンクリート打設費		3.7	㎥			施単 P375
	型枠		37.3	㎡			施単 P375
	無収縮モルタル		0.2	㎥			施単 P375
	注入用型枠		6.1	m			施単 P375
	スパイラル筋		17.7	m			施単 P375
	鉄筋 D13		385.0	Kg			物 P17
	鉄筋加工組立		385.0	Kg			施単 P375

符号	名 称	仕 様	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	根切		4.8	㎥			施単 P50
	すきとり		6.0	㎡			〃
	埋め戻し		4.8	㎥			〃
	砕石		1.5	㎥			施単 P81
	土間コンクリート		1.5	㎥			建物 P95
	コンクリート打設費		1.0	式			
	合計						

符号	名 称	仕 様	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
3	仕上げ補修工事						
	天井 PB9.5 +ﾛｯｸｳｰﾙ9 貼		12.2	㎡			施単 P305
	木下地		12.2	㎡			
	壁 PB12.5 貼 GL工法		20.7	㎡			施単 P303
	床 県産材フローリング貼		2.4	㎡			
	天井 AEPヌリ		6.6	㎡			施単 P271
	壁 AEPヌリ		20.7	㎡			〃
							見積×0.8
	ﾏｸﾞﾈｯﾄ専用掲示板	5300×1300 木枠	2.0	箇所			
	ﾋﾟﾝ ﾏｸﾞﾈｯﾄ対応掲示板	2400×1200 木枠	3.0	箇所			
	ﾎｰﾛｰﾎﾜｲﾄﾎﾞｰﾄﾞ	1200×1200 木枠	3.0	箇所			
	棚移設		1.0	式			
	合計						

符号	名 称	仕 様	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
4	解体工事						
	内部間仕切り壁撤去	CB部	15.1	㎡			ｺｽﾄ情報 P414
	土間ｺﾝｸﾘｰﾄカッター入れ		12.2	m			ｺｽﾄ情報 P417
	土間ｺﾝｸﾘｰﾄ解体撤去	t120	1.5	㎡			ｺｽﾄ情報 P414
	床 仕上げ撤去		6.1	㎡			
	壁 モルタル撤去		31.7	㎡			ｺｽﾄ情報 P417
	天井 ボード撤去	下地共	6.1	㎡			ｺｽﾄ情報 P414
	残土処分	積込	4.8	㎥			
	残土処分	運搬 処分	8.2	t			
	ｺﾝｸﾘｰﾄ・ﾓﾙﾀﾙ類 積込	人力	3.0	㎥			施単 P336
	ｺﾝｸﾘｰﾄ・ﾓﾙﾀﾙ類 運搬		3.0	㎥			〃
	内装仕上材木材類 積込	人力	0.9	㎥			〃
	内装仕上材木材類 運搬		0.9	㎥			〃
	ｺﾝｸﾘｰﾄ・ﾓﾙﾀﾙ類 処分費		7.0	t			ｺｽﾄ P592
	内装仕上材木材類 処分費		1.5	t			
	合計						

符号	名 称	仕 様	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
Ⅲ	耐震スリット取付工事						
							見積×0.8
	ウォールカッター	W=30 t=150 L=500	2.0	m			
	コンクリート削孔工事		20.0	箇所			
	ウォールカッター	W=30 t=300 L=650	1.3	m			
	コンクリート削孔工事		16.0	箇所			
	スリツト材 耐火1時間		1.7	m			
	取合ｼｰﾘﾝｸﾞ		3.4	m			
	外部 吹付け補修		1.0	式			P861
	合計						

符号	名 称	仕 様	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
Ⅳ	ベランダ補強工事						
	枠組み足場 W=900	手摺先行方式	120.0	㎡			施単 P18
	安全手摺		20.0	m			施単 P21
	登り桟橋		2.0	箇所			
	養生シート		120.0	㎡			施単 P21
	コンクリートカッター		26.0	m			
	コンクリート解体 積込		4.5	㎡			ｺｽﾄ情報 P414
	モルタル解体		4.5	㎡			ｺｽﾄ情報 P417
	コンクリートガラ運搬		5.1	㎥			施単 P336
	コンクリートガラ処分		12.8	t			
	ステンレス手摺取り付け		6.0	箇所			×0.8
	モルタル補修		6.0	箇所			P865
	吹付け補修		6.0	箇所			
	合計						

符号	名 称	仕 様	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
V	電気設備工事						
1	耐震改修その(1)電気設備		1	式			
	合計						

符号	名 称	仕 様		数 量	単位	単 価	金 額	備 考
1	耐震改修その(1)電気設備							
	配 管 工事							
	合成樹脂管	HIVE 16Φ	露出	8	m			代価表
	合成樹脂管	HIVE 22Φ	露出	5	m			代価表
	ﾒﾀﾙﾓｰﾙｼﾞﾝｸﾞ	B型	露出	1				
	ボックス 工事							
	ｽｲｯﾁﾎﾞｯｸｽ(ﾒﾀﾙﾓｰﾙｼﾞﾝｸﾞ)	1方出 (露出)		2	ｹ			代価表
	丸型露出ﾎﾞｯｸｽ(VE)	3方出 VE(22φ)		1	ｹ			代価表
	配 線 工事							
	耐燃性ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝｼｰｽｹｰﾌﾞﾙ CE	EM-CE 3.5゜- 3C	管入れ	8	m			代価表
	耐燃性ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝｼｰｽｹｰﾌﾞﾙ CE	EM-CE 3.5゜- 4C	管入れ	5	m			代価表
	既設配線新設配管に入線	VVF2.0-3C	ころがし	1	m			代価表
	配線器具 工事							
	ｺﾝｾﾝﾄ(新金ﾌﾟﾚｰﾄ)	2P15A x2(接地極、接地端子付)2EET		2	組			代価表
	ｺﾝｾﾝﾄ(屋外型)	2P15A x2(接地極、接地端子付)2EWP		1	組			代価表

符号	名 称	仕 様	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	ﾀｲﾑｽｲｯﾁ	(24H)屋外BOX入り	1	組			代価表
	照明器具 工事						
	照明器具	A-11W LED16.5W x1(WP)露出	1	台			代価表
	撤 去 工事						
	既設配管撤去	HIVE(22) 露出	12	m			代価表
	既設ｼﾞｮｲﾝﾄﾎﾞｯｸｽ撤去	丸型露出ﾎﾞｯｸｽ(VE)3方出	1	ｹ			代価表
	既設配線撤去	CV 3.5゜- 3C 管入れ	12	m			代価表
	既設ｺﾝｾﾝﾄ撤去	2P15A x2(露出型)	2	組			代価表
	既設ｺﾝｾﾝﾄ撤去	2P15A x2(屋外接地端子付)EWP	1	組			代価表
	既設ﾀｲﾑｽｲｯﾁ撤去	屋外BOX入り	1	組			代価表
	既設照明器具撤去	FL20W x1(WP) 露出型	1	台			代価表
	耐震改修その(1)電気設備 合計		1	式			

符号	名 称	仕 様	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
Ⅵ	給排水衛生設備工事						
1	油設備		1.0	式			
2	換気設備		1.0	式			
3	煙突改修（横引）工事		1.0	式			
4	グリーストラップ設備		1.0	式			
	合計						

符号	名 称	仕 様	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
1	給油設備						2011年
	撤去						機械設備積算実務マニュアル
	配管用炭素鋼管（白）	20A	11.0	m			P669
	配管用炭素鋼管（白）	25A	10.0	式			P669
	配管用炭素鋼管（白）	32A	3.0	式			P669
	支持金物撤去（RC壁面で切断）		18.0	ケ所			
	新設						
	配管用炭素鋼管（黒）	20A	13.0	m			P117
	配管用炭素鋼管（黒）	25A	13.0	m			P117
	配管用炭素鋼管（黒）	32A	6.0	m			P117
	配管用炭素鋼管（黒）	塗装補修費 20A	13.0	m			P383
	配管用炭素鋼管（黒）	塗装補修費 25A	13.0	m			P383
	配管用炭素鋼管（黒）	塗装補修費 32A	6.0	m			P383
	戻り管接続（土中）	25A	1.0	ケ所			
	同上に伴う斫り掘削補修		1.0	式			
	Rc壁コアー抜き	40A×180D	4.0	ケ所			
	Rc壁コアー抜き	50A×180D	1	ケ所			

符号	名 称	仕 様	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	配管支持材		1	式			
	雑材 消耗品		1	式			P703
	合計						

符号	名 称	仕 様	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
2	換気設備						
	屋外フード	SUS 250型	1.0	ケ			定価×0.65
	同上防虫網	SUS 250型	1	ケ			定価×0.65
	既設換気扇	取り外し取付	3	ケ所			ダクト工×
	屋外フード	取り外し取付 新設含む	3	ケ所			ダクト工×
	雑材消耗品		1	式			
	合計						

符号	名 称	仕 様	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
3	煙突改修（横引延長）						
	煙突切断	ガス溶接機使用 機械設備工		人			
	煙突切断	普通作業員		人			
	配管用炭素鋼管（黒）	250φ	0.4	m			P383
	配管用炭素鋼管（黒）接続	電気溶接機使用 機械設備工		人			
	配管用炭素鋼管（黒）接続	普通作業員		人			
	支持金物 L形鋼	溶融亜鉛メッキ 6×50×50 5.5m	2.0	本			
	同上ケミカルアンカー ボルト共	M-12	10.0	組			
	同上施工費		1.0	式			
	雑材 消耗品		1.0	式			
	合計						

符号	名 称	仕 様	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
4	グリーストラップ設備						
	グリーストラップ	FRP 250L 縞鋼板蓋付	1.0	組			定価×0.7
	塩化ビニール管 屋外埋設	VP 100A	6.0	m			
	小口径桝	100-150	3.0	組			
	底付コンクリート桝	蓋付 300×300	1.0	組			
	既設トラップ桝(RC)	上部解体撤去処分 通気関係含む	1.0	式			
	山砂埋戻し		1.0	式			
	汲み取り清掃費		1.0	式			
	桝敷設費		1.0	式			
	管土工費	掘削 人力	1.5	m3			
	残土処分	場外搬出	1.2	m3			
	管土工費	埋戻し 人力	0.3	m3			
	コンクリート打設費	鉄筋工事含む（４０ｋｇ） 人力	0.8	m3			
	型枠工事	外型のみ	3.6	m2			
	雑費		1.0	式			
	合計						

石動東部保育所 耐震補強工事

図面リスト

符号	図面名	縮尺	符号	図面名	縮尺	符号	図面名	縮尺
A－01	特記仕様書1		S－01	構造特記仕様書1		E－01	電気設備特記仕様書	
A－02	特記仕様書2		S－02	構造特記仕様書2		E－02	電気設備1階改修配線図	1/100
A－03	特記仕様書3		S－03	構造特記仕様書3		E－03	電気設備2階改修配線図	1/100
A－04	配置図・案内図	1/200	S－04	1階柱･基礎梁伏図	1/100			
A－05	1階平面図	1/100	S－05	2階柱･床梁伏図	1/100			
A－06	2階平面図	1/100	S－06	軸組図-1	1/100			
A－07	屋上平面図	1/100	S－07	軸組図-2	1/100			
A－08	立面図1(改修前)	1/100	S－08	軸組図-3	1/100			
A－09	立面図2(改修前)	1/100	S－09	軸組図-4	1/100	M－01	機械設備特記仕様書	
A－10	立面図1(改修後)	1/100	S－10	RC増設壁補強詳細図	1/30	M－02	機械設備1階改修図	1/50
A－11	立面図2(改修後)	1/100	S－11	外部ブレース補強詳細図	1/50	M－03	機械設備2階改修図	1/50
A－12	矩計図	1/30	S－12	部材リスト	1/20	M－04	外部煙突支持詳細図	1/30
A－13	外部ブレース取付部改修前立面図	1/30						
A－14	外部ブレース取付部改修後立面図	1/30						
A－15	外部ブレース取付詳細図	1/30						
A－16	1階保育室耐震壁設置詳細図	1/50 1/30						
A－17	バルコニー手摺取付改修前詳細図	1/30						
A－18	バルコニー手摺取付改修後詳細図	1/30						
A－19	仮設計画図	1/200						

特記事項

工事名	石動東部保育所耐震補強工事	設計	一級建築士 大臣登録 第108041号 可部谷 一成	検図	
図名	表紙・図面リスト	縮尺	H24.11	月日	

可部谷建築事務所
一級建築士事務所富山県知事登録第（7）557号
管理建築士 一級建築士 大臣登録第108041号 可部谷 一成

No. A－0

仕 様 書

Ⅰ　工事概要

1．工事名称　石動東部保育所耐震補強工事　（本館）

2．工事場所 / 3．建物概要

地名　富山県小矢部市畠中町　9-10		敷地面積　3，162．20　m2	
都市計画区域　・⊙内（・市街化区域　・市街化調整区域　⊙その他）　・外			
用途地域　第１種住居地域		防火地域　指定なし	
構造　ＲＣ　造		階数　2 階建	
建築面積　５６６．４０　m2		延べ面積　１，０３３．００　m2	
屋根仕上　露出防水仕上げ			
外壁仕上　ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し　ﾘｼﾝ吹付			
最高高さ　７．８０　m	最高軒高さ　７．５０　m	居室床高さ　５００　cm	
基礎形式	地盤の設計長期許容支持力度　KN/cm		
耐震安全性の重要度係数			

4．工事範囲　本館の耐震補強工事

補強内容
- ・外付け耐震ブレースの設置（1箇所）
- ・耐震壁の設置（1箇所）
- ・耐震スリットの取り付け　（3箇所）
- ・バルコニーの耐震補強工事（6箇所）
- ・耐震補強工事に伴う建築工事、電気設備工事、給排水設備工事

Ⅱ　建築改修工事仕様

1．共通仕様

（1）　図面及び特記仕様に記載されていない事項は、全て国土交通省大臣官房官庁営繕部制定の「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）（平成１９年版）」（以下、「改修標仕」という。）により、改修標仕に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部制定の「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（平成１９年版）」（以下、「標仕」という。）による。

（2）　電気設備改修工事及び機械設備改修工事を本工事に含む場合は、電気設備改修工事及び機械設備改修工事は、各々の工事仕様書を適用する。

2．特記仕様

（1）　項目は、番号に〇印の付いたものを適用する。

（2）　特記事項は、⊙ 印の付いたものを適用する。
　⊙ 印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
　⊙ 印と ⊛ 印の付いた場合は、共に適用する。

（3）　特記事項に記載の［　．　．　］内表示番号は、改修標仕の当該項目、当該図又は当該表を示す。

（4）　特記事項に記載の（　．　．　）内表示番号は、標仕の当該項目、当該図又は当該表を示す。

（5）　特記事項に記載の（別図-　　．　）内表示番号は、標仕の別図「各部配筋」の当該項目を示す。

（6）　特記事項に記載の（別図２-　　．　）内表示番号は、標仕の別図２「ボルト間隔及び溶接継手の開先形状」の当該項目を示す。

（7）　製造所名は、五十音順とし「株式会社」等の記載は省略する。（　）内は製品名等を示す。

章	項　目	特　記　事　項
① 一般共通事項	① 適用基準等	※ 建築工事標準詳細図(国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課監修　平成17年版) ※ 工事写真の撮り方(改訂第２版)建築編(建設大臣官房官庁営繕部監修) ※ 富山県電子納品運用ガイドライン（案）［建築工事編］（平成19年３月） ・ ISO9001適用　建築工事施工管理要領（公共建築協会）
	② 工事実績情報の登録	※ 適用する　（「工事カルテ受領書」の写しを提出　(1.1.4)
	③ 品質計画等	建築基準法に基づき指定する条件　(1.2.2) ・地区の区分に応じた風速（Vo(m/sec)）　⊙３０　・３２ ・地表面粗度区分　・Ⅰ　・Ⅱ　⊙Ⅲ　・Ⅳ ・多雪地域の指定　積雪区分　建告示第１４５５号　別表（　）
	④ 電気保安技術者	※ 適用する　(1.3.3)
	⑤ 施工条件	施工時間、工程、安全対策、工事用道路、仮設設備等　(1.3.5)
	⑥ 発生材の処理等	※発生材は構外搬出処分とし、その費用も含め元請業者自らの責任において適正に処理するものとする　・ 現場説明書による　(1.3.8) ※ 運搬、処分委託契約書の写しの提出 ※ マニフェスト（A票、B2票、D票、E票）の写しの提出 ・ 引渡しを要するもの（　） ・ 再利用を図るもの（　） ・ 特別管理産業廃棄物の種類（　） ・ 同上処理方法（　） ・ 分別を図るもの（　） ・ 再資源化を図るもの（　）
	⑦ 建築材料等	※ 本工事に使用する建築材料等は、設計図書に規定するもの又はこれらと同等以上のものとする。但し、同等以上とする場合は、監督職員の承諾を受ける。また、品質が同等以上であり価格が適正である場合には、以下のものを優先使用する。 ※ 県内地場産品 ※ 富山県グリーン購入調達方針に定めるもの ・ 本工事で使用する下記の品目については、公共工事における富山県認定リサイクル製品利用方針において優先利用グループに区分されている製品を利用する。 （工種／品目／規格：記載なし） ただし、その製品の入手が困難な場合は、監督員と協議し、通常製品（新材で製造さらた製品）へ変更できるものとする。 ※ 公共工事における富山県認定リサイクル製品利用方針に基づくグループ区分一覧は、富山県のホームページを参照すること。 URL:http://www.pref.toyama.jp/ｃｍｓ_sec/1510/kj00001978.html ・本工事は、「公共工事における富山県認定リサイクル製品利用方針」に基づき、パイロット工事として、下記の製品を利用する。 （工種／品目／規格／製品名：記載なし）
	⑧ 環境への配慮	揮発性有機化合物を放散させる建築材料等 本工事の建物内部に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するものとし次の１）から５）の事項を満たすものとする。 １）　合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、ＭＤＦ、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板及び仕上げ塗材は、ホルムアルデヒドを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。 ２）　保温材、緩衝材、断熱材はホルムアルデヒド及びスチレンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。 ３）　接着剤はフタル酸ジ-ｎ-ブチル及びフタル酸ジ-２-エチルヘキシンを含有しない難揮発性の可塑剤を使用し、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。 ４）　塗料はホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。 ５）　１），３）及び４）の材料等を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器等は、ホルムアルデヒドを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。 また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒド放散量」は、次のとおりとする。 規制対象外 ①ＪＩＳ及びＪＡＳのＦ☆☆☆☆規格品 ②建築基準法施行令第２０条の７第４項による国土交通大臣認定品 ③下記表示のあるＪＡＳ規格品 ａ．非ホルムアルデヒド系接着剤使用 ｂ．接着剤等不使用 ｃ．非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない材料使用 ｄ．ホルムアルデヒドを放散させない塗料等使用 ｅ．非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない塗料使用 ｆ．非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない塗料等使用 第三種 ①ＪＩＳ及びＪＡＳのＦ☆☆☆規格品 ②建築基準法施行令第２０条の７第３項による国土交通大臣認定品 ③旧ＪＩＳのＥｏ規格品 ④旧ＪＡＳのＦｃｏ規格品 アスベスト含有建材 「労働安全衛生法施行令の一部を改正する政令及び石綿障害予防規則等の一部を改正する省令の施行令について」（厚生労働省労働基準局長通達　平成18年8月11日　基発第0811002号）に基づき、本工事に使用する材料については、アスベスト含有建材を使用しないこと。 化学物質等安全データシート（MSDS）等により確認を行った場合は、その写しを監督職員に提出すること。
	⑨ 材料の品質等	本工事に使用する建築材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するものとし、JIS及びJASマーク表示のない材料及びその製造所等は、次の１）から６）の事項を満たすものとする。 １）　品質及び性能に関する試験データが整備されていること。 ２）　生産施設及び品質の管理が適切に行われていること。 ３）　安定的な供給が可能であること。 ４）　法令等で定める許可、認可、認定又は免許等を取得していること。 ５）　製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。 ６）　販売保守等の営業体制が整えられていること。 なお、これらの材料を使用する場合は、設計図書に定める品質及び性能を有することの証明となる資料又は外部機関が発行する資料等の写しを監督職員に提出し承諾を受けるものとする。ただし、あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合はこの限りでない。 また、製造所名、製品名等が記載された材料は、当該製品又は同等以上を使用するものとし、同等以上を使用する場合は、監督職員の承諾を受ける。
	⑩ 特別な材料の工法	標仕に記載されていない特別な材料の工法は、材料製造所の指定する工法とする。
	11　技能士	[1.6.2]（下表による）

適用工事種別	技能検定の職種
仮設工事	・とび
防水改修工事	・ｱｽﾌｧﾙﾄ防水工事作業　・合成ｺﾞﾑ系ｼｰﾄ防水工事作業 ・塩化ﾋﾞﾆﾙ系ｼｰﾄ防水工事作業　・ｱｸﾘﾙｺﾞﾑ系塗膜防水工事作業 ・改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄﾄｰﾁ工法防水工事作業　・ｼｰﾘﾝｸﾞ防水工事作業 ・スレート工事作業　・建築板金（内外装板金作業）
外壁改修工事	・左官　・タイル張り　・塗装（建築塗装作業）　・樹脂接着剤注入施工
建具改修工事	・サッシ施工　・ガラス施工
内装改修工事	・建築大工　・左官　・表装（壁装作業） ・内装仕上げ施工（・ｶｰﾍﾟｯﾄ系床仕上げ　・ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ系床仕上げ ・天井ﾎﾞｰﾄﾞ仕上げ　・鋼製下地工事）　・ﾀｲﾙ張り
塗装改修工事	・塗装（建築塗装作業）
耐震改修工事	・とび　・鉄工　・型枠施工　・鉄筋施工　・ｺﾝｸﾘｰﾄ圧送工事作業
環境配慮改修工事	・防水施工（ｱｽﾌｧﾙﾄ防水工事作業）　・熱絶縁施工　・ｶﾞﾗｽ施工 ・造園　・建築配管作業
ﾌﾞﾛｯｸ、ALCﾊﾟﾈﾙ工事	・ブロック建築　・ＡＬＣパネル施工
石工事	・石材施工（石張り施工）
解体工事	・解体工事施工技士

⑫ 技術検査　※土木部建築工事監督要領による。　(1.6.2)

13　化学物質の濃度測定
施工完了時に室内空気中の揮発性有機化合物等の室内濃度を測定し、厚生労働省が定める指針値以下であることを確認し、報告書を提出する。
室内濃度測定対象物質
※ホルムアルデヒド　※トルエン　※キシレン　※エチルベンゼン　※スチレン
※パラジクロロベンゼン（学校施設について測定）
・フタル酸ジ-n-ブチル　・アセトアルデヒド
測定する室　※図示
測定方法

	ホルムアルデヒド・アセトアルデヒド	その他の揮発性有機化合物
採取	ジニトロフェニルヒドラジン 誘導体固相吸着/溶媒抽出法	固相吸着/溶媒抽出法
分析	高速液体クロマトグラフ（ＨＰＬＣ）	ガスクロマトグラフ法

※採取法はパッシブ型採取機器により行う。

⑭ 完成図等
※ 着工時製本　・原図版 ３ 部　・縮小版 ３ 版 ３ 部 (1.7.1～1.7.3)(表1.7.1)
※ 完成図製本（黒表紙）　・原図版 ２ 部　・縮小版 ３ 版 ２ 部
・ 施工図　※工事写真　・保全に関する資料　⊙CADデータ（　形式　JWW　）

⑮ 工事写真

撮影時	規　格	撮影箇所数	部数	備考
着工前	⊙L版程度（3枚/頁）	適正数	１部	デジタルカメラは130万～300万画素
施工中	⊙サムネール版			
完成時	※L版程度（3枚/頁）	適正数	１部	

⑯ 施工図等の取扱い　施工図等の著作権に係わる当該建築物に限る使用権は、発注者に移譲するものとする。

⑰ 設備工事との取合い　設備機器の位置、取合い等の検討できる施工図を提出し、監督職員の承諾を受ける。

⑱ 設計ＧＬ　※ 図示　・ 設計ＧＬ＝現状ＧＬ

⑲ 電子納品
※電子納品対象工事
以下の示す書類を電子納品する。
※工事写真　・施工計画書　※完成図(CADデータ)　・参考図(ラスターデーター)
なお、電子納品の実施は「富山県電子納品運用ガイドライン（案）［建築工事編］」に基づいて行う。

⑳ 調査・試験に対する協力
公共工事労務費調査等の対象工事となった場合は、監督員の指示により必要な協力をしなければならない。(富山県土木工事共通仕様書 1-1-13)

㉑ 施工機械
※下記の建設機械を使用する場合は、排出ガス対策型建設機械指定要領に基づき国土交通省で指定された建設機械を使用するものとする。なお、排出ガス対策型建設機械に代えて、国土交通省で認定された排出ガス浄化装置を装着した建設機械についても、排出ガス対策型と同等とみなすものとする。
バックホウ、トラクタショベル、ブルドーザ、発動発電機、空気圧縮機、油圧ユニット類(油圧ハンマー、アースオーガ、アースドリル等)、ローラ類、ホイールクレーン等でエンジン出力7.5KW以上260KW以下のもの。

㉒ 下請関係の適正化　本工事を下請けに付す場合は、「建設工事の下請関係の適正化に関する留意事項」を遵守すること。

㉓ 個人情報の取扱い　「富山県土木工事共通仕様書」1-1-48個人情報取扱特記事項による。

㉔ 高度技術・創意工夫社会性等の実施
請負者は、工事施工において、自ら立案実施した創意工夫や技術力に関する項目、または地域社会への貢献として評価できる項目に関する事項について、工事完成時までに「富山県請負工事成績評定要領」第4第7項に定める様式により提出することができる。

㉕ 総合評価方式
請負者は、入札時に提出した「技術提案(簡易な施工計画)」（富山県公共工事総合評価方式試行要領様式第１号、第２号）に記載した内容を履行すること。請負者の責により履行できない場合は、富山県公共工事総合評価方式試行要領に基づき工事成績評定点を減点するものとする。

② 仮設工事

① 足場その他
内部足場　種別　・脚立、足場板等　⊙手摺先行枠組棚足場　[2.2.1]
外部足場　種別　・Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種　[2.2.1][表2.2.1]
※ 枠組足場を設ける場合は「手すり先行工法に関するガイドライン」（厚生労働省，平成１５年４月）により、設置については同ガイドラインに基づく働きやすい安心感のある足場とし、二段手すりと幅木の機能を有する部材があらかじめ備えられた手すり先行専用足場型とするか、または改善措置機材を用いて手すり先行専用足場型と同等の機能を確保するものとする。
防護ｼｰﾄ等による養生
※設置する　※ﾈｯﾄ状養生ｼｰﾄ又は養生ｼｰﾄ　・防音ﾊﾟﾈﾙ　・
なお、出入口等の上部は必要に応じて防護棚を設ける。
・設置しない
材料、撤去材等の運搬　・Ａ種　※Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種　・Ｅ種　[2.2.1][表2.2.2]

② 既存部分の養生
既存部分の養生方法　※ﾋﾞﾆｰﾙｼｰﾄ等　⊙ｼｰﾄ+構造用合板　[2.3.1]
既存家具等の養生方法　※ﾋﾞﾆｰﾙｼｰﾄ等　[2.3.1]
既存ブラインド、カーテン等の養生方法及び保管場所　・図示　[2.3.1]
固定された備品、机・ロッカー等の移動　・行う（図示）

3　仮設間仕切り
仮設間仕切り等の種別　[2.3.2][表2.3.1]

種　別	下　地	仕上げ材（厚さmm）	充填材（mm）	塗　装
・Ａ種	※軽量鉄骨	※せっこうﾎﾞｰﾄﾞ（※9.5　・　）	厚さ（　）	※無し
・Ｂ種	・木造	・合板（※９　・　）		・片面
※Ｃ種	単管	防炎シート		
仮設扉	※木製扉	合板張り程度	・行う （厚さ　）	※無し
	・			・片面

4　監督職員事務所　・設ける（規模：　m2程度）
・
・

⑤ 工事用水　構内既存の施設　※利用できない　・利用できる（※有償　・無償）

⑥ 工事用電力　構内既存の施設　※利用できない　・利用できる（※有償　・無償）

③ 土工事

① 埋戻し、及び 盛土　(3.2.3)(表3.2.1)
種別　・A種　※B種　・C種　・D種　・建設汚泥から再生した処理土

② 建設発生土の処理　(3.2.5)
・ 現場内で処理
　・ 構内指示の場所に堆積
　・ 構内指示の場所に敷き均し
・ 場外に搬出し、関係法令に従い適切に処理する。
なお、処理にあたっては「建設発生土情報交換システム」を活用する。
構外指定場所に搬出後　※堆積　・敷き均し
受入場所：
受入時間帯：　時　分～　時　分
仮置き等：
搬出調書を監督職員に提出する

④ 環境配慮改修工事

1　アスベスト含有建材の石綿含有率測定
・行う
分析方法　※ JIS A1481「建材製品中のアスベスト含有率測定方法」による。
・
分析結果については、監督職員に報告すること。

材 料 名	採取場所	箇所数	分析方法
			※ 定性分析　・ 定量分析
			※ 定性分析　・ 定量分析
			※ 定性分析　・ 定量分析

② アスベスト含有成形板の除去
・アスベスト含有成型板の除去
除去対象範囲　※図示

⑤ 耐震改修工事

1　コンクリートの類別及び強度
レディーミクストコンクリートの類別　[8.1.3][表8.1.1]
※ Ⅰ類　・ Ⅱ類
普通コンクリートの設計基準強度　[8.1.3]

設計基準強度Fc（Ｎ／mm2）	適用箇所
※21	
・	

2　コンクリートの品質
スランプ　[8.1.4]

スランプ（cm）	適用箇所
※18	
・	

3　調合強度
気温によるコンクリート強度の補正値　※表(6.4.1) による。　(6.4.5)(表6.4.1)
ただし、以下の補正値適用期間を使用することができる。

打設日	10月３日～11月15日 ３月15日～４月27日	11月16日～３月14日
補正値	3N/mm2	6N/mm2

※普通ポルトランドセメントのみ適用

4　構造体コンクリートの強度　構造体コンクリートの割増し　※ΔF=3N/mm2

⑤ 鉄骨製作工場　[8.1.5]
・監督職員の承諾する製作工場
・建築基準法第７７条の４５第１項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた（株）日本鉄骨評価センター又は（社）全国鐵構工業協会の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める「 R グレード」として国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場

⑥ 施工管理技術者　※適用する　[8.1.5]

⑦ 鉄骨の工作図
ゲージ、ピッチ、へりあき等の寸法　[8.1.6]
※国土交通省大臣官房官庁営繕部「建築鉄骨設計基準」による。
・

⑧ 鉄筋の種類　[8.2.1][表8.2.1]

種類の記号	呼び名（mm）
・ＳＤ２９５Ａ	
・ＳＤ３４５	
・	

9　溶接金網
網目の形状、寸法及び鉄線の径　[8.2.2]

網目の形状、寸法（たて×よこ）	鉄線の径または呼び（mm）	規格
※100×100	※6.0	JIS G3551による
・	・	

⑩ あと施工アンカーの材料
あと施工アンカーの材料　[8.2.4]
・金属拡張アンカー（耐震補強用）
※接着系アンカー
カプセルの種類　※有機系

⑪ 普通コンクリート
セメントの種類　[8.2.5]
※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのＡ種
普通ポルトランドセメントは、JIS R5210に示された規定の他、次の規定の全てに適合するものとする。ただし、無筋コンクリートに用いる場合を除く。

水和熱	7d	352J/g以下
	28d	402J/g以下

・高炉セメントＢ種　(6.3.2)
骨材の品質　[8.2.5]
※Ａ
・Ｂ（コンクリート中のアルカリ総量Rt=3.0kg/m3）
混和材料
混和材料の種類　[8.2.5][8.4.8]
※混和剤
・混和材

⑫ 鋼材
鋼材の材質　[8.2.7][表8.2.5]

種類の記号	適用箇所	規格等
SN400B	建築構造用圧延鋼材　H-200*200*8*12,溶接するGPL類	※JIS規格による
SS400	一般構造用圧延鋼材　L型鋼	※JIS規格による
STKR400	一般構造用炭素鋼管（角型鋼管）　□-175*175*6	※JIS規格による
SSC400	建築構造用冷間成形軽量形鋼	※JIS規格による

⑬ 高力ボルト
高力ボルトの適用　[8.2.8]
※トルシア形高力ボルト　・JIS形高力ボルト　・溶融亜鉛めっき高力ボルト

⑭ モルタル及びグラウト材
柱底均しモルタル　[8.2.10]
※無収縮モルタル
・
グラウト材　[8.2.10]
※無収縮グラウト材　プレミックス形及び現場調合形

混和材料	セメント系（酸化カルシウム及びカルシウムサルファルミネート等によって膨張する性質を利用するものとする
セメント	JIS R 5210（ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ）による普通または早強ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄとする。
砂	土木学会コンクリート標準示方書に定められた品質を有するもので、特に精選されたものを絶対乾燥状態で使用する

無収縮グラウトの品質及び試験方法（現場調合形においては標準使用量・配合値）

ブリージング	練り混ぜ２時間後のブリージング率：2.0%以下
凝結時間	凝結開始時間　１時間以上
無収縮性	材齢　７日　収縮しない
圧縮強度	材齢　３日　20N/mm2以上
	材齢２８日　40N/mm2以上
付着強度	材齢２８日　2.5N/mm2以上
塩化物量	0.30kg/m3以下
試験方法	日本道路公団規格(JHS)「無収縮モルタル品質管理試験方法」312-1992 によるプレミックス形と現場調合形で混和材が同一の場合はプレミックスのみ試験を行う

15　連続繊維シート巻き
材料・形状　[8.2.11]
採用した工法の規定を満足するもの
材質
引張り強度（含浸硬化後）
・2500Ｎ/mm2以上
・3000Ｎ/mm2以上
ヤング係数（含浸硬化後）
・2.35×10^5Ｎ/mm 程度
・2.00×10^5Ｎ/mm 以上
工法　[8.2.11]
※（財）日本建築防災協会の評価を受けた工法
・
下地調整
仕上げモルタルの除去
※行う　・行わない
柱の隅角部の面取り　[8.21.7]
※工法の評価内容による

⑯ 鉄筋の継手
継手工法　[8.3.4]

継手方法	呼び名（mm）	適用箇所
・ガス圧接		
・重ね継手		
・機械式継手		

柱の配筋　[8.3.4][図8.3.4]
帯筋の組立ての形の種別
・Ｈ形　・Ｗ－Ⅰ形　※Ｗ－Ⅲ形

⑰ 鉄筋のかぶり厚さ及び、間隔
鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ　[8.3.5][表8.3.6]
最少かぶり厚さは、目地底から算定する。
・耐久性上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さは下表による。

適用箇所	改修共仕表8.3.5に加える寸法（mm）
柱、梁、壁及び庇などの外気に接する打ち放し面	※ １０

特記事項

工事名　石動東部保育所耐震補強工事	設計　一級建築士　大臣登録　第108041号　可部谷　一成	検図	No.　A －01
図　名　特記仕様書１	縮尺	月日	

可部谷建築事務所
一級建築士事務所富山県知事登録第（7）557号
管理建築士　一級建築士　大臣登録第108041号　可部谷　一成

⑱ 打増し壁に用いるシアコネクタ

現場打ちコンクリート壁の打増し部に用いる既存部とのシアコネクタ [8.3.7]
種類 ※「７ あと施工アンカーの材料」による
間隔（㎜） ※500×500 ・図示

19 圧接完了後の試験

圧接部の確認試験 [8.3.9]
※超音波探傷試験
・引張試験

20 高い強度のコンクリート

設計基準強度（N/㎜2） [8.9.1]
・27 ・30 ・33 ・36
適用箇所（ ）
混和材料 [8.9.3]
※混和剤
※高性能ＡＥ減水剤標準形又は遅延形
・

㉑ あと施工アンカーの施工

穿孔前の埋込み配管等の探査
範囲 ※あと施工アンカー施工部分全て ・図示 [8.11.2]
方法 ※探査器により探査し、配管等の位置の墨出を行う
探査器の種類（ ）
・はつり出しによる

22 鉄骨工作仮組

・行う ※行わない [8.12.9]

23 開先形状

※国土交通省大臣官房官庁営繕部「建築鉄骨設計基準」により、記号は図示による。 [8.14.4]
・

24 スカラップ

※改良型スカラップ [8.14.7]

25 溶接部の試験

完全溶込み溶接部の超音波探傷試験 [8.14.11]
※行う

26 錆止め塗料

耐火被覆材の接着する面の塗装 [8.16.3]
・行う（※JIS K5622 ・ ）
※行わない

27 耐火被覆

[8.17.2]

種 別		所要性能及び適用構造区分
・ラス張りモルタル塗り		
・耐火材吹付け	・乾式吹付けロックウール	
	・半乾式吹付けロックウール	
	・湿式ロックウール	
・耐火板張り		

㉘ 既存コンクリート面の目荒し

適用範囲 [8.19.3]
※既存コンクリートとの打継ぎ面
※既存コンクリートとモルタル又はグラウト材の充てん部の接合面
・
目荒らしの範囲
※柱・梁面 打継ぎ面又は接合面全面の3/4以上
※壁面 打継ぎ面又は接合面全面の1/3程度
・
目荒らしの程度
※平均深さ ５～10㎜ で最大深さ 15㎜ 程度の凹部を施す

㉙ 増設・補強工事のコンクリートの打込み

工法の種類 [8.19.8][8.21.5]
(・)流し込み工法
・圧入工法

30 柱補強

溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法 [8.21.5]
柱頭柱脚の隙間部間の型枠
※ポリスチレンフォーム保温材等を埋込む ・図示

㉛ スリットの施工

スリット部の配管等の探査 [8.22.2]
※探査器により探査し、配管等の位置に墨出を行う
・はつり出し

32 アンカーボルトの保持及び、埋込み工法

種 別
・構造用アンカーボルト （※図示 ・ ）
・建方用アンカーボルト （・Ａ種 ※Ｂ種 ・Ｃ種）

33 柱底均しモルタルの工法

種 別 ※Ａ種 ・Ｂ種

6 塗り仕上げ外壁改修工事

1 仕上げ塗材仕上げ

種類、仕上げの形状、工法 [4.1.4][4.2.2][表4.2.3][表4.2.4]

種 類	呼び名	仕上げの形状
・薄付け仕上塗材	・外装薄塗材Ｓｉ	・砂壁状 ・ゆず肌状 ・さざ波状
	・可とう形外装薄塗材Ｓｉ	・砂壁状 ・ゆず肌状 ・さざ波状
	・外装薄塗材Ｅ	・砂壁状 ・着色骨材砂壁状
	・可とう形外装薄塗材Ｅ	・砂壁状 ・ゆず肌状 ・さざ波状
	・防水形外装薄塗材Ｅ	・ゆず肌状 ・さざ波状 ・凹凸状
	・外装薄塗材Ｓ	砂壁状
・厚付け仕上塗材	・外装厚塗材Ｃ	・吹放し ・凸部処理 ・平たん状 ・凹凸模様 ・ひき落とし ・掻き落とし
	・外装厚塗材Ｓｉ	・吹放し ・凸部処理 ・平たん状
	・外装厚塗材Ｅ	・凹凸模様 ・ひき落とし
	・複層塗材Ｅ	溶媒 ※水系 ・溶剤系
	・複層塗材ＲＥ	樹脂 ※アクリル系
・複層仕上塗材	・複層塗材ＣＥ	・ゆず肌状 ・凸部処理 ・凹凸模様
	・複層塗材Ｓｉ	上塗材
	・複層塗材Ｅ	溶媒 ※水系 ・溶剤系
	・複層塗材ＲＥ	樹脂 ※アクリル系
	・可とう形複層塗材ＣＥ	・ゆず肌状 ・凸部処理 ・凹凸模様
	・複層塗材ＲＳ	・ゆず肌状 ・凸部処理 ・凹凸模様
	・防水形複層塗材ＣＥ	・ゆず肌状 ・凸部処理 ・凹凸模様
	・防水形複層塗材Ｅ	外観 ※つやあり ・つやなし
	・防水形複層塗材ＲＥ	・メタリック
	・防水形複層塗材ＲＳ	樹脂 ※アクリル系
・可とう形改修用仕上塗材	・可とう形改修塗材Ｅ	・平たん状 ・さざ波 ・ゆず肌状
	・可とう形改修塗材ＲＥ	
	・可とう形改修塗材ＣＥ	

防火材料 ・建築基準法に基づく指定又は認定を受けた材料とする。 [4.2.2]

⑦ 塗装改修工事

① 材料

建物内部に使用するユリア樹脂等を用いたホルムアルデヒドの放散量 [7.1.3]
※規制対象外 ・第三種
屋内の壁及び天井仕上げ材は、防火材料とする。

② 下地調整

既存に塗装がなく、新規に塗装を行う場合の下地調整 [表7.2.4][表7.2.7]

下地面の種類	下地調整の種別	適用箇所
モルタル面、プラスター面	・ＲＡ種	
	※ＲＢ種	上記以外全て
せっこうボード面、その他ボード面	・ＲＡ種	
	※ＲＢ種	上記以外全て

既存モルタル下地面等のひび割れ部の補修 [表7.2.4～表7.2.6]
※行わない ・行う（補修範囲及び補修方法は図示）

③ 錆止め塗料塗り

[7.3.3][表7.3.3][表7.3.4]

下地の種類	塗替えの種別	新規塗りの種別	
鉄鋼面	・Ａ種 ・Ｂ種 ※Ｃ種	見掛かり部分	※Ａ種 ・Ｂ種
		見隠れ部分	・Ａ種 ※Ｂ種
亜鉛めっき面	・Ａ種 ・Ｂ種 ※Ｃ種	鋼製建具等	※Ａ種 ・Ｂ種
		その他	・Ａ種 ※Ｂ種

④ 合成樹脂調合ペイント塗り

[7.4.3]～[7.4.5][表7.4.1]～[表7.4.3]

下地の種類	塗替えの種別		新規塗りの種別	
木部	・Ａ種 ※Ｂ種 ・Ｃ種		※Ａ種 ・Ｂ種	下地調整は各表の注意書きによる
鉄鋼面	・Ａ種 ※Ｂ種 ・Ｃ種		・Ａ種 ※Ｂ種	
亜鉛めっき面	鋼製建具	※Ａ種 ・Ｂ種 ・Ｃ種	※Ａ種 ・Ｂ種	
	その他	・Ａ種 ※Ｂ種 ・Ｃ種		

5 フタル酸樹脂エナメル塗り

[7.5.2][7.5.3][表7.5.1][表7.5.2]

下地の種類	塗替えの種別	新規塗りの種別	
木部	・Ａ種 ※Ｂ種 ・Ｃ種	・Ａ種 ※Ｂ種	下地調整は各表の注意書きによる
鉄鋼面及び亜鉛めっき面	・Ａ種 ※Ｂ種 ・Ｃ種	・Ａ種 ※Ｂ種	

6 アクリル樹脂系非水分散系塗料

[7.6.2][7.6.3][表7.6.1]

下地の種類	工程等	塗替えの種別	新規塗りの場合
コンクリート面、モルタル面等	下地調整	・ＲＡ種 ※ＲＢ種 ・ＲＣ種	「塗料その他」の欄による
	塗り種別	・ Ａ種 ※ Ｂ種 ・ Ｃ種	・Ａ種 ※Ｂ種

7 アクリル樹脂エナメル塗り

[7.7.2][7.7.3][表7.6.1][表7.7.1]

下地の種類	工程等	塗替えの種別	新規塗りの場合
コンクリート面、モルタル面等	下地調整	・ＲＡ種 ※ＲＢ種 ・ＲＣ種	7.7.2(b)による
	塗り種別	・ Ａ種 ※ Ｂ種 ・ Ｃ種	・Ａ種 ※Ｂ種

8 ２液形ポリウレタンエナメル塗り

[7.8.2～7.8.4][表7.8.1～表7.8.3]

下地の種類	塗替えの種別	新規塗りの種別	
鉄鋼面	・Ａ種 ・Ｂ種	※Ａ種 ・Ｂ種	下地調整は各表の注意書きによる
亜鉛めっき鋼面	・Ａ種 ・Ｂ種	Ａ種又はＢ種	
コンクリート面及び押出成形セメント板面	・Ａ種 ・Ｂ種	※Ａ種 ・Ｂ種	

9 アクリルシリコン樹脂エナメル塗り

[7.9.2～7.9.4][表7.9.1～表7.9.3]

下地の種類	塗替えの種別	新規塗りの種別	
鉄鋼面	・Ａ種 ※Ｂ種	※Ａ種 ・Ｂ種	下地調整は各表の注意書きによる
亜鉛めっき鋼面	・Ａ種 ※Ｂ種	Ａ種又はＢ種	
コンクリート面及び押出成形セメント板面	・Ａ種 ※Ｂ種	Ａ種又はＢ種	

10 常温乾燥形ふっ素樹脂エナメル塗り

[7.10.2～7.10.4][表7.10.1～表7.10.3]

下地の種類	塗替えの種別	新規塗りの種別	
鉄鋼面	・Ａ種 ・Ｂ種	※Ａ種 ・Ｂ種	下地調整は各表の注意書きによる
亜鉛めっき鋼面	・Ａ種 ・Ｂ種	Ａ種又はＢ種	
コンクリート面及び押出成形セメント板面	・Ａ種 ・Ｂ種	※Ａ種 ・Ｂ種	

11 つや有合成樹脂エマルションペイント塗り

塗替えの種別 ・Ａ種 ※Ｂ種 ・Ｃ種 [7.11.2][表7.11.1]
新規の塗りの種別 ・Ａ種 ※Ｂ種
屋内水系塗料塗り [7.12.3]～[7.12.3][表7.12.2][表7.12.4]

下地の種類	塗替えの種別	新規塗りの種別
木 部	・Ａ種 ※Ｂ種 ・Ｃ種	※Ａ種 ・Ｂ種 ・Ｃ種
鉄鋼面	・Ａ種 ※Ｂ種 ・Ｃ種	・Ａ種 ・Ｂ種
亜鉛めっき鋼面	・Ａ種 ※Ｂ種 ・Ｃ種	・Ａ種 ・Ｂ種

⑫ 合成樹脂エマルションペイント塗り

塗替えの種別 ・Ａ種 ※Ｂ種 ・Ｃ種 [7.12.2][表7.12.1]
新規の塗りの種別 ・Ａ種 ※Ｂ種

13 合成樹脂エマルション模様塗り

[7.14.2][表7.14.1]

塗替えの場合			新規塗りの種別
既存塗膜	下地調整	塗替えの種別	・Ａ種 ※Ｂ種 下地調整は各表の注意書きによる
同一塗料塗り面	ＲＢ種の場合	※Ａ種	
	ＲＣ種の場合	※C-3種	
平滑な塗料塗り面	ＲＢ種の場合	・Ａ種 ※Ｂ種	
	ＲＣ種の場合	・C-1種 ・C-2種	

14 ウレタン樹脂ワニス塗り

塗替えの種別 ・Ａ種 ※Ｂ種 [7.15.2][表7.15.1]
新規の塗りの種別 ・Ａ種 ※Ｂ種

15 クリヤラッカー塗り（ＣＬ）

塗替えの種別 ・Ａ種 ※Ｂ種 [7.16.2][表7.16.1]
新規の塗りの種別 ・Ａ種 ※Ｂ種

⑧ 内装改修工事

① 基本要求品質

(19.1.2)
特記以外の建物内部に使用するユニット及びその他工事の既製品等の品質、又は製品を構成する材料のホルムアルデヒドの放散量
※規制対象外 ・第三種

② 改修範囲

既存壁の撤去に伴う当該壁の取合う天井、壁、床の改修範囲 [6.1.3]
※壁厚程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う
・図示の範囲
天井内の既存壁の撤去に伴う当該壁の取合う天井の改修範囲 [6.1.3]
※壁面より両側600㎜程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う
(・)図示の範囲
天井の撤去に伴う取合部の壁面の改修 [6.1.3]
※既存のまま
(・)図示の範囲

3 既存床の撤去、下地補修

ビニル床シート等の除去 ※仕上げ材のみ（接着剤とも） [6.2.2]
・下地モルタルとも（※図示の範囲 ・除去範囲全て）
合成樹脂塗り床材の除去工法 ・機械的除去工法 ・目荒工法 [6.2.2]
改修後の床の清掃範囲 ※改修箇所の室内 [6.2.2]

④ 既存壁の撤去、下地補修

間仕切壁撤去に伴う他の構造体の補修 [6.3.2][4.4.9]
※図示
・モルタル塗り
仕上げ厚又は全塗厚が25㎜を超える場合の処置
・適用する（範囲は図示）
※ｽﾃﾝﾚｽ製ｱﾝｶｰﾋﾟﾝを、縦横 200㎜ 程度の間隔に打ち込み、ｽﾃﾝﾚｽﾗｽ等を張る。
・図示

⑤ 木下地等

木材の品質 ※改修標仕6.5.2による ・市販品 [6.5.2][表6.5.2][表6.5.3]
保存処理木材の適用箇所は改修共仕6.5.3(a)(2)による
代用樹種 ※改修標仕表6.5.4による [6.5.2][表6.5.4]
・代用樹種を適用しない箇所（ ）

6 集成材

ホルムアルデヒドの放散量 [6.5.2]
※規制対象外 ・第三種

品 名	規格・品質	芯材の樹種	化粧単板の樹種
※集成材	※一般材	※たも ・なら ・しおじ	
・構造用集成材	※１級 ・２級	・	
・造作用集成材	※Ａ種 ・Ｂ種	・	
・化粧ばり造作用集成材	※Ａ種 ・Ｂ種	・	・

⑦ 接着剤

木工事に使用する接着剤に含まれる可塑剤は、難揮発性とする。 [6.5.2]
壁紙施工用でん粉系接着剤、ユリア樹脂等を用いた接着剤のホルムアルデヒドの放散量 [6.11.6]
※規制対象外 ・第三種 [6.14.2]

8 防腐・防蟻処理

防腐処理 ※行う （適用範囲 ※改修標仕6.5.2(h)(3)による ・図示） [6.5.2]
防蟻処理 ・行う （適用範囲 ） [6.5.2]
防腐・防蟻剤は、クロルピリホス等を含まない非有機リン系の表面処理用木材保存剤とし、種類及び品質等が確認できる資料を監督職員に提出し承諾を受ける。

防腐・防蟻処理の方法
現場における加工が生じた場合には、加工した箇所に対し、現場にて表面処理用木材保存剤を塗布することとする。

9 床板張り用合板等

ホルムアルデヒドの放散量 [6.5.2]
※規制対象外 ・第三種
下張り用床板及び畳下床板の材料 [6.5.2][表6.5.11]

使用区分	材 料	厚さ（㎜）
下張り用床板の材料	※合 板	※１２
畳下床板	・パーティクルボード	・
	・繊維板（ＭＤＦ）	・

10 軽量鉄骨天井下地

屋外の場合の形式及び寸法 [6.6.3][表6.6.2]
※下表以外は、6.6.3及び表6.6.2による

施行箇所	下地材の間隔（㎜）		
	野縁受、吊りボルト、インサート		野 縁
	中央部	周辺部	

ただし、建築基準法に基づき指定する条件により、定まる風圧力に対応した工法を1.2.2［施工計画書］による品質計画で定める。

既存の埋込インサート ・使用する ・使用しない [6.6.4]
あと施工アンカーの引抜き試験 ・行う ・行わない [6.6.4]
屋外の場合の試験
荷重 ・400N
箇所数 ・当該階において３箇所程度 ・図示
[6.6.4]
天井下地材における耐震性を考慮した補強 ・行う 補強箇所 ※ 図示
補強方法 ※ 図示

11 ビニル床シート張り

[6.8.2][6.8.3]

種 類	JISの記号	色 柄	厚さ（㎜）
※発泡層のないもの	※ＮＣ	※無地 ・マーブル柄	※2.5
・発泡層のあるもの		※柄物 ・無地	
・			

再生ビニル樹脂系材料の合計重量が、製品の総重量比で 15%以上使用されていること。
（PFの場合を除く。） [6.8.3]
工法 ※熱溶接工法 ・突付け（施工箇所： ）

12 ビニル床タイル張り

[6.8.2]

種 類	JISの記号	厚さ（㎜）	備 考
※コンポジションビニル床タイル（半硬質）	ＣＴ	※２	
・コンポジションビニル床タイル（軟質）	ＣＴＳ	・	
・ホモジニアスビニル床タイル	ＨＴ	・	
・置敷きビニル床タイル	ＨＴＬ	・	

再生ビニル樹脂系材料の合計重量が、製品の総重量比で 15%以上使用されていること。

13 帯電防止床タイル張り

[6.8.2]

種 類	厚さ（㎜）	性 能
・コンポジションビニル床タイル	※ ２	体積抵抗値（JIS K6911による） 1.0×10^9Ω以下、または、 漏えい抵抗値（JIS A1454による） 1.0×10^10Ω未満
・ホモジニアスビニル床タイル	※4.0又は4.5	
・	・	
・	・	

14 誘導用、注意喚起用床材

視覚障害者用タイル [6.8.2]

適用箇所	種 類	寸法（㎜）	形 状
屋 内	・塩化ビニル系	※300×300	ﾌﾞﾛｯｸﾊﾟﾀｰﾝはJIS T9251による 色彩は黄色とする
	・レジンコンクリート系	※300×300	
	・磁器又はせっ器タイル	・	
屋 外	・コンクリート系	・	
	・磁器又はせっ器タイル	・	

15 ビニル幅木

高さ（㎜） ※60 ・75 [6.8.2]

16 カーペット敷き

防炎性能は、消防法で定める防炎性能を有し、登録されているものとする。 [6.9.2]
・織じゅうたん [6.9.2][6.9.3][表6.9.1][表6.9.4]

織り方	種 別	パイル形状	帯電性	色 柄
・ｳｨﾙﾄﾝｶｰﾍﾟｯﾄ	・Ａ種	・カットパイル	人体帯電圧	※単一色（無地）
・ﾀﾞﾌﾞﾙﾌｪｰｽｶｰﾍﾟｯﾄ	・Ｂ種	・ループパイル	※３kv以下	・柄物（標準品）
・ｱｷｽﾐﾝｽﾀｰｶｰﾍﾟｯﾄ	・Ｃ種	・カット、ループ併用	・	・

・タフテッドカーペット [6.9.2][6.9.3][表6.9.2]

パイル形状	パイル長（㎜）	工 法	帯電性
・カットパイル	※5～7 ・	※全面接着工法 ・グリッパー工法	人体帯電圧 ※３kv以下 ・
・ループパイル	※4～6 ・		
・レベルループパイル	※４		
・カット、ループ併用	・		

・タイルカーペット [6.9.2][6.9.3][表6.9.2]

種 別	パイル形状	電気抵抗値（Ω）	施工箇所
※第一種	※ループパイル	※適用しない	
・第二種	・カットパイル	・10^9Ω以下	

17 合成樹脂塗り床

ユリア樹脂等を用いた塗料のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外 ・第三種
[6.10.3][表6.10.3～表6.10.7]

種 別	仕上げの種類
・弾性ウレタン塗り床材	※平滑仕上げ ・防滑仕上げ ・つや消し仕上げ
・エポキシ樹脂塗り床材	※薄膜流し展べ仕上げ ・厚膜流し展べ仕上げ（※平滑 ・防滑） ・樹脂モルタル仕上げ（※平滑 ・防滑） ・防滑仕上げ

⑱ フローリング張り

ホルムアルデヒドの放散量 [6.11.2]
※規制対象外 ・第三種
フローリング張りの品名、工法 [6.11.2～6.11.7][表6.11.1～表6.11.4]

品 名	樹 種	工 法	種 別	仕上塗装等
※天然木化粧複合フローリング	※なら ・ひのき	※釘どめ工法	※C種	※塗装品 ・無塗装品
・	・	・		・
・	・	・		・

19 畳敷き

[6.12.2][表6.5.9][表6.12.1]

下地の種類	畳の種別
改修標仕表6.5.9による床組	・Ａ種 ※Ｂ種 ・Ｃ種 ・Ｄ種（・ ・ ）
ポリスチレンフォーム床下地	※Ｃ種 ・Ｄ種（・ ・ ）

畳床に使用する繊維板原材料のホルムアルデヒドの放散量
※規制対象外 ・第三種

⑳ せっこうボードその他のボード張り

合板類、パーティクルボード、ＭＤＦのホルムアルデヒドの放散量 [6.13.2]
※規制対象外 ・第三種
[6.13.2][表6.13.1]

種 類	JISの記号	厚さ（㎜）、規格等	
・硬質木毛セメント板	HW	・15 ・20 ・25	再生の木質材又は植物繊維の質量比割合が50%以上であること。但し、体積比20%以下の接着剤、混和剤等の質量は除くことが出来る。
・普通木毛セメント板	NW	・15 ・20 ・25	
・ﾐﾃﾞｨｱﾑﾃﾞﾝｼﾃｨﾌｧｲﾊﾞｰﾎﾞｰﾄﾞ	MDF	・	
・パーティクルボード		・	
(・)けい酸カルシウム板	0.8FK	タイプ２（無石綿）	
(・)ロックウール化粧吸音板	DR	※フラットタイプ（※9 ・12 ・ ） ・凹凸タイプ（※12 ・15 ・19 ・ ）	
・ロックウール化粧吸音板（軒天井用）		※フラットタイプ 9（（個）不燃） ・凹凸タイプ （※12 ・15）（（個）不燃）	
(・)せっこうボード	GB-R	12.5(不燃)	
・不燃積層せっこうボード	GB-NC	9.5(不燃) 化粧無（下地張り用） 化粧有（トラバーチン模様）	
・シージングせっこうボード	GB-S	12.5（（個）不燃）	
・強化せっこうボード	GB-F	※12.5（不燃）・15.0（不燃）	
・せっこうラスボード	GB-L	9.5	
・化粧せっこうボード（木目）	GB-D	12.5（不燃）幅440㎜程度 模様（※柾目 ・板目） 専用下地材付き	
・メラミン樹脂化粧板		JIS K6903による 厚さ1.2	
・難燃合板			

軽量鉄骨下地ボード遮音壁の遮音シール材 [6.13.2][表3.7.1]
※適用する ・適用しない

21　吸音材

[表6.13.1]

種　類	JISの記号	厚さ（mm）
・ロックウール吸音ボード１号	RW-B	※ 25
※グラスウール吸音ボード２号32K	GW-B	※ 25

(22) 壁紙張り

壁紙のホルムアルデヒドの放散量　※規制対象外　・第三種　[6.14.2]

施工箇所	壁紙の種類 紙製	繊維（織物）	プラスチック（ビニル）	無機質製	その他	防火性能の級別	備　考
						※不燃　・準不燃　・難燃	
						※不燃　・準不燃　・難燃	
						※不燃　・準不燃　・難燃	
						※不燃　・準不燃　・難燃	
						※不燃　・準不燃　・難燃	
						※不燃　・準不燃　・難燃	

モルタル、プラスター面の下地調整　[6.14.3][7.2.5][7.2.6][表7.2.5][表7.2.6]
　※ＲＢ種　・ＲＡ種（施工箇所：　　　　　）
せっこうボード面の下地調整　[6.14.3][表7.2.7]
　※ＲＢ種　・ＲＡ種（施工箇所：　　　　　）

(23) モルタル塗り

吸水調整材　[6.15.3]
4-1外壁改修工事共通事項の「２改修使用材料」による
既製目地材　※適用しない　・適用する　[6.15.3]

24　陶磁器質タイル

タイルの種類　[6.16.3]

施工箇所	形状寸法（mm）	再生材の適用	きじ 磁器	せっ器	陶器	うわぐすり 施ゆう	無ゆう	役物 あり	なし	色 標準	特注	備　考

役物：標準的な曲がり（小口、標準、二丁、屏風）の役物は一体成形とする

再生材料を用い焼成されたタイルとし、再生材料利用率は総原材料の重量比で２０％以上（複数の再生材料を用いる場合は、その合計）使用されているものとし、再生材に用いる原料の種類及び焼成前処理方法は下表による。ただし、再生材料は通常製造している同一工場からの廃材は除くものとする。

再生材に用いる原料の種類	焼成前処理方法
採石及び窯業廃土、無機珪砂(ｷﾗ)、鐵鋼ｽﾗｸﾞ、非鉄ｽﾗｸﾞ鋳物砂、陶磁器屑、石灰廃、廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ、建設廃材(汚泥を除く)、廃ｺﾞﾑ、廃ｶﾞﾗｽ、製紙ｽﾗｯｼﾞ、ｱﾙﾐｽﾗｯｼﾞ、磨き砂汚泥、石材屑、上水道汚泥、湖沼等の汚泥	前処理によらず対象
都市ごみ焼成灰	溶融スラグ化
下水道汚泥	焼成灰化又は溶融スラグ化

タイルの見本焼き　※行わない　・行う　[6.16.3]

壁タイル張りの工法　[6.15.5][表6.16.7]
　内装タイル　※壁タイル接着剤張り　・積上げ張り
　タイルの試験張り　※行わない　・行う　[6.16.3]
既製調合モルタル（張付け用）　[6.16.3]
　4-1外壁改修工事共通事項の「２改修使用材料」による

25　階段滑止め

材　種　ステンレスSUS304　(20.2.6)
形　状　ビニルタイヤ入り
　両端フラットエンド　※有り（・ステンレス製　※ビニル製）　・無し
幅（mm）　約３５
取付け工法　※接着工法　・埋込み工法

26　階段手すり

種　別	施工箇所
※集成材クリアラッカー仕上げ（市販品　径　約45mm、又は　約60mm）	
・ビニル製手すり（幅　約40mm）	

(27) 黒板及び ホワイトボード 掲示板

(20.2.8)

種　類		寸法（mm）	備　考
・黒板	※焼付け		※平面　・曲面　・ｽｸﾘｰﾝ付引分け
			※平面　・曲面　・ｽｸﾘｰﾝ付引分け
(・)ホワイトボード	※ほうろう	1200×1200	※平面　・ｽｸﾘｰﾝ付引分け
			※平面　・ｽｸﾘｰﾝ付引分け
(・)掲示板	※ほうろう	2400×1200	※ピン　マグネット対応

28　ロールスクリーン

(20.2.13)

操作方法	スクリーンの種類	品質等
・プルコード式（ストッパー付）	・無地	
・ワンタッチチェーン式	・柄物	
・チェーン式	・遮光タイプ	
・電動式	・	

30　ポリスチレンフォーム床下地材

畳下地　厚さ（mm）　※40　・65　・80
フローリング類　厚さ（mm）　※80　・95

(31) 収納家具、書架・物品棚

	品　質	主要構造部材の材料	形状、寸法(mm)	備　考
・収納家具	JIS S1033（ｵﾌｨｽ用収納家具）による	・鋼製 ・木製	・図示 ・	
・書架	JIS S1039（書架 物品棚）による	・鋼製 ・	・図示 ・	JIS S 1039による種類 ・１種　・２種　・３種
・物品棚		・鋼製 ・	・図示 ・	JIS S 1039による種類 ・５種　・６種　・７種
・移動式書架・物品棚		・図示 ・	・図示 ・	

ホルムアルデヒドの放散量　※ 規制対象外　・ 第三種

32　くつふきマット

市販品
材　質　・塩化ビニル製（コイル状　ステンレス製受枠）
　・ビニル製（ステンレス製受枠）
　・硬質アルミニウム製（受枠とも）
　・ステンレス製（受枠とも）

33　流し台ユニット

ホルムアルデヒドの放散量　※規制対象外　・第三種

種　類	寸法（L＝　mm）	適用内容	規格・品質等
・流し台	※1200　・1500　・1800	トラップ付き	※優良住宅部品（ｾｸｼｮﾅﾙｷｯﾁﾝⅠ　型）
・コンロ台	※600　・700	バックガード　※有り	
・つり戸棚	※1200　・900　・600		・
・水切り棚	※1200　・900	ｽﾃﾝﾚｽ製　※１段式	※市販品

(34) 屋内掲示板

枠の材質 (・) 木製
表面の材質　※塩ビ発泡シート張り

35　洗面カウンター

ホルムアルデヒドの放散量　※規制対象外　・第三種
材　料　・メラミン樹脂化粧板張り（心材：集成材）　・人工大理石（仕様は図示）
奥行き（mm）　・約450　・約600

特記事項

工事名	石動東部保育所耐震補強工事
図　名	特記仕様書３
設計	一級建築士　大臣登録　第108041号　可部谷　一成
縮尺	
検図	
月日	

可部谷建築事務所
一級建築士事務所富山県知事登録第（7）557号
管理建築士　一級建築士　大臣登録第108041号　可部谷　一成

道路

38,000

7,600 7,600 7,600 7,600 7,600

敷地境界線 38,600

敷地境界線 22,000

1,700 3,550 2,000 4,200 2,000 3,600 7,200 22,550

3,500

プロパン室

食品庫 配膳室 配膳台 雑庫 スロープ ポンプ室 EXP.J

WC 休憩室 廊下

UP UP

教材室 教材室

玄関 ホール 保育室 保育室 保育室

WC WC

道路

下足室 ロッカールーム 足洗場 テラス

UP

補強対象外

斜線部分耐震補強建物

WC

事務室

宿直室

医務室

押入

EXP.J

道路境界線 29,600

敷地境界線 25,300

7,800

11,800

3,600

補強対象外

前面道路

道路境界線 18,000

敷地境界線 18,500

敷地境界線 40,600

6,000



案内図

特記事項	工事名	石動東部保育所耐震補強工事	設計	一級建築士 大臣登録 第108041号 可部谷 一成	検図	可部谷建築事務所	No.
	図名	配置図・案内図	縮尺	1/200(A2) 1/(200√2)(A3)	月日	一級建築士事務所富山県知事登録第(7)557号 管理建築士 一級建築士 大臣登録第108041号 可部谷 一成	A－04

外部耐震ブレース設置
構造スリット新設
構造スリット新設
RC耐震補強壁設置
構造スリット新設

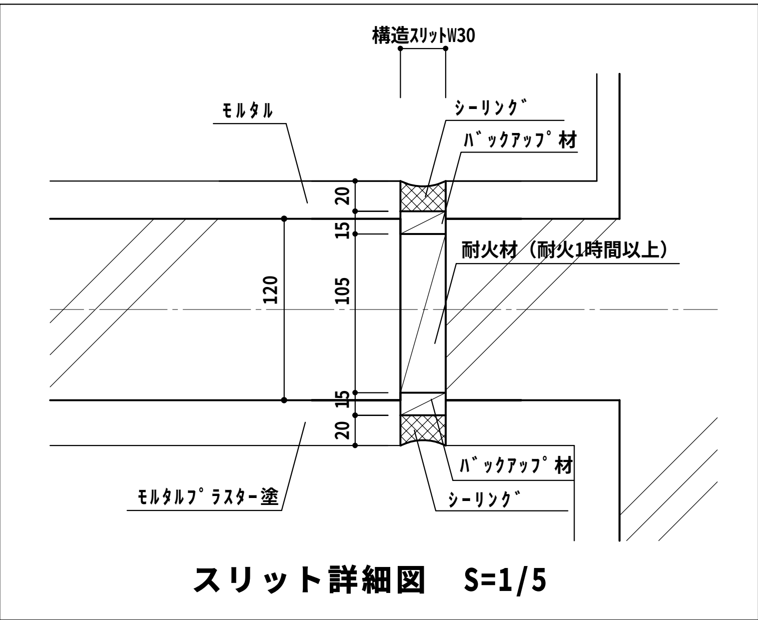
1 2 3 4 5 6
G F E D C B A

38,000
7,600 7,600 7,600 7,600 7,600
1,700 3,550 2,000 4,200 2,000 3,600 7,200 22,550

食品庫 配膳室 配膳台 WC 休憩室 玄関 ホール 下足室 ロッカールーム 足洗場 WC 押入 宿直室 事務室 プロパン室 雑庫 スロープ UP ポンプ室 EXP.J 廊下 教材室 保育室 WC 保育室 教材室 保育室 WC テラス UP EXP.JT

工事施工概要

1	保 育 室　④通り	ＲＣ耐震補強壁設置
2	配膳室外壁部	耐震ブレース取付　　既存グリーストラップ解体撤去
3	構造スリット	配膳室　雑庫　職員便所 の柱部　計3箇所　新設
4	保 育 室	掲示板　ピンマグネット対応　2400×1200　3ケ
		ホーローホワイトボード　1200×1200　3ケ
		マグネット専用　5300×900　2ケ

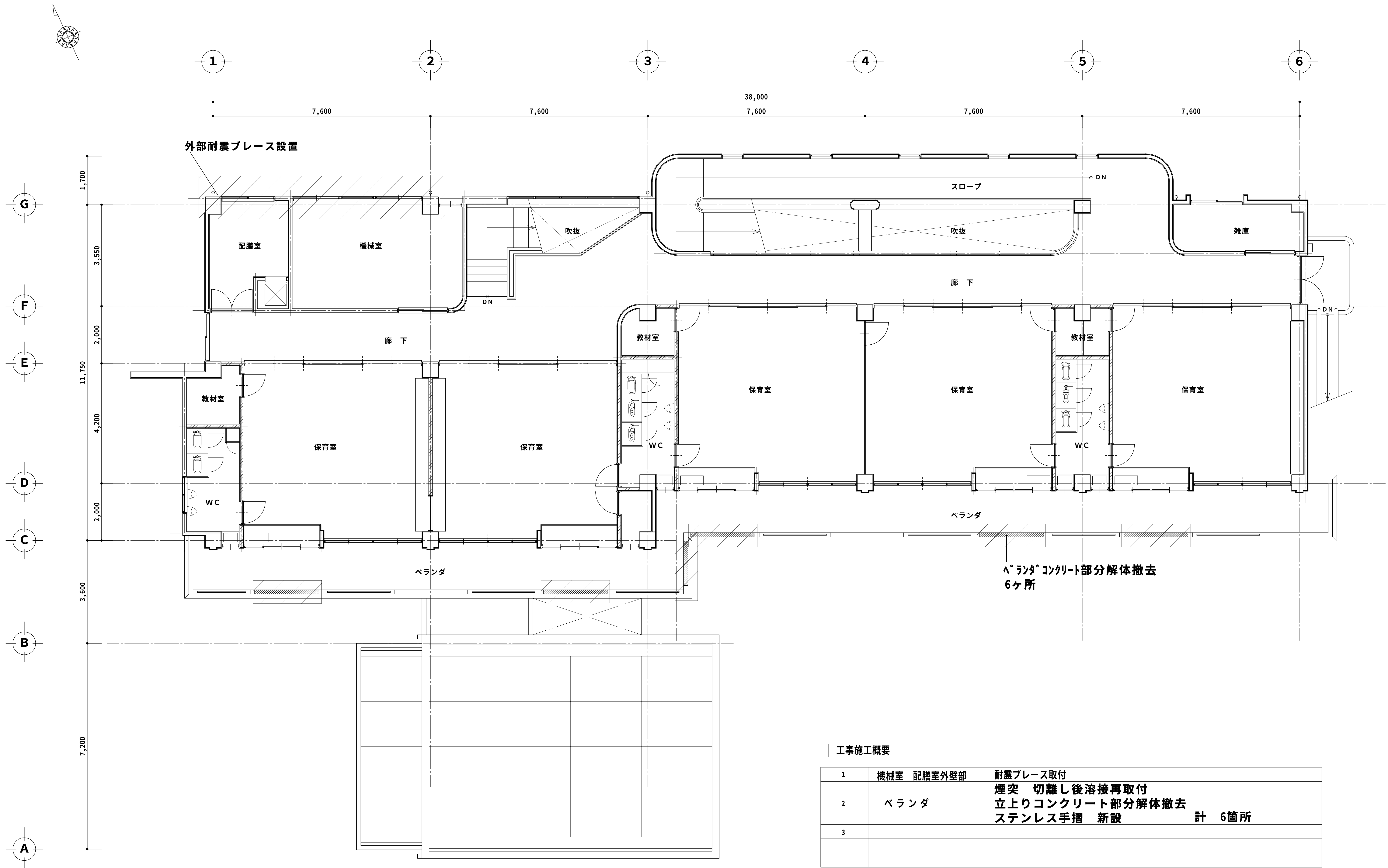


スリット詳細図　S=1/5

特記事項	工事名　石動東部保育所耐震補強工事	設計　一級建築士　大臣登録　第108041号　可部谷　一成	検図
	図 名　１ 階 平 面 図	縮尺　1/100(A2)　1/(100√2)(A3)　1/5(A2)　1/(5√2)(A3)	月日

可部谷建築事務所
一級建築士事務所富山県知事登録第（7）557号
管理建築士　一級建築士　大臣登録第108041号　可部谷　一成

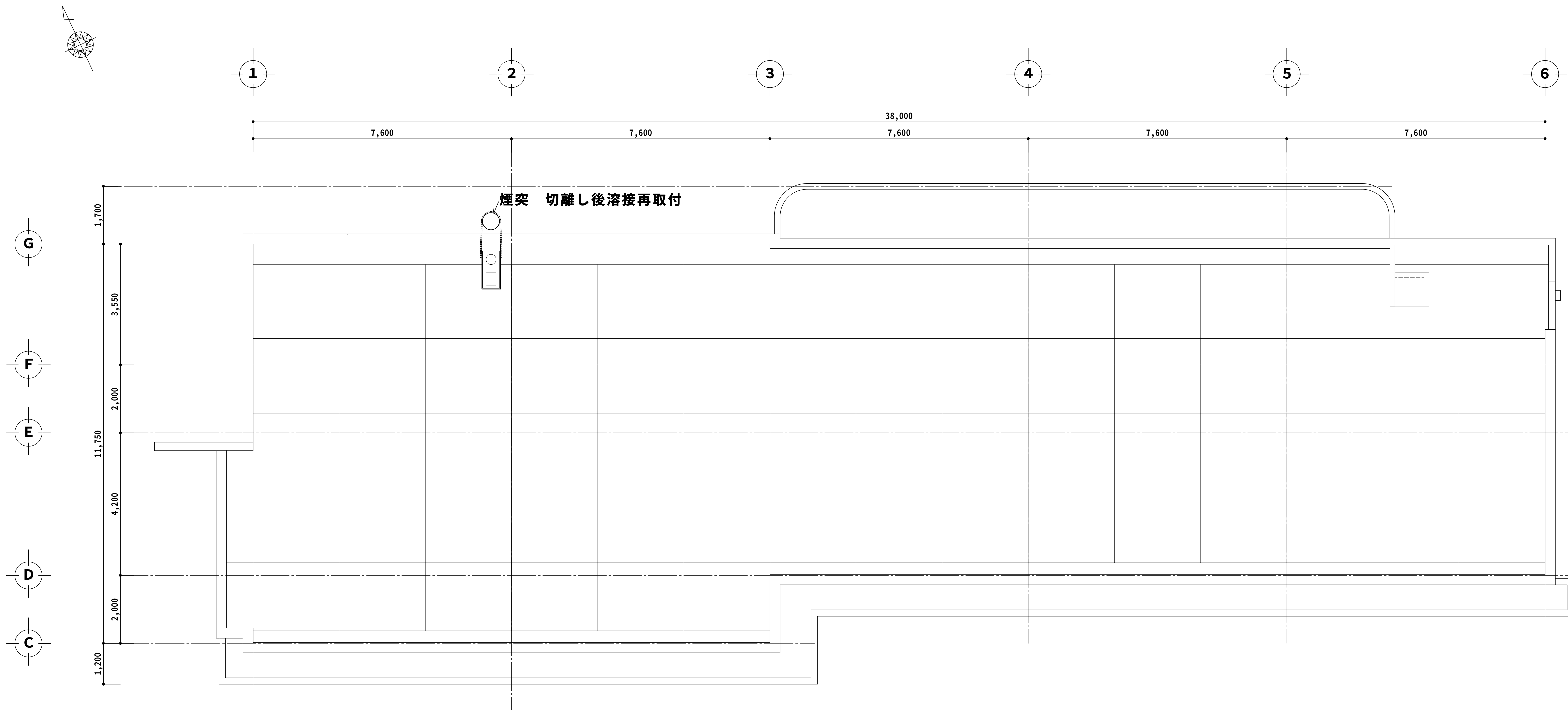
No.
A－05



工事施工概要

1	機械室　配膳室外壁部	耐震ブレース取付
		煙突　切離し後溶接再取付
2	ベランダ	立上りコンクリート部分解体撤去
		ステンレス手摺　新設　　　　計　6箇所
3		

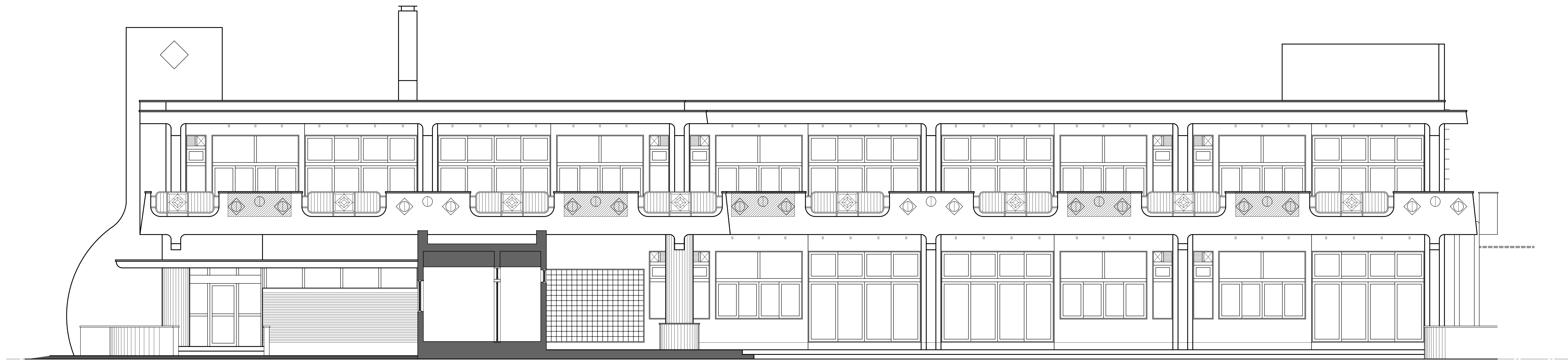
特記事項	工事名　石動東部保育所耐震補強工事	設計　一級建築士　大臣登録　第108041号　可部谷　一成	検図	可部谷建築事務所	No.
	図　名　２階平面図	縮尺　1/100(A2)　1/(100√2)(A3)	月日	一級建築士事務所富山県知事登録第（7）557号 管理建築士　一級建築士　大臣登録第108041号　可部谷　一成	A－06



特記事項	工事名 石動東部保育所耐震補強工事	設計 一級建築士 大臣登録 第108041号 可部谷 一成	検図
	図名 屋上平面図	縮尺 1/100(A2) 1/(100√2)(A3)	月日

可部谷建築事務所
一級建築士事務所富山県知事登録第（7）557号
管理建築士　一級建築士　大臣登録第108041号　可部谷　一成

No.
A－07



南立面図 S=1:100

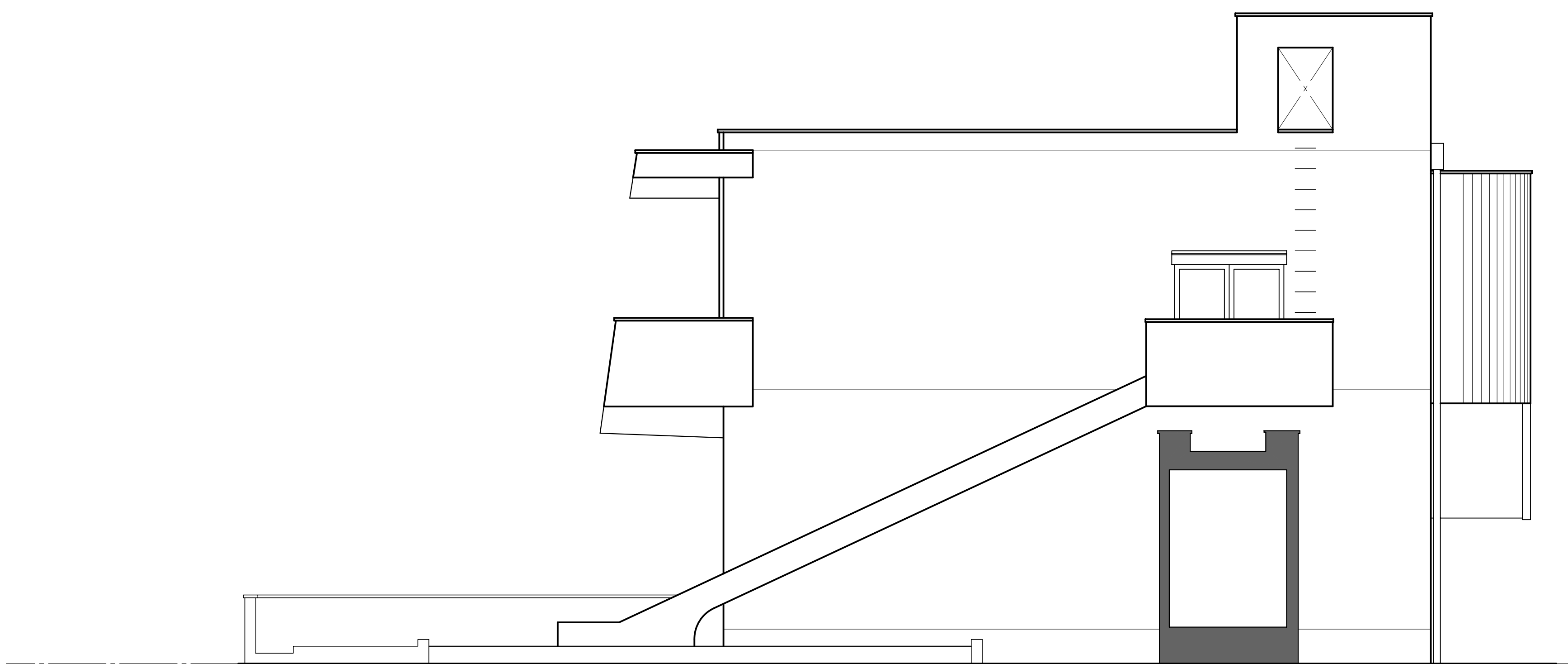


西立面図 S=1:100

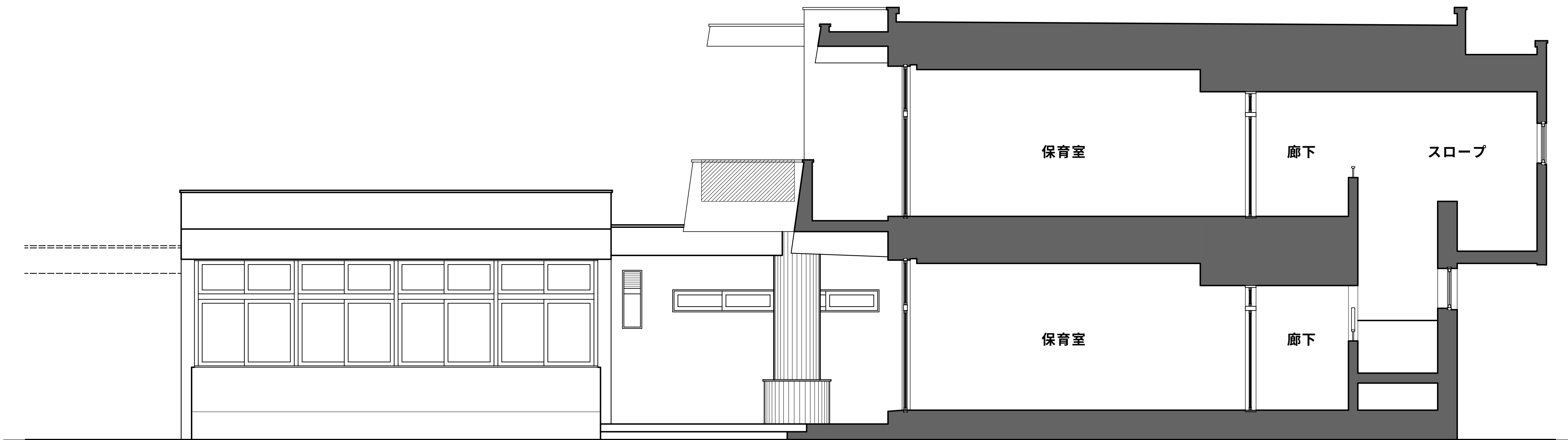
特記事項	工事名	石動東部保育所耐震補強工事	設計	一級建築士 大臣登録 第108041号 可部谷 一成	検図		可部谷建築事務所 一級建築士事務所富山県知事登録第（7）557号 管理建築士 一級建築士 大臣登録第108041号 可部谷 一成	No. A－08
	図 名	改修前立面図１	縮尺	1/100(A2) 1/(100√2)(A3)	月日			



北立面図 S=1:100

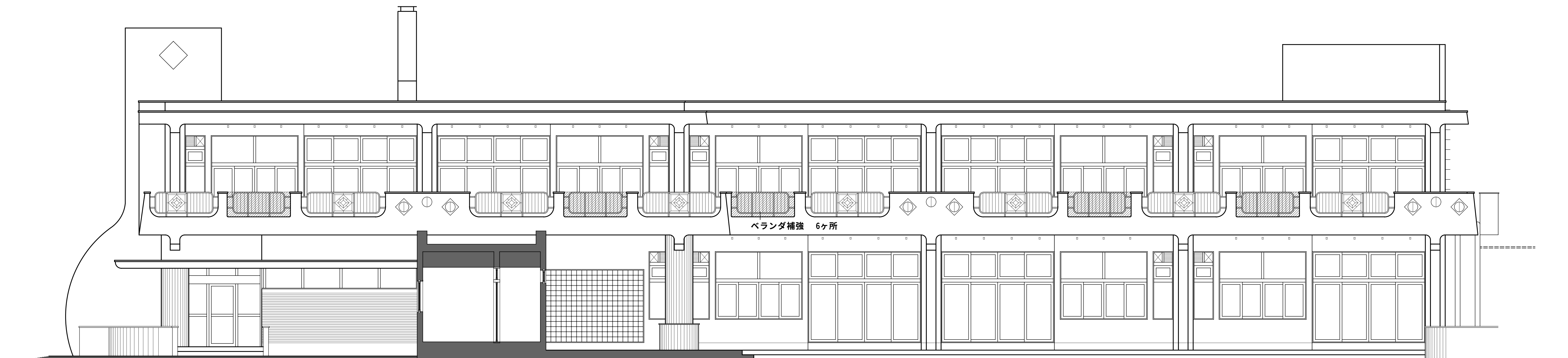


東立面図 S=1:100



東立面図 S=1:100

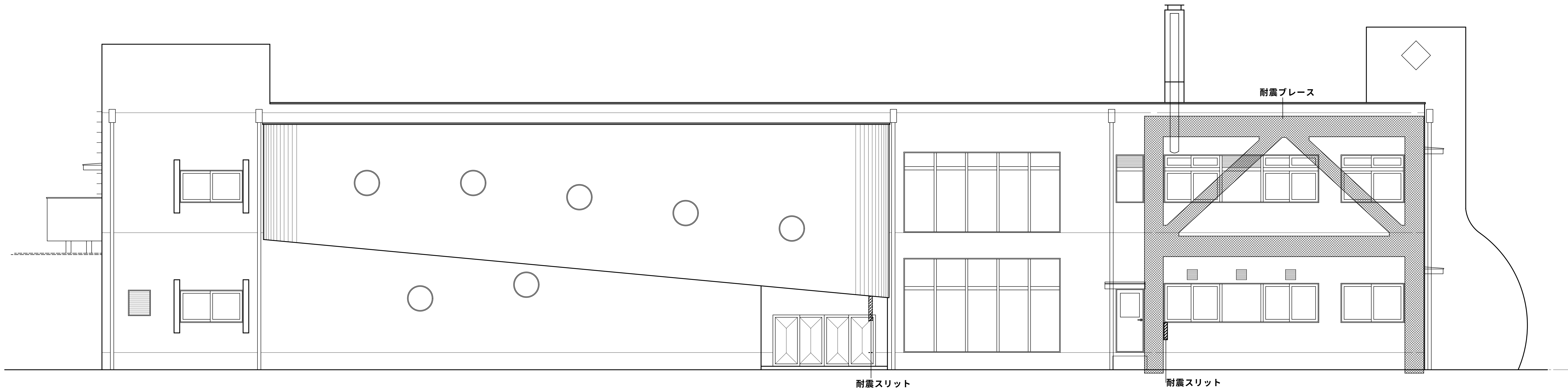
特記事項	工事名 石動東部保育所耐震補強工事	設計 一級建築士 大臣登録 第108041号 可部谷 一成	検図	可部谷建築事務所 一級建築士事務所富山県知事登録第（7）557号 管理建築士 一級建築士 大臣登録第108041号 可部谷 一成	No. A－09
	図 名 改修前立面図２	縮尺 1/100(A2) 1/(100√2)(A3)	月日		



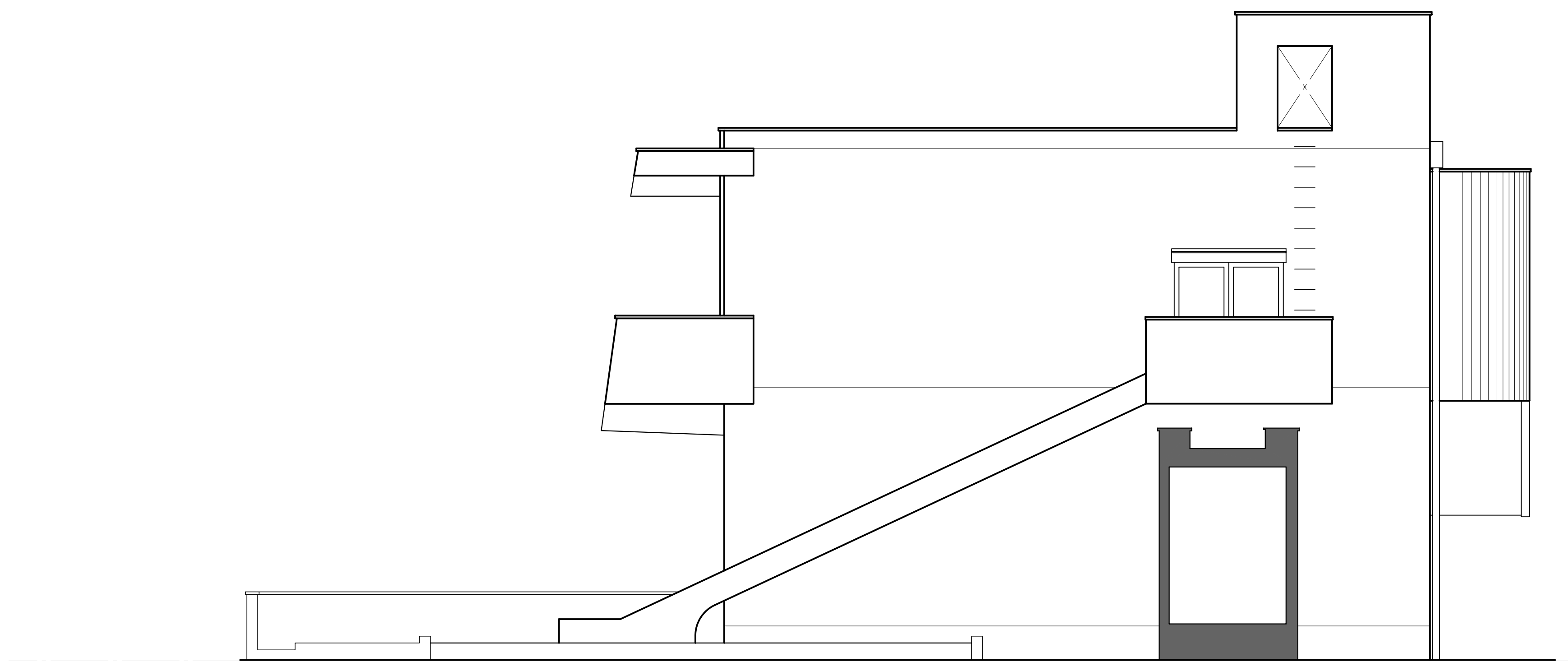
南立面図　S=1:100



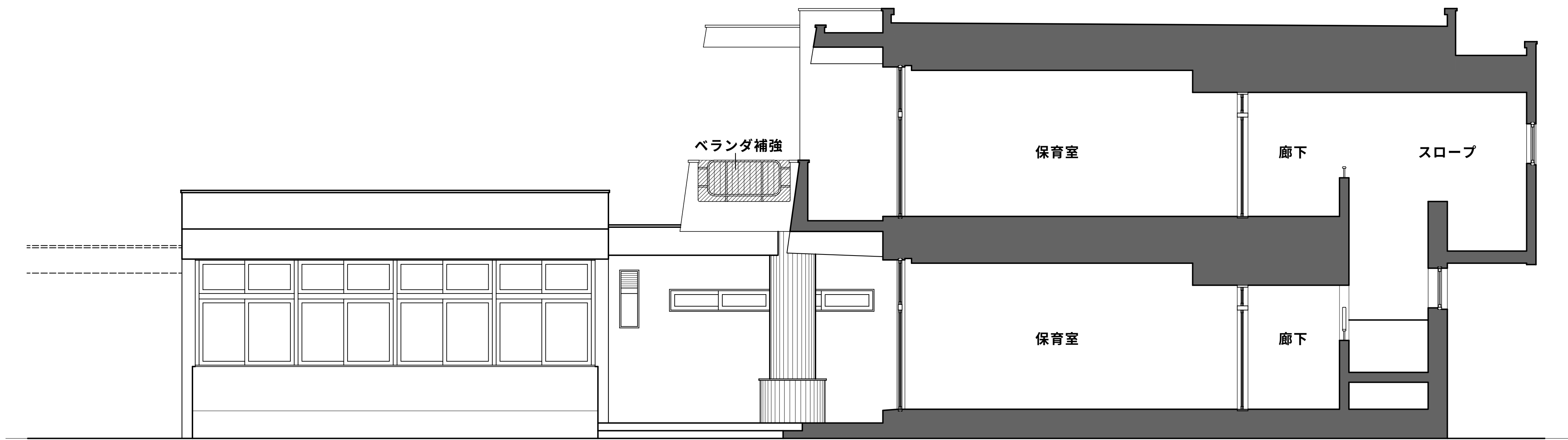
特記事項	工事名	石動東部保育所耐震補強工事	設計	一級建築士　大臣登録　第108041号　可部谷　一成	検図	可部谷建築事務所 一級建築士事務所富山県知事登録第（7）557号 管理建築士　一級建築士　大臣登録第108041号　可部谷　一成	No. A－10
	図名	改修後立面図１	縮尺	1/100(A2)　1/(100√2)(A3)	月日		



北立面図 S=1:100

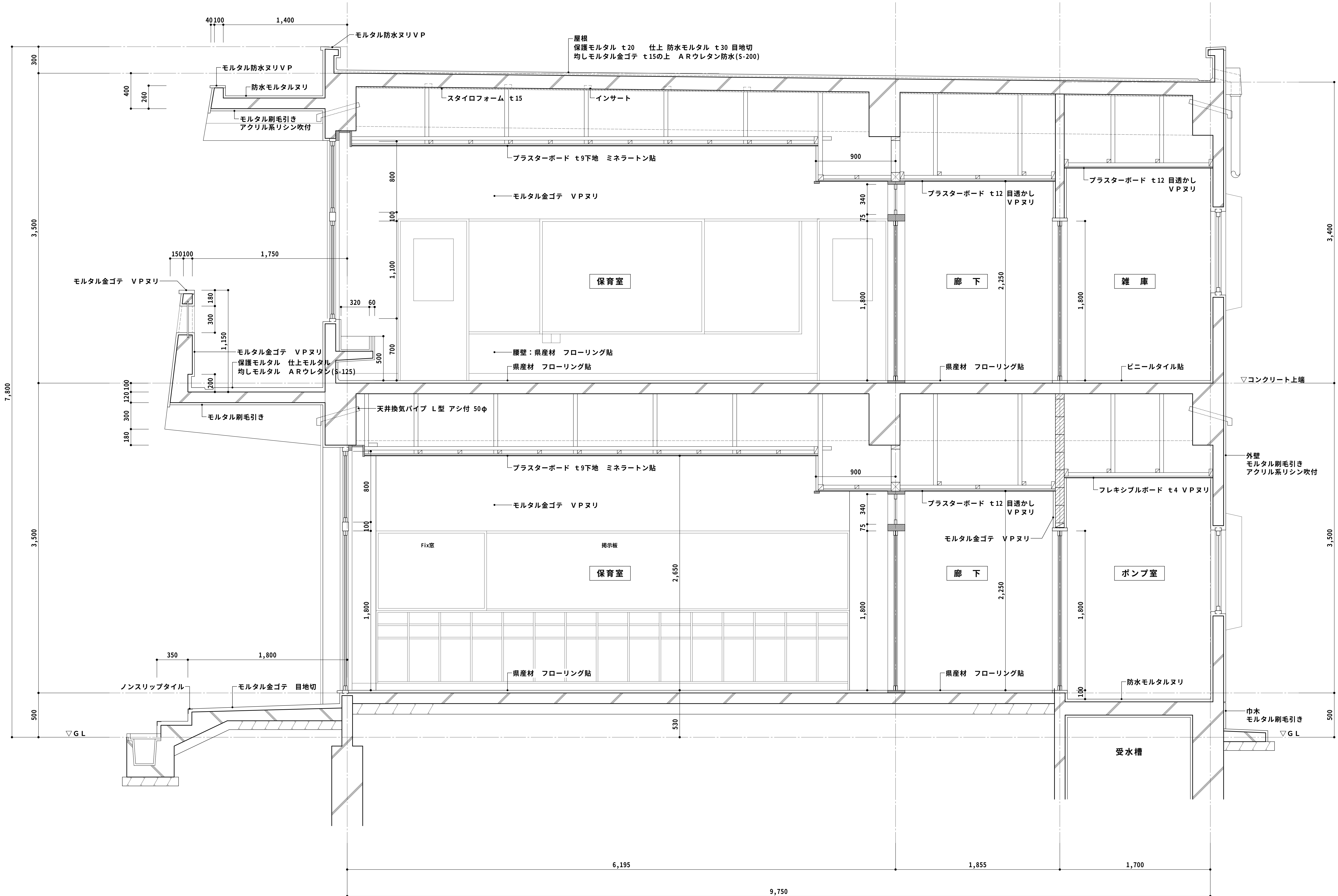


東立面図 S=1:100

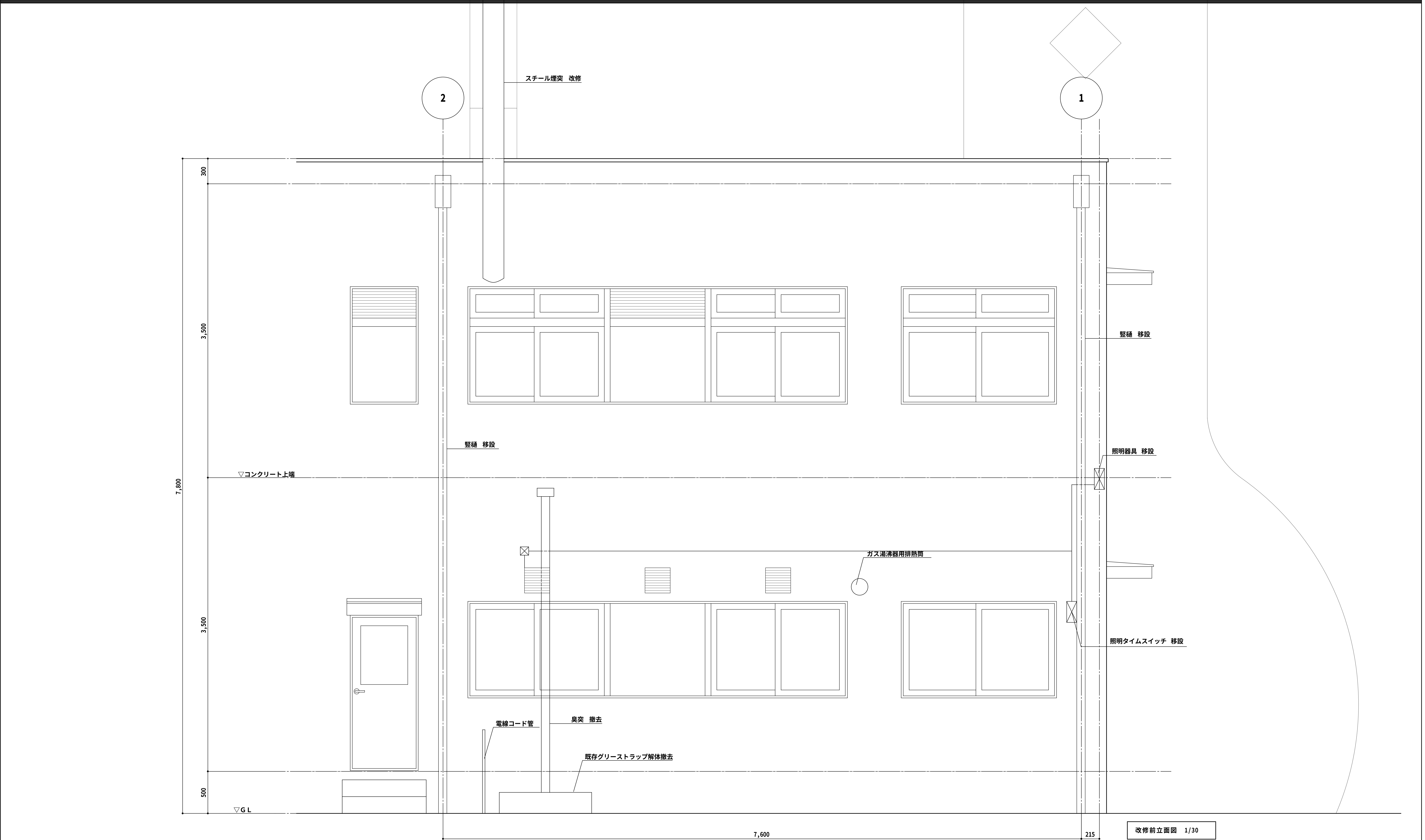


東立面図 S=1:100

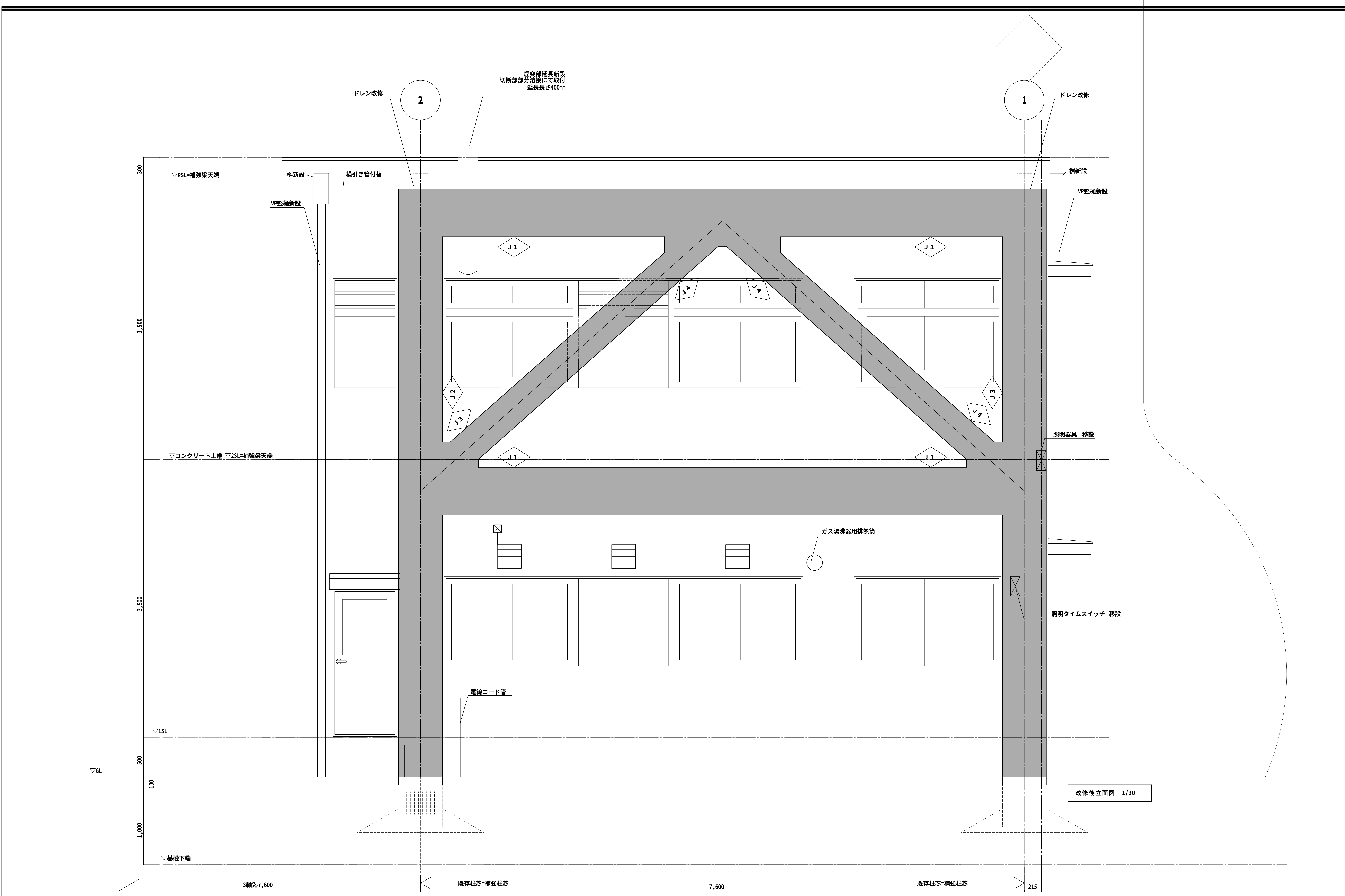
特記事項	工事名	石動東部保育所耐震補強工事	設計	一級建築士 大臣登録 第108041号 可部谷 一成	検図		可部谷建築事務所 一級建築士事務所富山県知事登録第（7）557号 管理建築士 一級建築士 大臣登録第108041号 可部谷 一成	No. A－11
	図名	改修後立面図２	縮尺	1/100(A2) 1/(100√2)(A3)	月日			



特記事項	工事名	石動東部保育所耐補強工事	設計	一級建築士　大臣登録　第108041号　可部谷　一成	検図	可部谷建築事務所	No.
	図　名	矩計図１	縮尺	1/30(A2)　1/(30√2)(A3)	月日	一級建築士事務所富山県知事登録第（7）557号 管理建築士　一級建築士　大臣登録第108041号　可部谷　一成	Ａ－１２



特記事項	工事名	石動東部保育所耐震補強工事	設計	一級建築士　大臣登録　第108041号 可部谷　一成	検図	可部谷建築事務所 一級建築士事務所富山県知事登録第（7）557号 管理建築士　一級建築士　大臣登録第108041号　可部谷　一成	No. A－13
	図　名	改修前立面図(外部ブレース部分)	縮尺	1/30(A2)　1/(30√2)(A3)	月日		



特記事項	工事名	石動東部保育所耐震補強工事	設計	一級建築士　大臣登録　第108041号 可部谷　一成	検図	可部谷建築事務所 一級建築士事務所富山県知事登録第（7）557号 管理建築士　一級建築士　大臣登録第108041号　可部谷　一成	No. A－14
	図　名	改修後立面図(外部ブレース部分)	縮尺	1/30(A2)　1/(30√2)(A3)	月日		

G

209 150 250

3,400

▽コンクリート上端

外壁
モルタル刷毛引き
アクリル系リシン吹付

3,500

巾木
モルタル刷毛引き

500

▽GL

改修前矩形図 1/30

改修後矩形図 1/30

煙突部延長新設
切断部部分溶接にて取付
延長長さ400㎜

100 400 100

250

雑 庫

ポンプ室

防水モルタルヌリ

受水槽

3,500

改修後矩形図 1/30

Ⓟ-4.5㎜穴明

人砥（直線目地切）

モルタル

配 膳 室

食 品 庫

760 | 1,600 | 70 | 1,130 | 70 | 1,600 | 1,800

5,200 | 2,400

7,600 | 215

改修前平面図 1/30

209 150 250

改修後平面図 1/30

Ⓟ-4.5㎜穴明

人砥（直線目地切）

モルタル

550

配 膳 室

食 品 庫

209 150 250 550

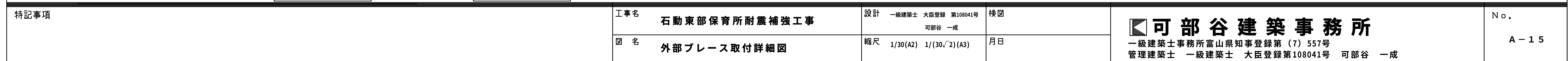
760 | 1,600 | 70 | 1,130 | 70 | 1,600 | 1,800

5,200 | 2,400

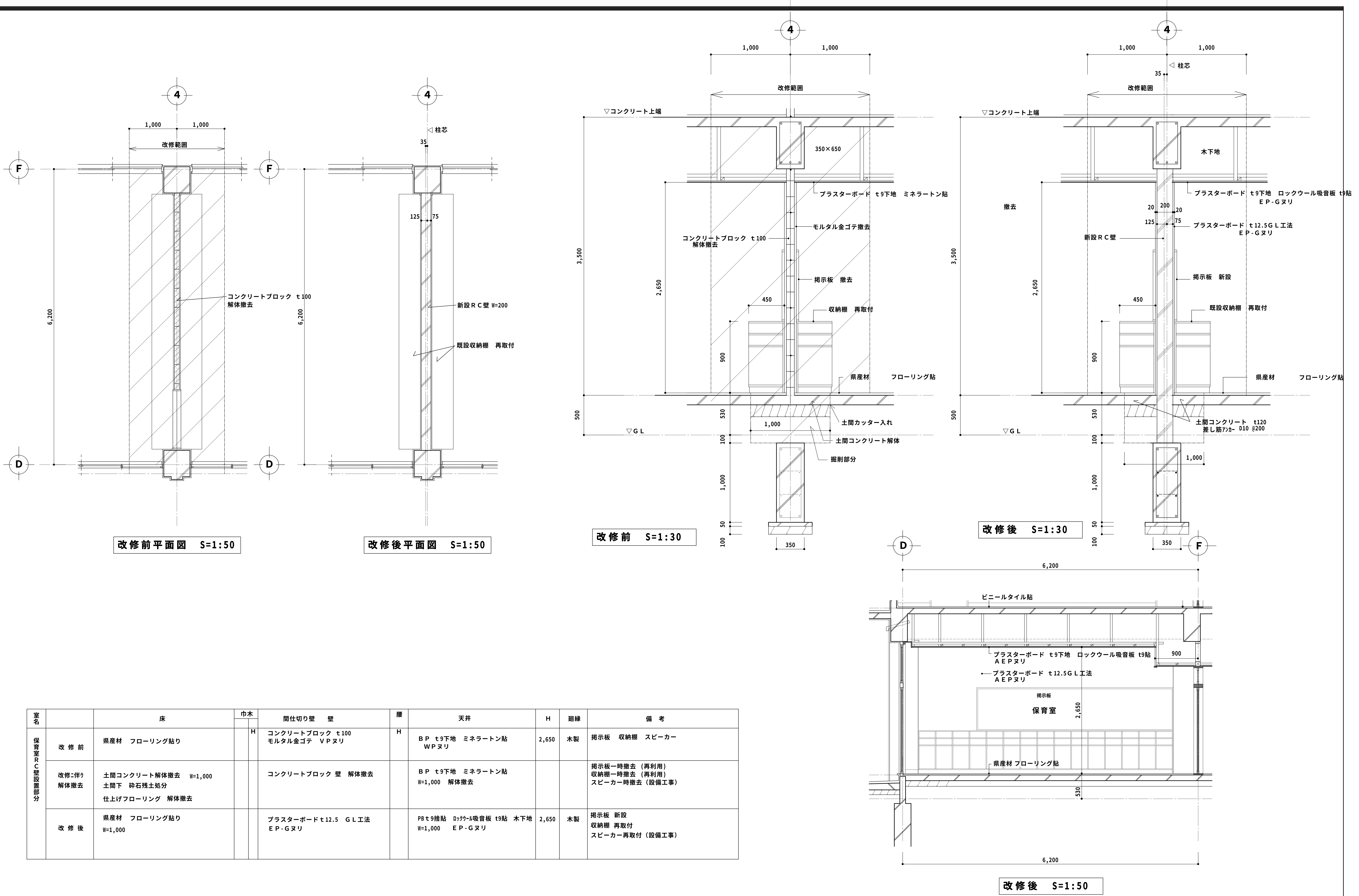
7,600 | 215

改修後平面図 1/30

特記事項



工事名 石動東部保育所耐震補強工事	設計 一級建築士 大臣登録 第108041号 可部谷 一成	検図	可部谷建築事務所 一級建築士事務所富山県知事登録第（7）557号 管理建築士 一級建築士 大臣登録第108041号 可部谷 一成
図 名 外部ブレース取付詳細図	縮尺 1/30(A2) 1/(30√2)(A3)	月日	No. A－15



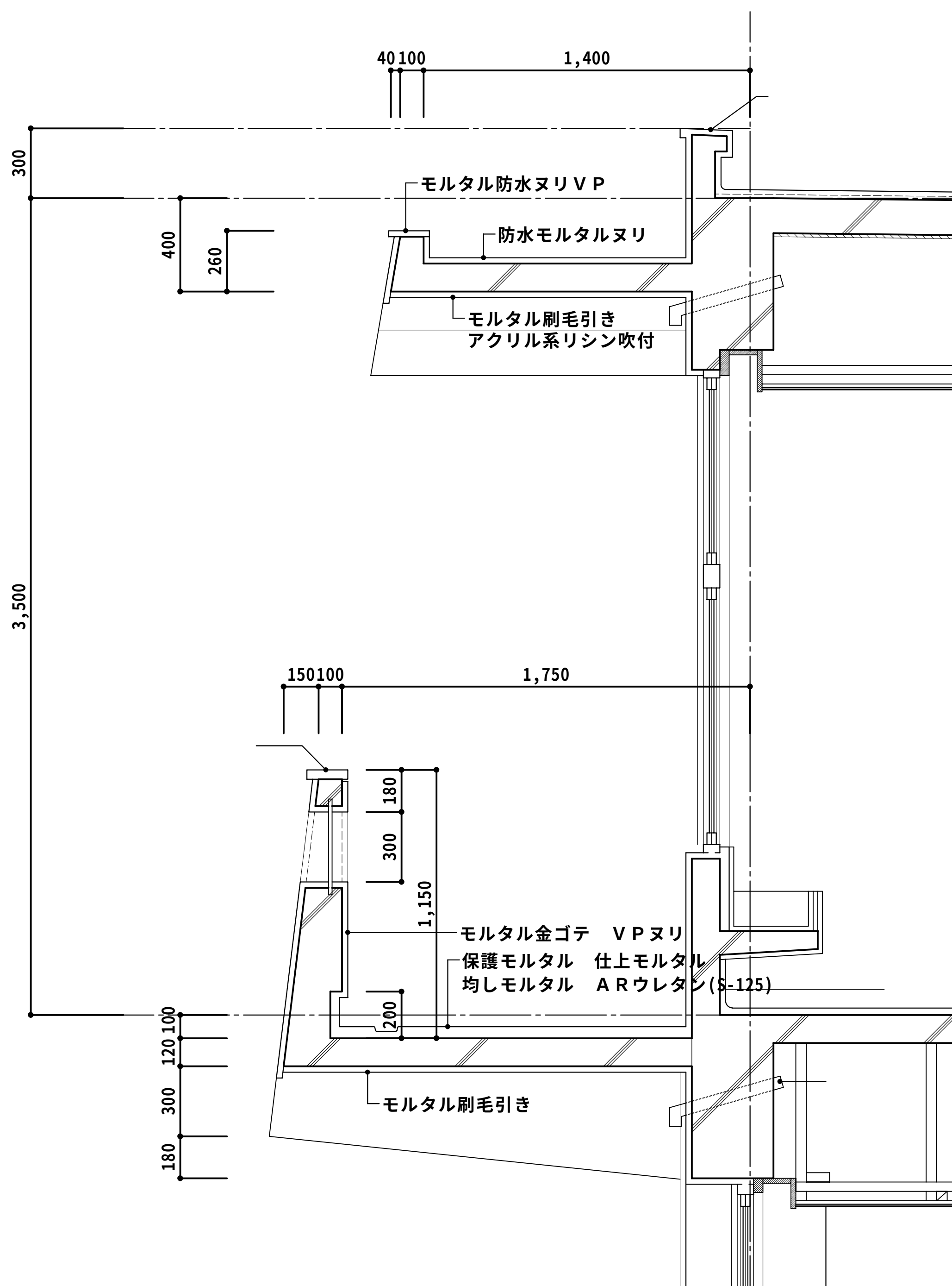
室名		床	巾木		間仕切り壁 壁	腰	天井	H	廻縁	備考
保育室ＲＣ壁設置部分	改修前	県産材 フローリング貼り		H	コンクリートブロック t100 モルタル金ゴテ ＶＰヌリ	H	ＢＰ t9下地 ミネラートン貼 ＷＰヌリ	2,650	木製	掲示板 収納棚 スピーカー
	改修ﾆ伴ｳ 解体撤去	土間コンクリート解体撤去 W=1,000 土間下 砕石残土処分 仕上げフローリング 解体撤去			コンクリートブロック 壁 解体撤去		ＢＰ t9下地 ミネラートン貼 W=1,000 解体撤去			掲示板一時撤去（再利用） 収納棚一時撤去（再利用） スピーカー時撤去（設備工事）
	改修後	県産材 フローリング貼り W=1,000			プラスターボードｔ12.5 ＧＬ工法 ＥＰ-Ｇヌリ		PBｔ9捨貼 ﾛｯｸｳｰﾙ吸音板 t9貼 木下地 W=1,000 ＥＰ-Ｇヌリ	2,650	木製	掲示板 新設 収納棚 再取付 スピーカー再取付（設備工事）

特記事項

工事名	石動東部保育所耐震補強工事	設計	一級建築士 大臣登録 第108041号 可部谷 一成	検図	
図名	１階保育室④通り改修詳細図	縮尺	1/50(A2) 1/(50√2)(A3) 1/30(A2) 1/(30√2)(A3)	月日	

可部谷建築事務所
一級建築士事務所富山県知事登録第（7）557号
管理建築士 一級建築士 大臣登録第108041号 可部谷 一成

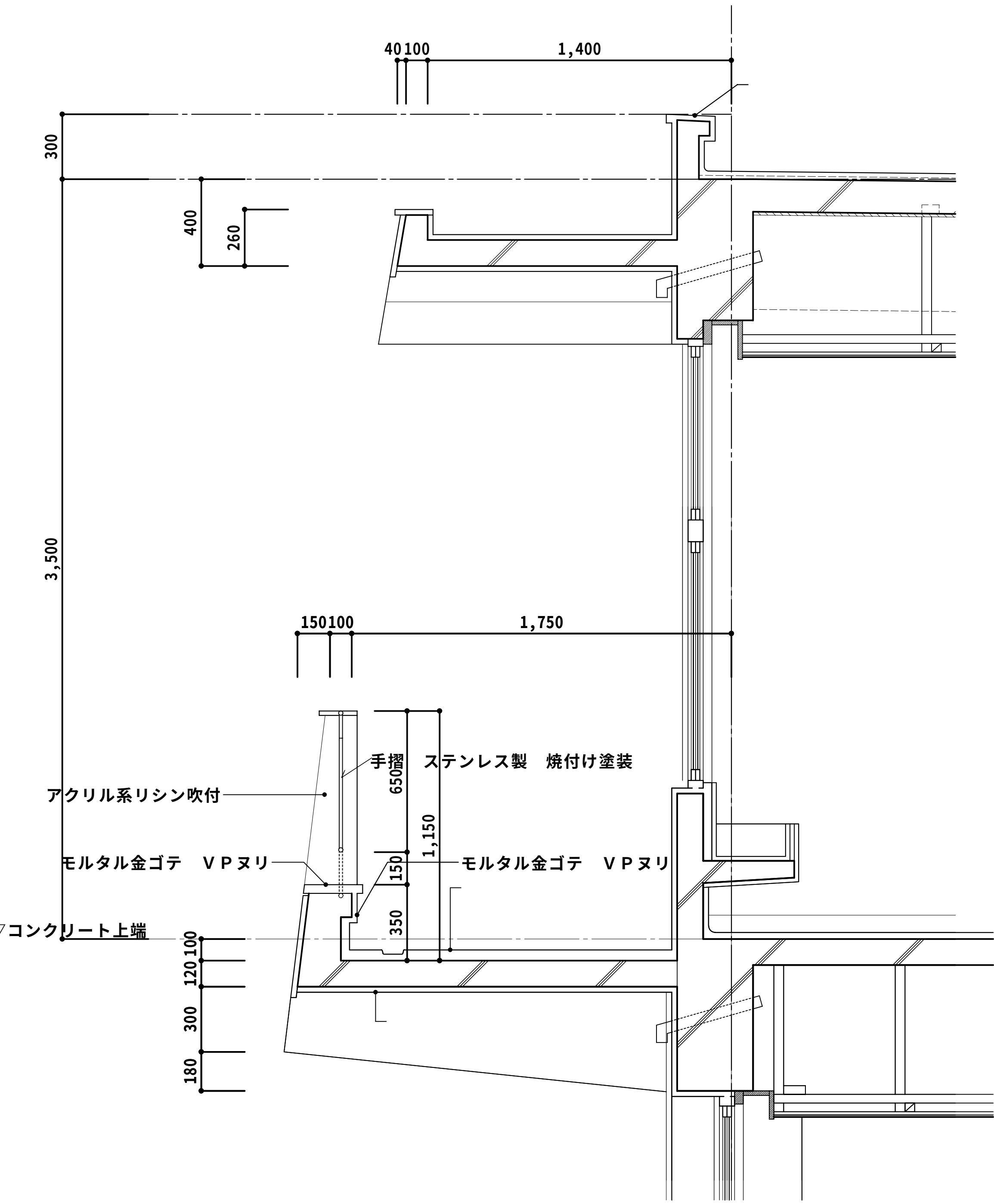
No. Ａ－１６

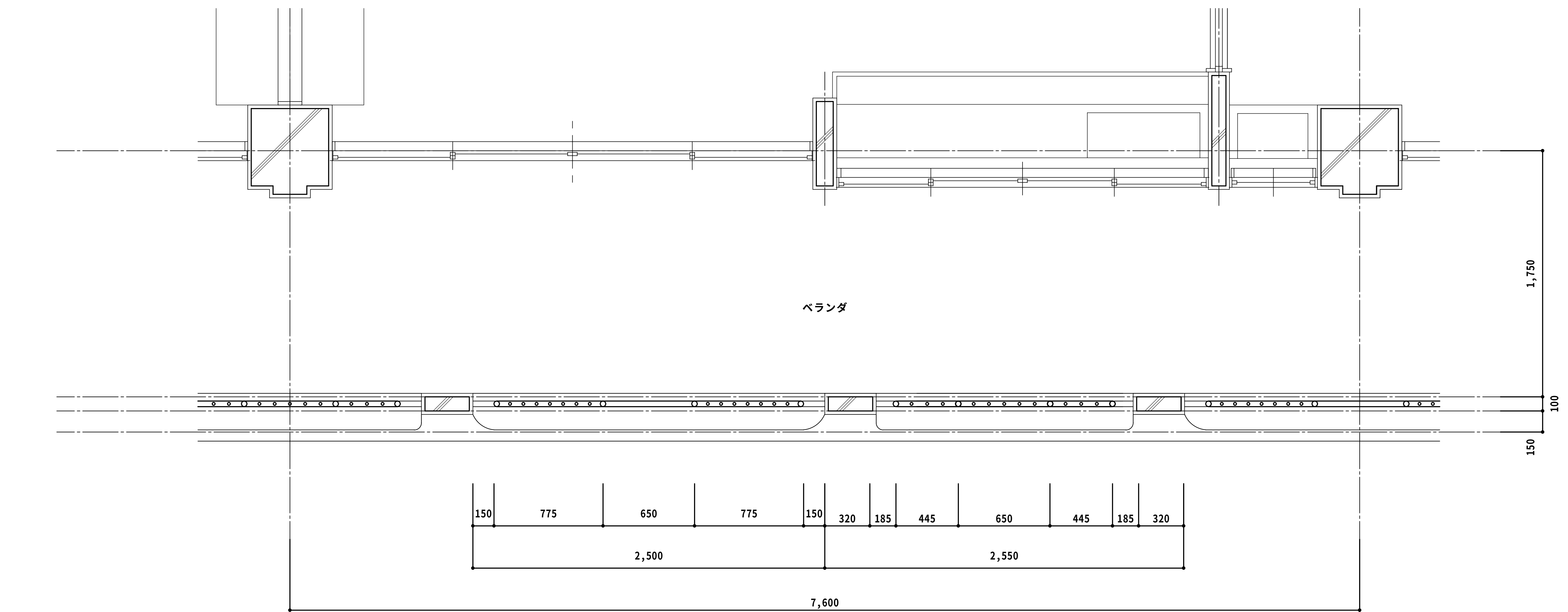


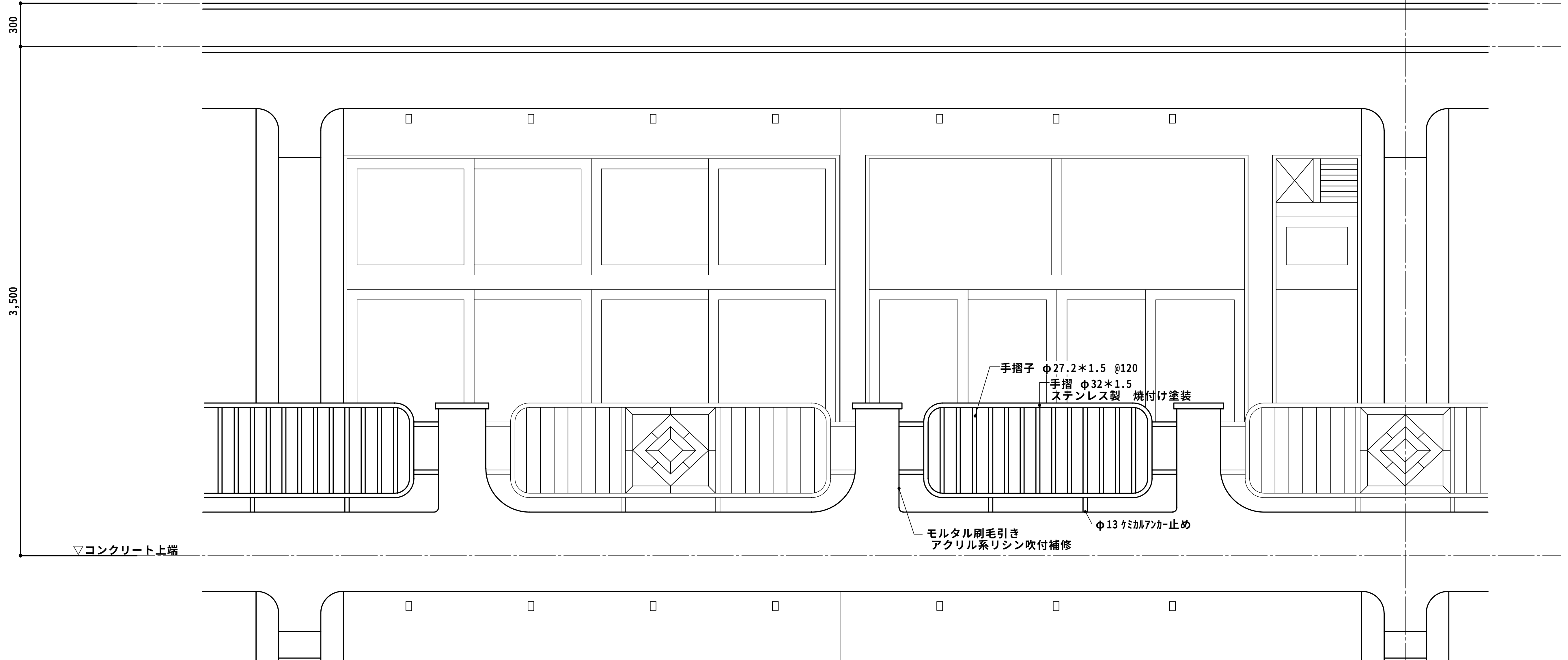
ベランダ
コンクリートカッター切
解体撤去 6箇所
1,750
100
150
300 400 300 450 150 775 650 775 150
1,450 2,500 2,550
7,600
300
3,500
スチールパイプ ＯＰヌリ
F.B製 ＯＰヌリ
コンクリートカッター切
解体撤去　6箇所
▽コンクリート上端
モルタル刷毛引き
アクリル系リシン吹付

バルコニー改修前部分詳細図　S=1/30

特記事項	工事名	石動東部保育所耐震補強工事	設計	一級建築士　大臣登録　第108041号 可部谷　一成	検図		可部谷建築事務所 一級建築士事務所富山県知事登録第（7）557号 管理建築士　一級建築士　大臣登録第108041号　可部谷　一成	No. A－17
	図名	バルコニー改修前部分詳細図	縮尺	1/30(A2)　1/(30√2)(A3)	月日			







バルコニー改修後部分詳細図　S=1/30

特記事項	工事名　石動東部保育所耐震補強工事	設計　一級建築士　大臣登録　第108041号　可部谷　一成	検図	可部谷建築事務所 一級建築士事務所富山県知事登録第（7）557号 管理建築士　一級建築士　大臣登録第108041号　可部谷　一成
	図　名　バルコニー改修後部分詳細図	縮尺　1/30(A2)　1/(30√2)(A3)	月日	No.　A－18

A

道路

38,000
7,600 7,600 7,600 7,600 7,600

敷地境界線 38,600
敷地境界線 22,000

24m－1.4ｔ

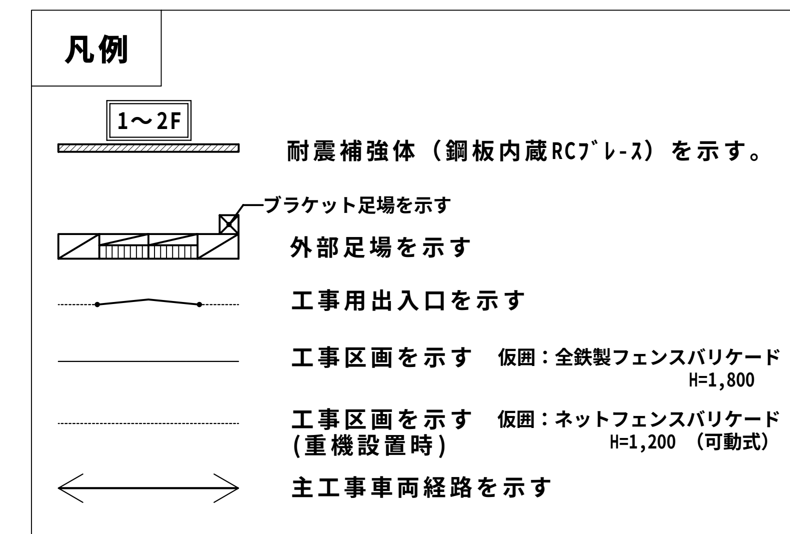
プロパン室
雑庫
スロープ
UP
ポンプ室
←EXP.J
食品庫
1～2F
配膳室
配膳台
WC
休憩室
廊 下
教材室
保育室
保育室
教材室
保育室
WC
WC
ホール
玄 関
下足室
ロッカールーム
足洗場
テラス
UP
WC
押入
宿直室
事務室
EXP.J↑

1,700
3,550
2,000
4,200
2,000
22,550
3,600
7,200

道路
道路境界線 29,600
敷地境界線 25,300
7,800
11,800
3,600
敷地境界線 18,500

25tラフタークレーン
AS
作業スペース
A

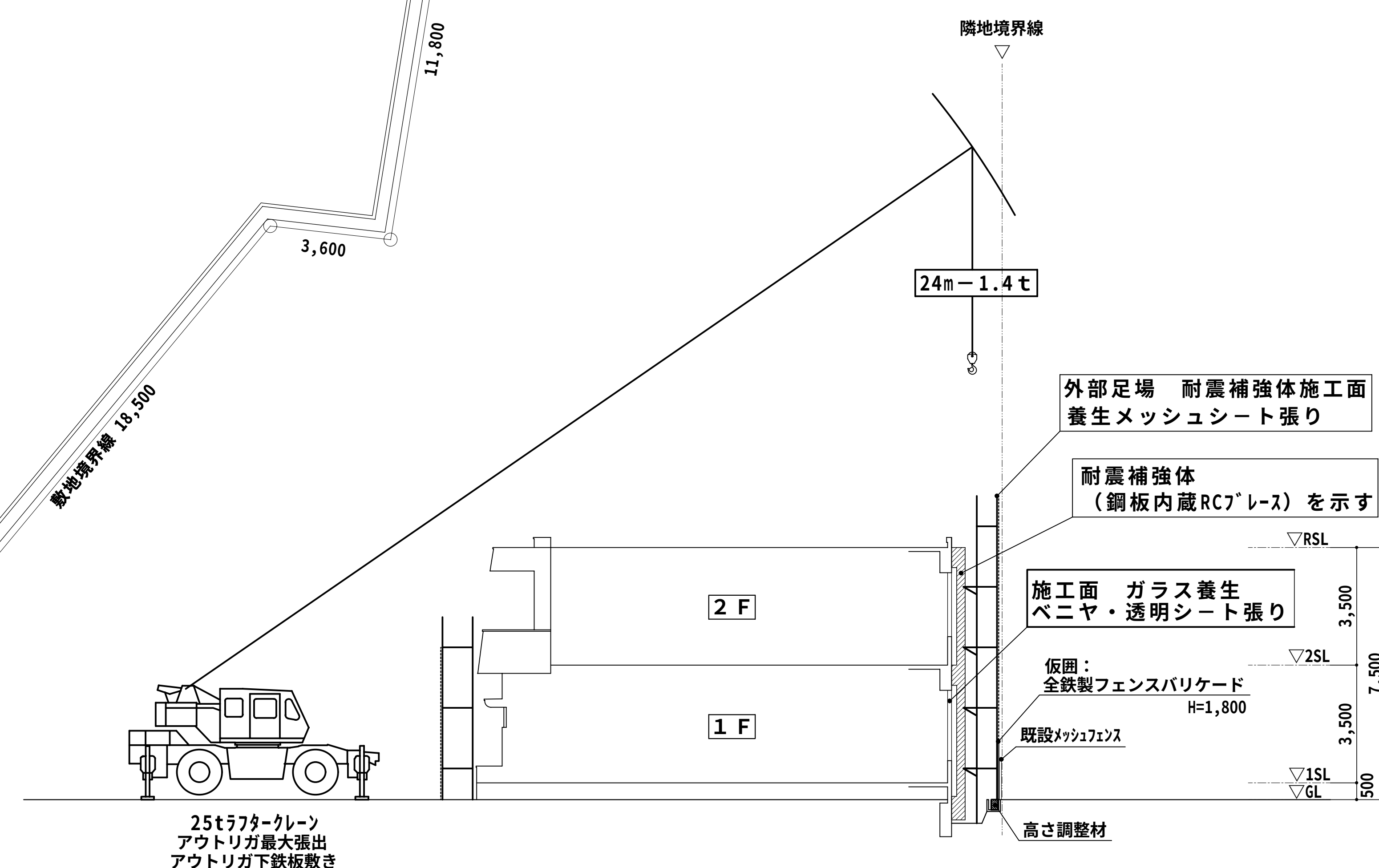
道路境界線 18,000
4,300
4～6tトラック
駐車場
誘導員（随時）
敷地境界線 40,600
6,000
前面道路
5,000
道路巾



※工事車両と園舎関係者動線の重なる箇所には、随時誘導員を配置する。

※工事に支障のある犬走り・花壇・樹木等は、一部撤去、工事終了後 復旧とする。

※現場事務所及び工事車両駐車場の位置は打合せによる。



平面図

A－A断面図

参考図
121015

特記事項	工事名	石動東部保育所耐震補強工事	設計	一級建築士 大臣登録 第108041号 可部谷 一成	検図	可部谷建築事務所 一級建築士事務所富山県知事登録第（7）557号 管理建築士 一級建築士 大臣登録第108041号 可部谷 一成	No. A－19
	図名	仮設計画図	縮尺	1/200(A2) 1/(200√2)(A3)	月日		

ＲＣ増設壁仕様

一般仕様

1.共通仕様

特記仕様及び図面に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
「公共建築改修工事標準仕様書」(最新版)及び「建築改修工事監理指針」(最新版)による
但し、「公共建築改修工事標準仕様書」に規定されている項目以外は、国土交通省大臣官房官庁
営繕部監修「公共建築工事標準仕様書」(最新版)による

2.補強位置

ＲＣ増設壁による補強:伏図・軸組図による

3,使用鉄筋

SD295A,SD345規格品(Ｄ記号)　(D10～D16:SD295A,D19以上:SD345)
SR235規格品　(6φSR235)

4.使用コンクリート設計基準強度

Fc=21N/mm2(管理強度21N/mm²+3N/mm²)以上(普通コンクリート・無収縮)スランプ18cm
無収縮材(膨張性混和材30kg/m³同等品以上)
無収縮コンクリート使用箇所(補強増設壁・補強打増梁・補強スラブ)
Fc=18N/mm2以上(普通コンクリート)スランプ18cm(土間・犬走り・側溝)

5.あと施工アンカー「接着系アンカー(ガラス管タイプの有機系)」

アンカー材料D10、D13、D16、D19、D22、M12、M16、M20(メーカーにより素材強度が保障されたもの)
工法　鉄筋探査の後、低騒音・低振動・無粉塵工法で施工のこと
探査　各ＲＣ増設壁アンカー打設面
検査施工後「建築改修工事監理指針　最新版(下巻)(財)建築保全センター刊行
８章 耐震改修工事、10節 あと施工アンカー工事、8.10.5 施工確認試験 (b)施工確認試験に
準じて、あと施工アンカー引張荷重試験を実施すること(上下横各径毎3本計9本)
あと施工アンカーの施工は、「JCAAの認定資格登録証」取得者にてJCAAの技術資料(施工要領等)を参考にする
・本工事における、あと施工アンカー引抜き耐力は右表の通り
アンカー筋は頭部ナット付き先端45°カットの有無は配筋詳細図参照

主架構補強部

あと施工アンカー引抜き耐力表	
D13@150(シングル)	25.3kN/本
D16@200(シングル)	40.4kN/本
D16@150(シングル)	32.4kN/本
D19@250(シングル)	58.8kN/本
D19@200(シングル)	50.4kN/本
D19@150(シングル)	39.4kN/本
D22@200(シングル)	59.9kN/本

6.モルタル設計基準強度(無収縮)

Fm=30N/mm²以上

7.注意事項

1)スパイラル筋や壁配筋等の材料の加工に先立ち躯体寸法を実測し
これらの補強筋等を実状に合った寸法に加工する
2)増設部材と既存コンクリート躯体との接触面については、既存コンクリート
躯体面を目荒しとし、コンクリート打設前に充分な水湿しを行う
3)コンクリートの打設にはバイブレーターの使用、又はタタキにより
密実なコンクリートとなるように充分な施工計画を立てる
4)後打ちコンクリートは膨張性混和剤を添加した無収縮コンクリートとして
計画、施工する
5)後打ちコンクリートは梁下20cmまで打設し壁頂部は無収縮モルタル圧入とする
6)コンクリートの強度発現期間内は充分な湿潤状態で養生する
又、養生期間中は振動等を与えないように注意する
7)フレア溶接が片面の場合は10d以上溶接する
8)その他は特記仕様書による

検査・提出書類

検　査
⊙材料検査(鋼材・溶接材料・錆止め塗料等)
⊙現寸検査
⊙開先検査
⊙仮付け検査
⊙溶接部検査
⊙外観検査
⊙超音波試験
⊙製品検査

提出書類
⊙加工業者の経歴書
⊙使用材料の明細書
⊙製作要領書
⊙施工計画書
⊙高力ボルトの成績書
⊙溶接技術者資格証明書
⊙溶接工資格証明書
⊙施工図

材料

鋼　材
⊙JIS G3136　建築構造用圧延鋼材
⊙SN400B　・SN400C
・SN490B　・SN490C
・建築構造用冷間成形角形鋼管　大臣認定及び日本建築センター評定・評価取得
・BCP235　・BCR295
⊙JIS G3101　一般構造用圧延鋼材
⊙SS400　・SM490
・JIS G3444　一般構造用炭素鋼管
・STK400　・STK490
⊙JIS G3350　建築構造用冷間成形軽量形鋼
⊙SSC400

高力ボルト
・JIS B1186 2種(F10T)
⊙トルシア形高力ボルト(S10T)

・TCボルト　SSボルト(上記と同等以上の品質保証のあるもの)

普通ボルト　⊙JIS B1180 JIS B1181の中3級

溶接材料
⊙被覆アーク溶接棒　JIS Z3211
⊙炭酸ガスアーク溶接用鋼ワイヤ　JIS Z3312
・サブマージアーク溶接用ワイヤ　JIS Z3311

錆止め塗料
屋内　・JIS K5621　一般用錆止めペイント2種　(素地ごしらえC種)
屋内　⊙JIS K5674　クロムフリーさび止めペイント　(素地ごしらえC種)
屋外　・JIS K5674　クロムフリーさび止めペイント　(素地ごしらえC種)
屋外　・JIA H8641　溶融亜鉛めっき仕上　(高架水槽、外部鉄骨階段)

ＲＣ増設壁耐震壁標準図

・割裂補強筋は始めに上下の梁部分にセットし、次に左右の柱のコーナー部分へ先にねじ込んだ後に、中央部に押し込むこと。

接着系アンカー筋の埋込み深さおよび定着長さの定義

$\ell_e = \ell_1 - d$

ℓ_e　:　有効埋込み深さ(計算上での埋込み深さ)
ℓ_1　:　埋込み深さ(孔深さ)
ℓ_2　:　定着長さ
d　:　アンカー筋の外径

アンカー筋の寸法と形状

補強例	アンカー筋							
	呼び名 d	埋込み深さ ℓ_1 (mm)		定着長さ ℓ_2 (mm)			最小長さ $\ell = \ell_1 + \ell_2$ (mm)		
					20d以上	30d以上		28d以上	38d以上
ＲＣ壁補強	D10	8d以上	80	20d以上(ナット付き) 30d以上(ナットなし)	200	300	28d以上(ナット付き) 38d以上(ナットなし)	280	380
	D13		104		260	390		364	494
	D16		128		320	480		448	608
	D19		152		380	570		532	722
	D22		176		440	660		616	836

d：アンカー筋呼び名

(注記) コンクリート強度が 100≦Fc＜135 の場合は、埋込み深さ ℓ_1 を10d以上とする。

増設壁開口部補強要領

コンクリート及びモルタル圧入要領図

コンクリート打設要領

無収縮モルタル圧入要領

スパイラル筋

壁厚	150	180	200	250	300
スパイラル径	70	100	120	150	200
ピッチ	50				

スパイラル筋 6φ
スパイラル筋の重ね継手は、２巻以上とする。

柱・梁増打部補強要領

あと施工アンカー間隔及び呼称

シングル配置

チドリ配置

構造スリット詳細図

構造スリット詳細図(完全スリット) 1/200

構造スリット詳細図(部分スリット) 1/200

特記事項

工事名	石動東部保育所耐震補強工事	設計	一級建築士　大臣登録　第108041号　可部谷　一成	検図	
図　名	構造特記仕様書１・構造スリット図	縮尺	1/200(A2)　1/(200√2)(A3)	月日	

可部谷建築事務所
一級建築士事務所富山県知事登録第(7)557号
管理建築士　一級建築士　大臣登録第108041号　可部谷　一成

No.　S－01

鋼板内蔵コンクリート構造による補強工法　特記仕様書　その２　('12,01,05 更新版)

'12,02,16 改訂

○総則○

特記仕様書の運用方法

（1）□印を付した事項は■印を付した事項のみを適用する。
（2）表中の数字、文字、または記号を記入する事項は記入してある事項のみを適用する。
（3）═══ で抹消した章および項目の当該特記事項はすべて適用しない。
（4）特記された材料、製造所、製品名、施工業者などの取扱いは、特記されたもの又は同等品以上のものとする。ただし、同等品以上のものを使用する場合は、工事監理者の承諾を受ける。

○鋼板内蔵コンクリート構造による補強工法コンセプト○

（1）鋼板内蔵コンクリート構造による補強工法とは既存鉄筋コンクリート構造建物躯体の外面に、鋼板を内蔵したＲＣ部材を固着力およびあと施工アンカーにて固定・一体化し、既存建物の靭性改善・耐力向上をはかる工法をいう。

○鋼板内蔵コンクリート構造による補強工法施工手順○

（1）標準的な施工手順を以下に示す。なお作業上の都合により手順が入れ替わってもよいものとする。

※検査はピタコラム工法協会の検査員による

＜検査時期＞	＜検査項目＞	＜現場施工手順＞	＜工場加工＞
		準備	
		足場架設	
		墨出し	鋼板裁断加工
		仕上げ除去	
A	目荒らし状態	補強位置目荒し　※アンカー打設作業後でも可	
A		配筋調査	
A		アンカー位置墨出し	
A	埋込み深さ 打音検査・引張り試験	アンカー打設	アンカー加工
		アンカー位置実測	鋼板孔あけ加工
		既存躯体表面の洗浄	
B	鋼板取付け精度	鋼板取付け・接合	座金加工
B	配筋状態	割裂防止筋配筋	割裂防止筋加工
C	型枠建込精度	型枠建て込み　※鋼板取付け前に先行地組み可	
	強度・スランプ 塩化物・空気量	コンクリート打設	
	養生期間	養生	
D	コンクリートの状態	型枠脱型	
		防水工事	
		仕上げ工事	
		足場解体	

A：目荒し及びあと施工アンカー完了後、鋼板取り付けにかかる前
B：鋼板取付け及び割裂防止筋完了後、型枠工事にかかる前
C：型枠建て込み開始後、コンクリート打設前、ただし、Bの検査でかぶり厚さの確保が確認できる場合は省略することが可能
D：型枠脱型後、仕上げ工事にかかる前

1．使　用　材　料

1．1補強鋼板

（1）材質　ＪＩＳＧ３１３６　■ＳＮ４００Ｂ　□ＳＮ４００Ｃ　□他（　　　　）
　　　　　ＪＩＳＧ３１０１　□ＳＳ４００　□他（　　　　）
　　　　　ＪＩＳＧ３１０６　□ＳＭ４００Ｂ　□ＳＭ４００Ｃ　□他（　　　　）
（2）板厚　□9㎜　□１２㎜　□１６㎜　■１９㎜　□２２㎜　□２５㎜
（3）接合方法　■ 高力ボルト接合（Ｓ１０Ｔ）□ 溶接接合

1．2座金

（1）材質　ＳＳ４００相当

1．3鉄筋

（1）アンカー筋　径　□Ｄ１６　■Ｄ１９　□Ｄ２２
　　材質　ＳＤ３４５
（2）組立筋　径　Ｄ１３
　　材質　ＳＤ２９５Ａ．Ｂ
（3）乱れ防止筋　径　Ｄ１０
　　材質　ＳＤ２９５Ａ．Ｂ
（4）割裂防止筋　径　Ｄ６
　　材質　ＳＤ２９５Ａ．Ｂ
　　径　Φ６（JIS G 3551 に適合するもの）
　　材質　ＷＦＰ，ＷＦＣ，ＢＦＳＲ２３５，ＢＦＳＲ２９５，ＢＦＳＤ２９５
（5）打増し部補強筋　径　補強詳細図による
　　材質　ＳＤ２９５Ａ．Ｂ

1．4コンクリート

（1）種類　■普通コンクリート　□流動化コンクリート
　　□その他（　　　　　　）
（2）設計基準強度　（　３０　）Ｎ／mm²
（3）最大粗骨材寸法　２０mm又は、２５mm
（4）使用混和剤　高性能ＡＥ減水剤
（5）スランプ　２１ｃｍ
（6）その他、コンクリートに関する規定はＪＡＳＳ５に準ずるものとする。

1．5あと施工アンカー

（1）種類　接着系あと施工アンカー
（2）下記メーカーもしくは同等品以上、またはＪＣＡＡ認証品とする
・日本ヒルティ株式会社　ＨＶＵアンカー，ＨＩＴアンカー[ＲＥ型]
・旭化成ケミカルズ株式会社　ＡＲケミカルセッター　[ＡＰシリーズ，ＨＰシリーズ]，[ＥＸ４００]
・日本デコラックス株式会社　ケミカルアンカー　[Ｒタイプ，ＣＥタイプ，Ｈタイプ，ＲＳタイプ，ＲＸタイプ]
・前田工繊株式会社　ボルトメイト　[ＴＧシリーズ]
・フィッシャー　フィッシャーレジンアンカー　[ＲＭタイプ]
・エヌパット株式会社　パーフィクス　[レジンカプセル，ハーモニックアンカー]
・サンコーテクノ株式会社　サイズミックカプセル　[ＶＥタイプ]

2．部　材　規　定

2．1　あと施工アンカー

（1）鋼板取付き側端部処理
□　Ｄ１６……Ｍ１６（５／８”）のネジ加工
■　Ｄ１９……Ｍ２０（３／４”）のネジ加工
□　Ｄ２２……Ｍ２２（７／８”）のネジ加工

（2）有効埋め込み深さ　１０ｄa　※ｄaは鉄筋の呼び径
（3）へりあき　２.５ｄa以上かつ既存躯体の主筋の内側
（4）ふちあき　あと施工アンカーの有効埋込み深さの２倍以下
（5）ピッチ　７.５ｄa以上かつあと施工アンカーの有効埋込み深さの２倍以下
（6）ゲージ　通常は５．５ｄa以上、千鳥状配置の場合は４ｄa以上かつあと施工アンカーの有効埋込み深さの２倍以下
（7）配列　配列は２列以上とし、部材に均等ピッチで配置する

2．2　鋼板

（1）入り隅処理　ｒ＝３０mm以上のコーナー加工
（2）アンカー用孔
□Ｄ１６……Φ３５mm以下　■Ｄ１９……Φ４０mm以下　□Ｄ２２……Φ４５mm以下

2．3　割裂防止筋

（1）形状など　形状　□楕円　■長円のループ形状（■閉鎖型　□スパイラル）
　　■Ｕ型形状　■柱梁接合部（　□Ｉ型形状　□ メッシュ筋　■ 両方可）　□ 図面による
（2）ループ形状の場合の端部処理
　　■重ね継手　□フラッシュバット溶接
　　※重ね継手の場合は、重ね長さ１０ｄa以上とし、溶接長さは片面６ｄaとする
（3）下記メーカーもしくは同等品以上とする
・株式会社テクノサポート　製作品
・ジャパンライフ株式会社　製作品
・有限会社東洋建材工業所　製作品

2．4　組立筋

（1）本数

	補強部材せい（$_{B}D$）mm	本数
■	$_{B}D$＜６００	４本
■	６００≦$_{B}D$＜９００	６本
□	９００≦$_{B}D$＜１２００	８本
□	１２００≦$_{B}D$	３００ピッチ以下

2．5　座金

（1）形状　□Φ５０以上　■□４５×４５以上
（2）厚み　9mm

3．施　工

3．1　既存部下地処理工事

（1）補強部材が取付く部分の既存躯体表面は構造体コンクリートを露出させ、適切な目荒しなどの処理を行う。
（2）目荒し深さと範囲
a）チッパーの場合
目荒し深さは既存躯体面から５～１０㎜程度の凹みとし、目荒し面積は接合面の全面に渡り面積比で３０～５０%程度の目荒しを行う。
b）ビシャン、水圧（ウォータージェット）の場合
目荒し深さは既存躯体面から５㎜程度の凹みとし、目荒し面積は接合面の全面に渡り面積比で９５～１００%の目荒しを行う。（水圧による目荒しを実施する場合には、試験にて水圧を調整すること。）
（3）目荒しは他の部分に影響を与えないよう、目荒しの境界にカッターを入れ、不要な範囲の損傷は避ける。
また、目荒しは、必要最小限となるような方法とし、鉄筋が露出するほど斫りすぎないように注意する。

3．2　アンカー工事

（1）あと施工アンカーの施工は、アンカーについての十分な知識を持ち訓練された技能を持った者が実施する。
あと施工アンカーの施工に際しては、ＪＣＡＡ「(社)日本建築あと施工アンカー協会」の資格取得者（主任技士，技術管理士,第１種施工士のいずれか）、もしくはＡＡＣ「あと施工アンカー工事協同組合」の資格取得者（専）を現場毎に１名以上配置する。
（2）既存躯体の鉄筋その他の埋設物を損傷しないよう、穿孔する。
（3）既存躯体内の埋設物（鉄筋・配線・配管等）に当たる場合は以下の対応を行う。
a）主筋に当たる場合：最外端の主筋の内側へ納まるよう再穿孔する。
b）せん断補強筋に当たる場合：上下左右いずれかの方向へ再穿孔する。
c）配線，配管に当たる場合：最外端の主筋の内側へ納まるよう、再穿孔する。
d）穿孔に失敗した孔の処理は原則として、工事監理者の指示によりコンクリートと同等の性状が得られる材料（モルタル，樹脂）を充填することとする。
（4）アンカーの埋め込み深さを確認するため、穿孔時に深さを実測し確認する。確認数量は工事監理者の指示による。
（5）アンカーの検査は以下により行う。
a）打音検査は、アンカーの全数について行う。
b）引張試験は、１ロットに対して本数の０．５%以上かつ３本以上とし、ロットから無作為に抜き取る。１ロットは棟ごと、アンカー径ごと、既存コンクリート強度の異なる層ごとに、当該作業員が１日に施工したものとする。
引張試験荷重は下記程度とする。（引張荷重は接着系アンカー1本当りの引張耐力の２/３程度とする。）
尚、基礎上部ずれ防止用あと施工アンカーについては引張試験は行わないものとする。
c）有効埋込み深さが１０ｄa以外のアンカー及び引張力を期待するアンカーについては、別途詳細図にて引張荷重を示す。

柱の引張試験荷重	既存コンクリート強度（Ｎ／mm²）			
アンカー径	１３.５	１５	１８	２１
Ｄ１６	□４３　（　階）	□４６　（　階）	□４６　（　階）	□４６　（　階）
Ｄ１９	□６１　（　階）	□６４　（　階）	■６７　（全階）	□６７　（　階）
Ｄ２２	□８２　（　階）	□８６　（　階）	□９０　（　階）	□９０　（　階）

（単位：ｋＮ）

梁の引張試験荷重	既存コンクリート強度（Ｎ／mm²）			
アンカー径	１３.５	１５	１８	２１
Ｄ１６	□４３　（　層）	□４６　（　層）	□４６　（　層）	□４６　（　層）
Ｄ１９	□６１　（　層）	□６４　（　層）	■６７　（全層）	□６７　（　層）
Ｄ２２	□８２　（　層）	□８６　（　層）	□９０　（　層）	□９０　（　層）

（単位：ｋＮ）

（6）既存部下地処理及びアンカー打設の両作業終了後、既存躯体表面の水洗いを行う。

3．3　鋼板加工・取付け工事

（1）鋼板の表面に付着した油膜などの、付着力を低下させる付着物は除去する。
（2）鋼板１ピースあたり、４本以上のアンカーにより取付ける。
（3）鋼板の取付けは、４本以上のアンカーに対して鋼板の両側からナット・座金を用いて軸方向に対して最も外端にあるアンカーを固定する。また、鋼板１ピースの長さが２．０mを越える場合は、２．０m以内に２箇所づつ追加する。
その他のアンカーは鋼板の外側にのみ、ナット・座金を使用する。
（4）鋼板取付けのナット締付け量はモンキーレンチなどを用い、手締めとする。締付けトルクは指定しない。
（5）あと施工アンカーと鋼板の孔が合わない場合は、原則としてあと施工アンカーを台直しして収める。やむを得ず、鋼板の孔をふかす場合は、工事監理者の承認を得ることとし、ふかしが大きくなる場合は欠損部に相当する添え板を鋼板面に溶接補強する。
（6）建て入れ直しは以下による。
a）面内方向
建て入れ直しは、レバーブロックなどにより行い、建て入れの精度は鋼板接合部が全数取付けられ、所定のかぶり厚さが確保できる範囲であれば、支障はない。
b）面外方向
建て入れ直しは、あと施工アンカーにセットされたナットと座金を用いて行ってもよい。建て入れ直しの精度は、頂部の鋼板から下げ降りを下げるなどして、面外方向の出入りは正規の位置より±３mm以内とする。ただし、既存躯体の精度が悪いときは、工事監理者の指示による。

鋼板内蔵コンクリート構造による補強工法　特記仕様書　その３　('12,01,05 更新版)

'12,02,16 改訂

３．４　鉄筋工事

（１）組立筋の継手は、位置は特に規定はしないが、鋼板接合部位置からずらすことが望ましい。組立筋は３本以上が交差することのないよう配慮する。３本交差する場合は、梁の組立筋を切断することが望ましい。

（２）Ｕ型割裂防止筋の定着長さはその部材に使用する標準割裂防止筋の長径＋１５０mm以上とする。

（３）柱・梁共に打増しがある場合、材軸方向筋は原則として柱筋を通し配筋とし、梁筋の柱への定着は規定しない。

３．５　コンクリート工事

（１）調合はＪＡＳＳ５による。

（２）発注は、レディーミクストコンクリートとする。また、工場はＪＩＳ表示許可を受けていなければならない。

（３）コンクリートの打ち込み、締め固めはＪＡＳＳ５による。

（４）養生は以下による。

ａ）早強ポルトランドセメントおよび普通ポルトランドセメントを使用する場合は、コンクリートの圧縮強度が１０Ｎ／mm^2以上となることを確認すれば、せき板・支保工の撤去および以降の湿潤養生を打ち切ることができる。

ｂ）湿潤養生期間中の上階へのコンクリート打設は、下階の養生状態に対して影響が少ないため連日にわたり行っても良い。但し、直下階の養生は打ち切ってはならない。

ｃ）上階に日々連続してコンクリートを打設する場合も、前日打設したコンクリートに悪影響を与えないよう、作業の管理を行う。

（５）品質管理の検査項目は、ＪＡＳＳ５に規定されている項目のうち、圧縮強度，スランプ，空気量，コンクリート温度，塩化物量とする。

（６）圧縮強度の試験は、コンクリート打設日毎に３台の運搬車からテストピースを採取し、標準養生の７日（４週強度推定用），２８日（「構造体コンクリート強度推定試験用」，〔「使用するコンクリートの調合強度管理のための試験」を兼ねるものとする〕）について各３本づつ行う。その他、型枠脱型用、予備など必要に応じて採取するものとし、目的に準じた養生方法で管理する。

３．６　型枠工事

（１）せき板の材料および種類はＪＡＳＳ５による。

（２）型枠の加工および組立ては以下による。

ａ）セパレータの取付けは鋼板を利用してもよい。

ｂ）補強部材には、打ち継ぎ部分には打ち継ぎ目地を設け、また適宜に化粧目地を設ける。

ｃ）補強部材には、目地の設置を考慮し２５㎜程度の打増しは可とする。

３．７　防水工事

（１）シーリングを必要とする目地は以下による。

ａ）既存躯体と補強体の新旧コンクリートの打ち継ぎ面の目地幅（幅２５mm，深さ２０mm）

ｂ）補強体に設けた、化粧目地（幅１５mm，深さ１５mm）

ｃ）その他、防水上必要と認められる目地および補強体と他材料との接合部

ｄ）笠木などの防護策を講じた場合の防水上必要と認められる目地

（２）シーリング材を充填する目地

ａ）目地幅は、シーリング材がムーブメントに対する追従性を確保できる寸法とし、かつ、シーリング材を十分に充填できる寸法とする。

ｂ）目地深さは、シーリング材の接着性、耐久性を十分に確保でき、硬化阻害を起こさない寸法とし、かつ、シーリング材を十分に充填できる寸法とする。

ｃ）その他、ＪＡＳＳ８に準ずる。

３．８　打増しの規定

（１）補強部材取付けに伴う打増し部分に適用する配筋は打増し厚により以下に規定する。

打増し厚	配　筋　規　定
□　０mm～５０mm未満	配筋不要
□　５０mm以上～１００mm未満	メッシュ筋（φ６@１００シングルクロス）
■　１００mm以上	補強詳細図による

３．９　庇・バルコニー・片持ち梁などがある場合の規定

（１）補強部材が連層で設置される場合で、庇やバルコニー・片持ち梁などのはね出し部材がある場合は、補強部材が連続するよう、連結部分のはね出し部材を斫り取り、鋼板が連続し応力伝達が可能となるような対処を行わねばならない。

（２）庇・バルコニー・片持ち梁等の根元を撤去・復旧する場合は、必ず支保工等で充分に養生すること。

（３）庇・バルコニー・片持ち梁等のはね出し部材を復旧する場合は、原則として既存鉄筋を接合復旧できる長さ（梁面から３００㎜以上）を残して撤去し、復旧方法の詳細は図面による。

３．１０　検査

（１）３．１～３．９の各工事について、ピタコラム工法協会の検査員の検査を受けること。ただし、３.７防水工事は除くものとする。

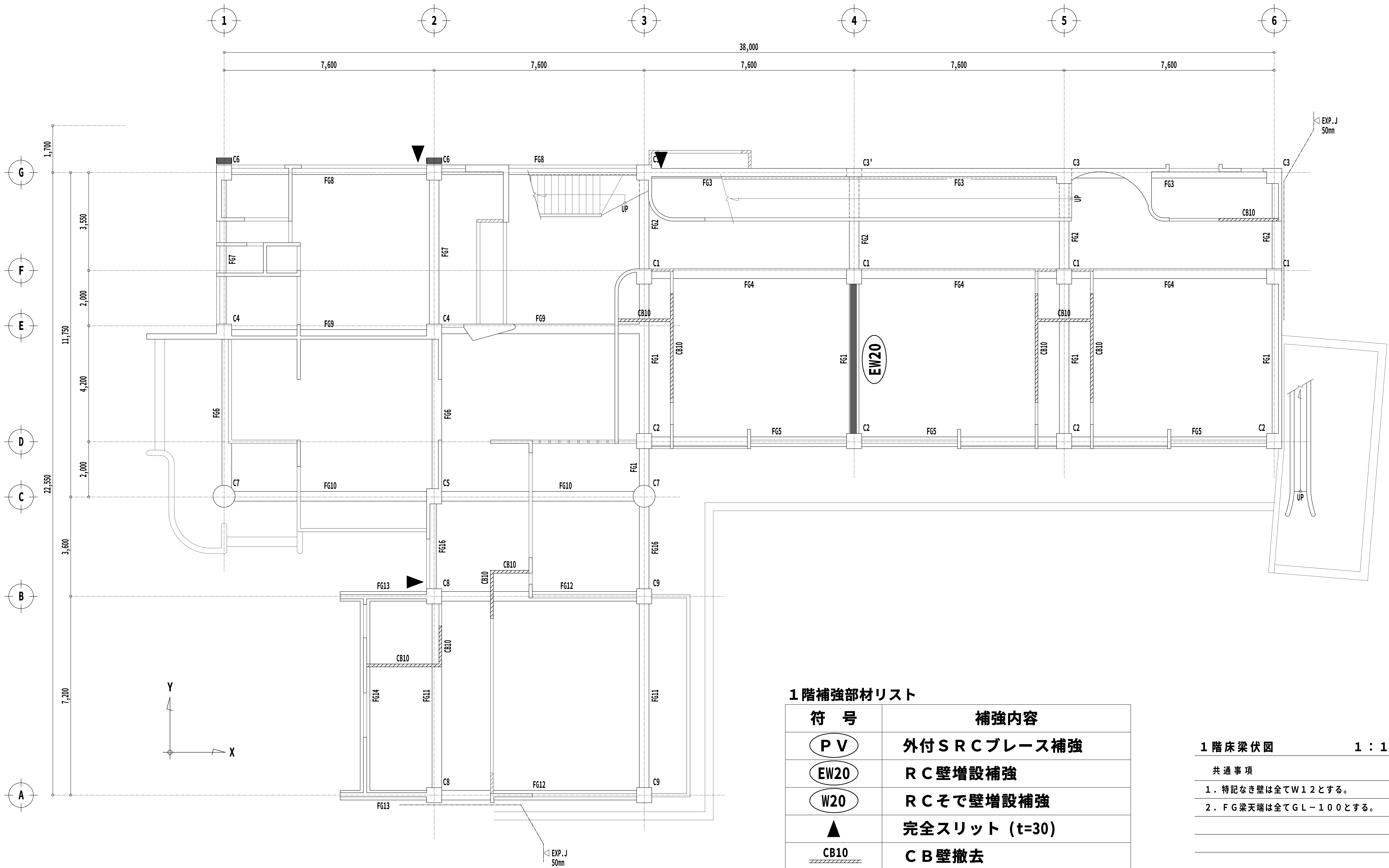
４．その他

４．１　既存躯体不良の処置

（１）既存躯体の不良については、工事監理者と処置方法を協議する。

４．２　補強部材の仕上げ

（１）小地震時の微小変形やコンクリートの乾燥収縮によるひび割れの対応として、耐久性の確保の為に、仕上げ材は防水形複層塗材Ｅ(JISA6909)を推奨する。



１階補強部材リスト

符　号	補強内容
ＰＶ	外付ＳＲＣブレース補強
EW20	ＲＣ壁増設補強
W20	ＲＣそで壁増設補強
▲	完全スリット（t=30）
CB10	ＣＢ壁撤去

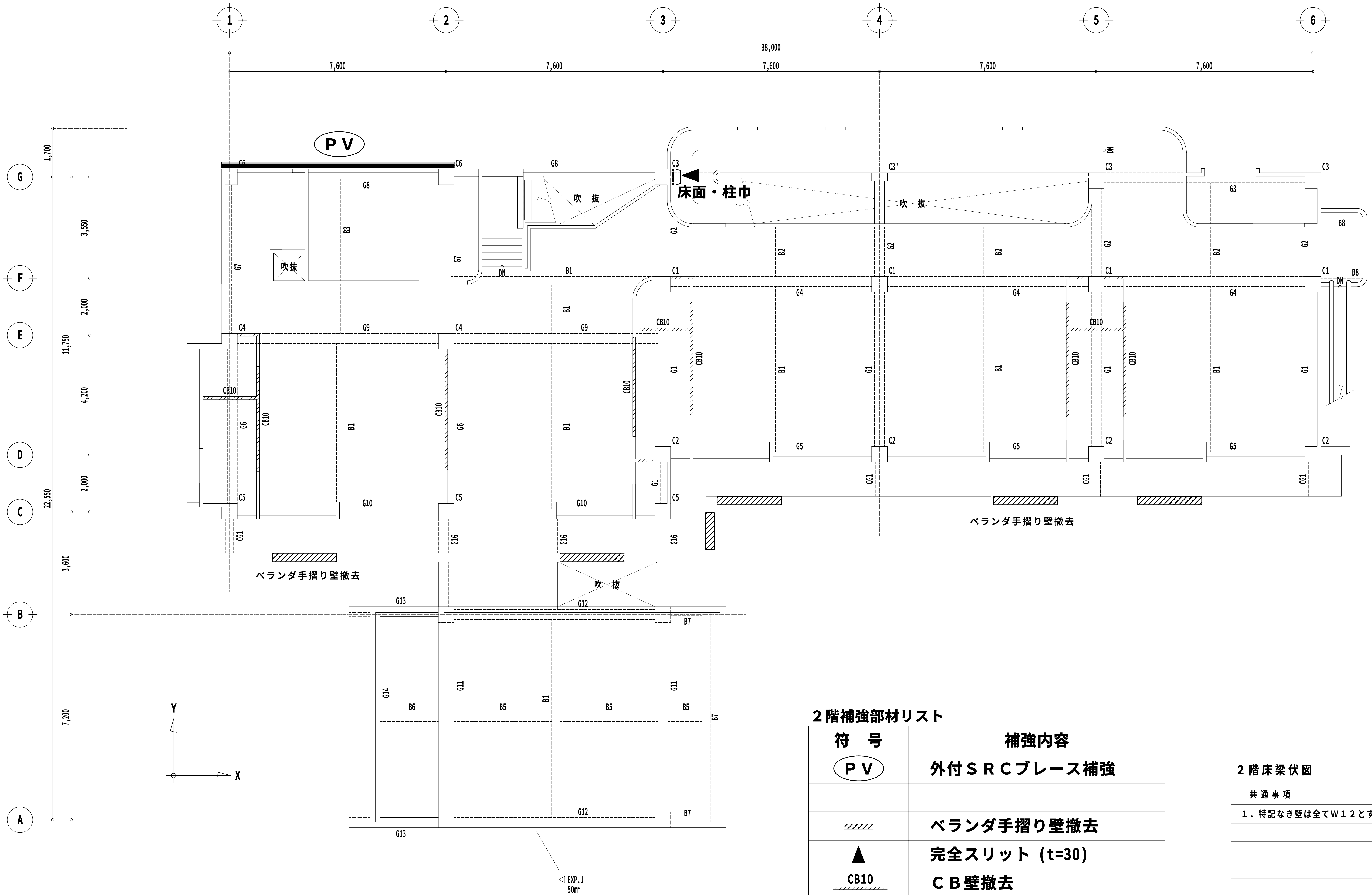
１階床梁伏図　　１：１００

共通事項

1．特記なき壁は全てＷ１２とする。

2．ＦＧ梁天端は全てＧＬ－１００とする。

特記事項	工事名 石動東部保育所耐震補強工事	設計 一級建築士 大臣登録 第108041号 可部谷 一成	検図	可部谷建築事務所 一級建築士事務所富山県知事登録第（7）557号 管理建築士 一級建築士 大臣登録第108041号 可部谷 一成	No. S－04
	図名 改修後１階床梁図	縮尺 1/100(A2) 1/(100√2)(A3)	月日		



２階補強部材リスト

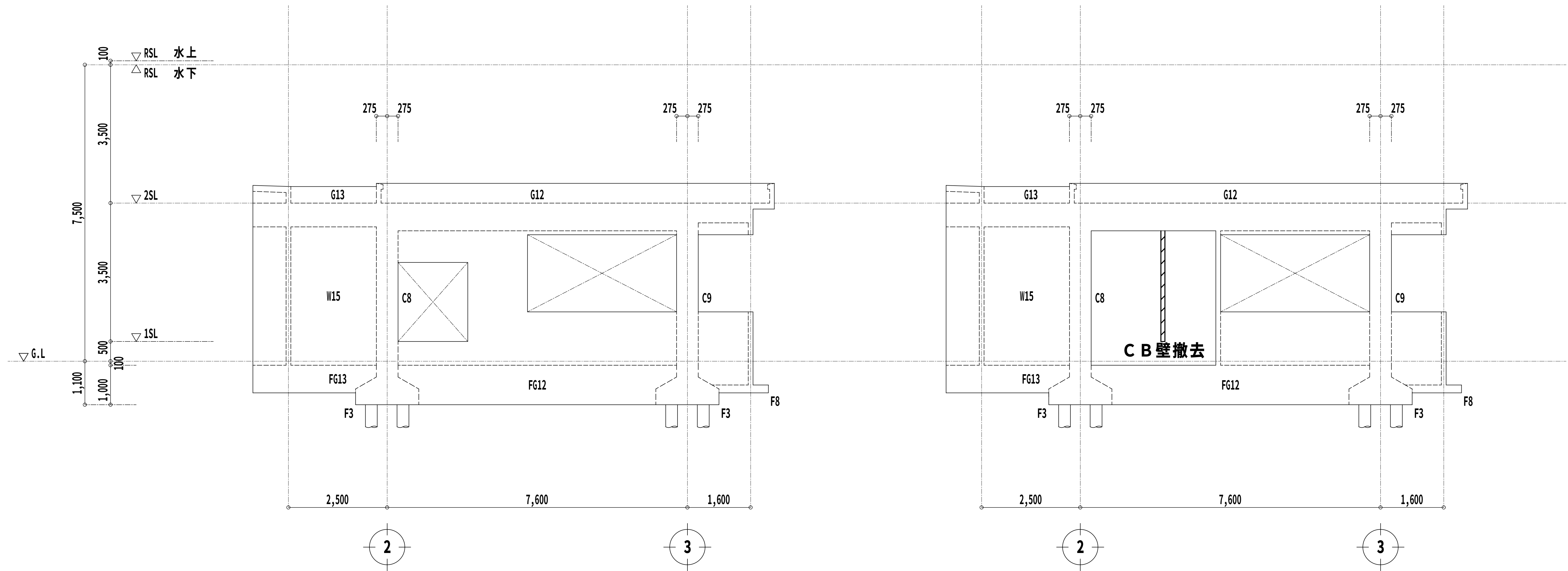
符　号	補強内容
ＰＶ	外付ＳＲＣブレース補強
(hatched symbol)	ベランダ手摺り壁撤去
▲	完全スリット（t=30)
CB10	ＣＢ壁撤去

２階床梁伏図　　１：１００

共通事項

１．特記なき壁は全てＷ１２とする。

特記事項	工事名 石動東部保育所耐震補強工事	設計 一級建築士 大臣登録 第108041号 可部谷 一成	検図	可部谷建築事務所 一級建築士事務所富山県知事登録第（7）557号 管理建築士 一級建築士 大臣登録第108041号 可部谷 一成	No. S－０５
	図名 改修後２階床梁図	縮尺 1/100(A2) 1/(100√2)(A3)	月日		



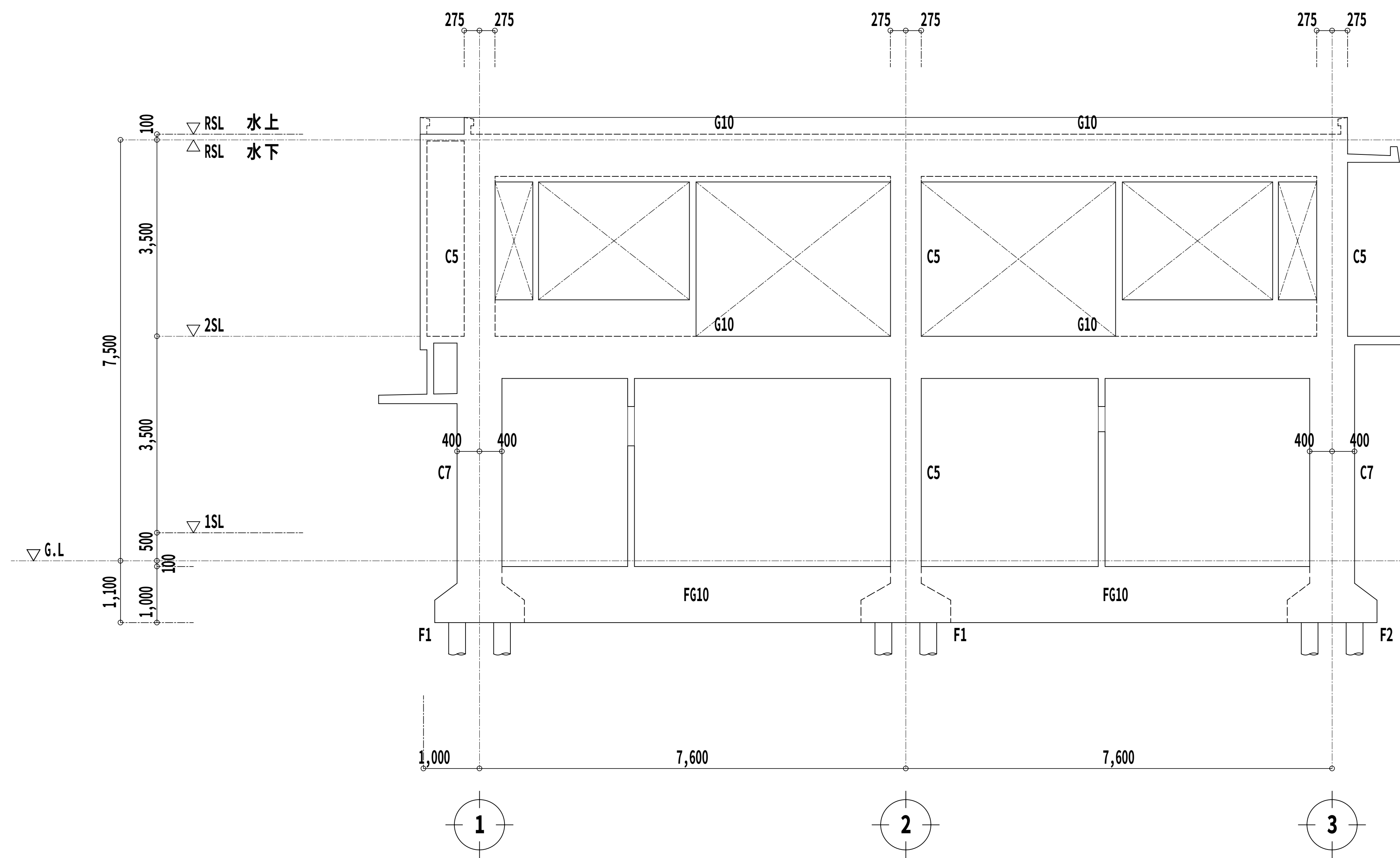
A A通軸組図 1：100

B B通軸組図 1：100

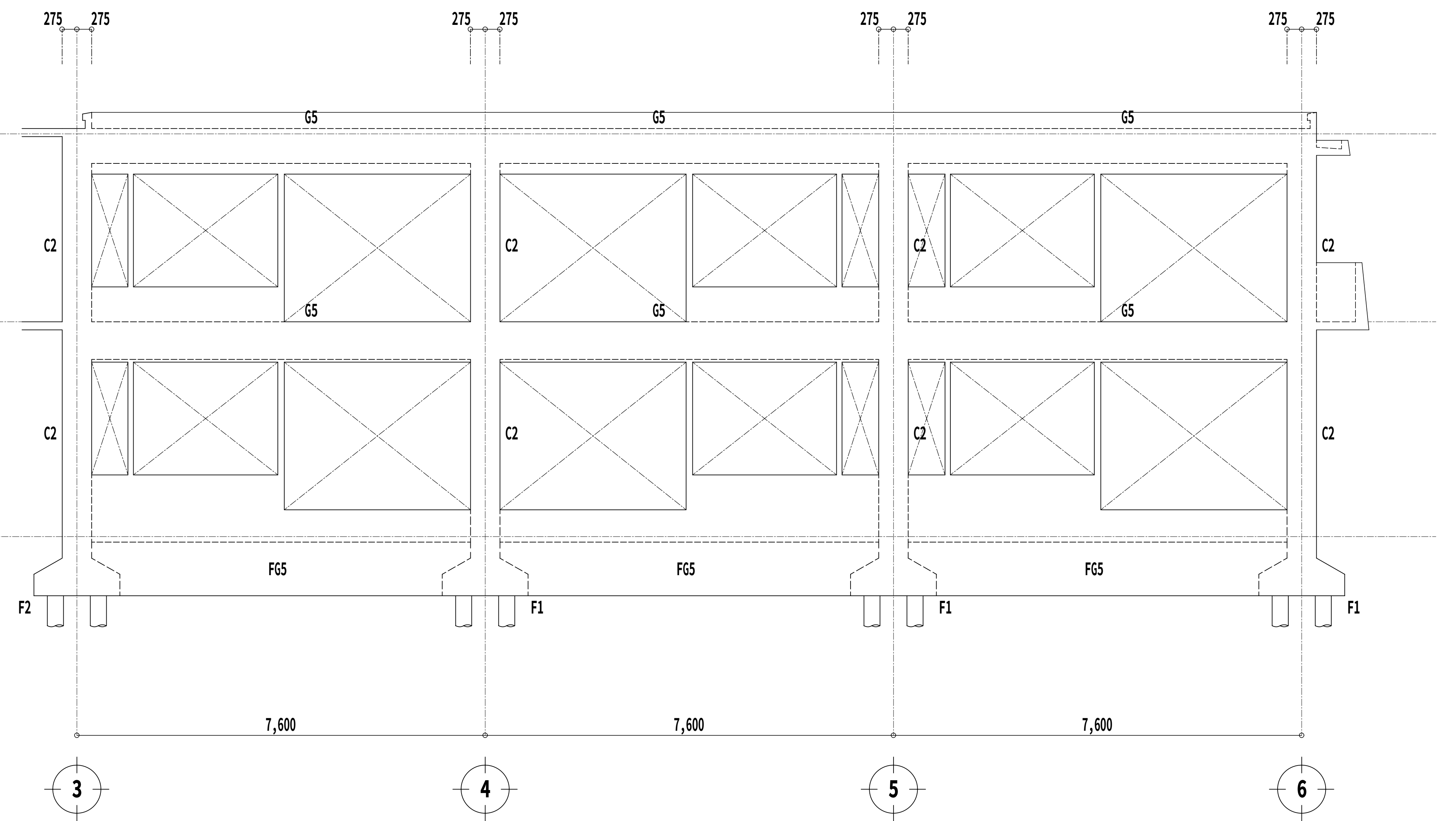
共通事項

1．特記なき壁は全てW12とする。

2．FG梁天端は全てGL－100とする。



C C通軸組図 1：100

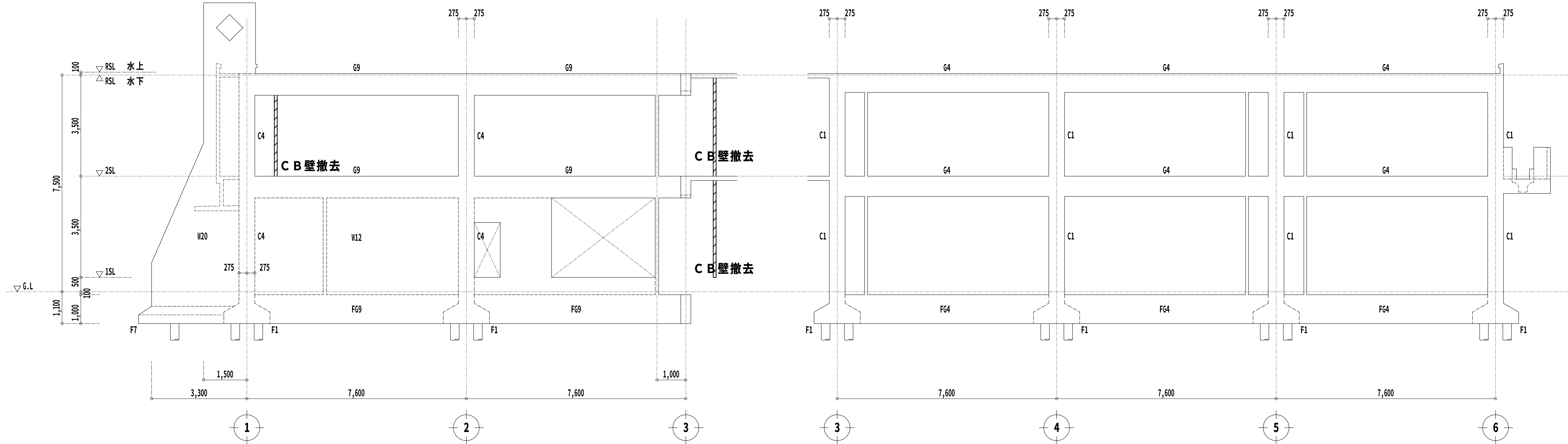


D D通軸組図 1：100

特記事項	工事名 石動東部保育所耐震補強工事	設計 一級建築士 大臣登録 第108041号 可部谷 一成	検図
	図名 軸組図1	縮尺 1/100(A2) 1/(100/√2)(A3)	月日

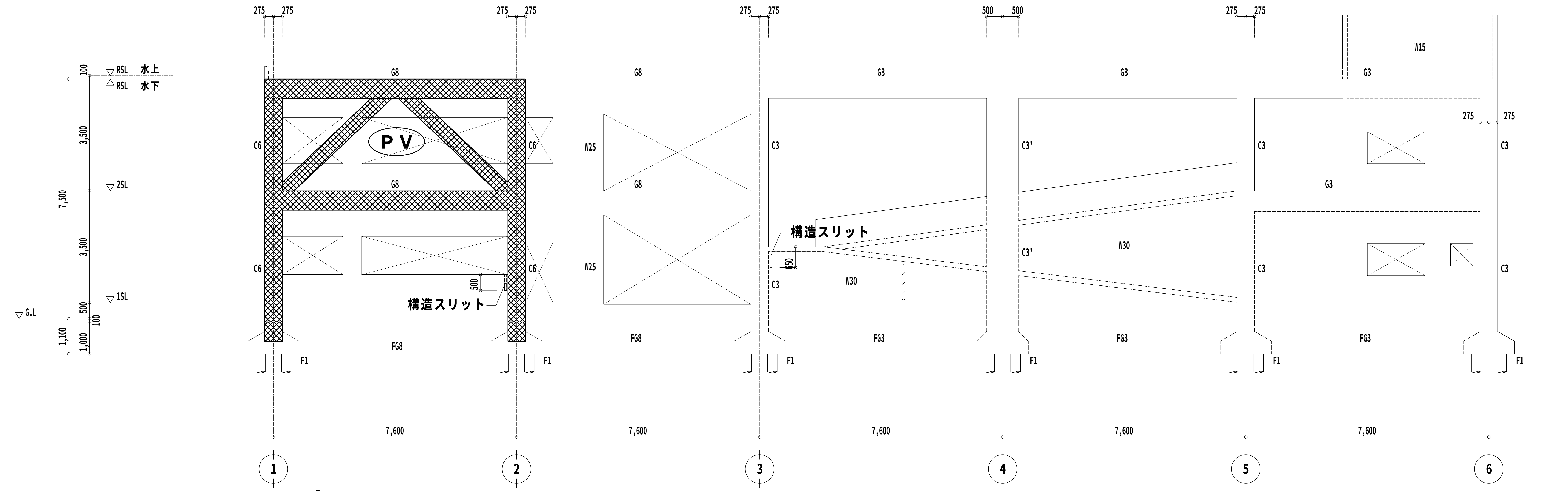
可部谷建築事務所
一級建築士事務所富山県知事登録第（7）557号
管理建築士 一級建築士 大臣登録第108041号 可部谷 一成

No. S－06

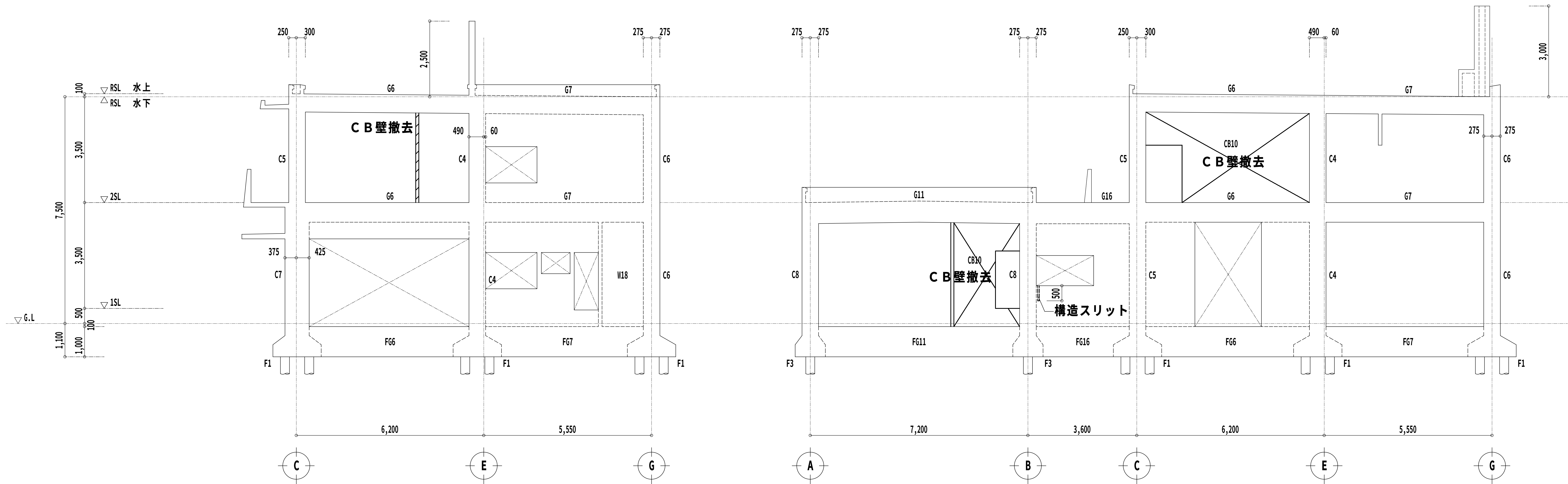


共通事項

１．特記なき壁は全てＷ１２とする。
２．ＦＧ梁天端は全てＧＬ－１００とする。

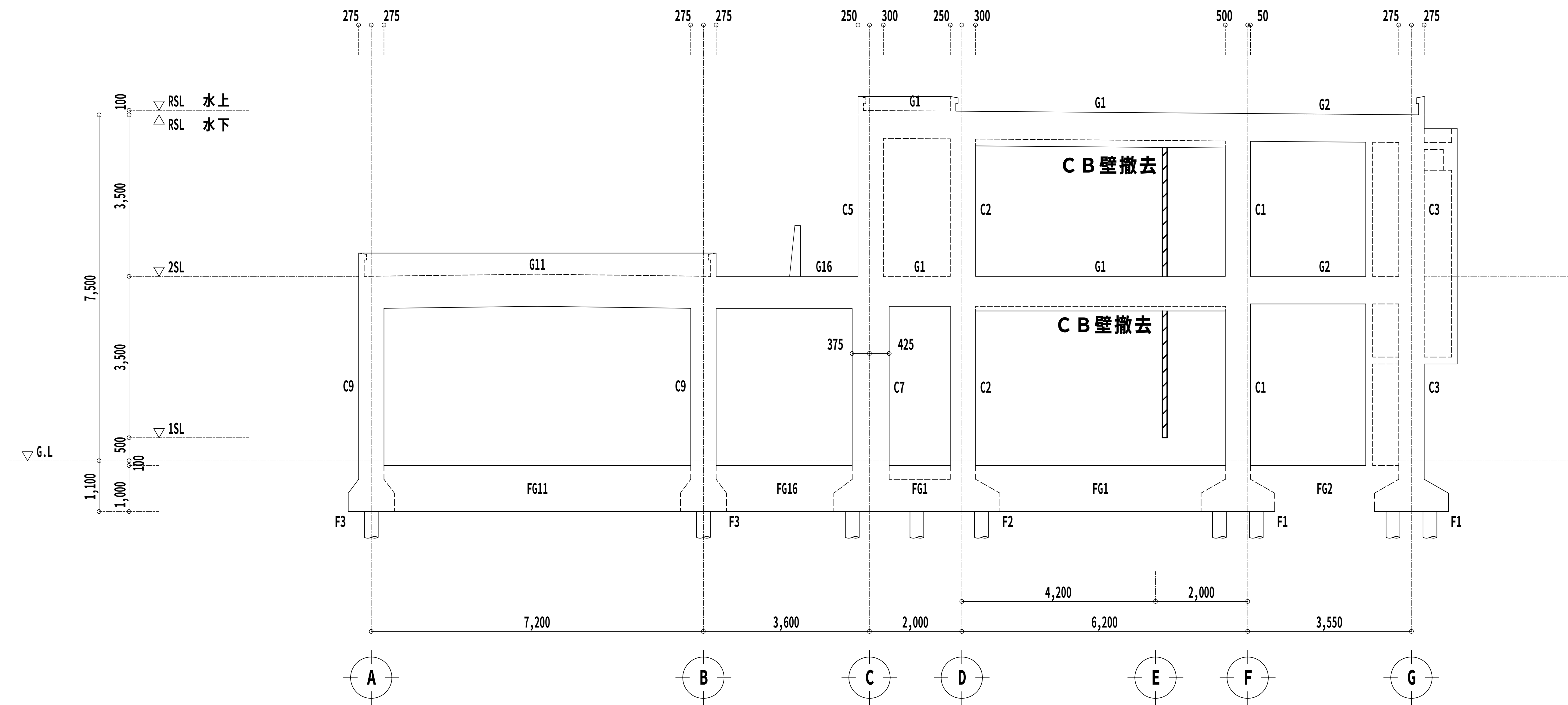


特記事項	工事名	石動東部保育所耐震補強工事	設計	一級建築士 大臣登録 第108041号 可部谷 一成	検図	可部谷建築事務所	No.
	図名	軸組図２	縮尺	1/100(A2) 1/(100√2)(A3)	月日	一級建築士事務所富山県知事登録第（7）557号 管理建築士 一級建築士 大臣登録第108041号 可部谷 一成	Ｓ－０７



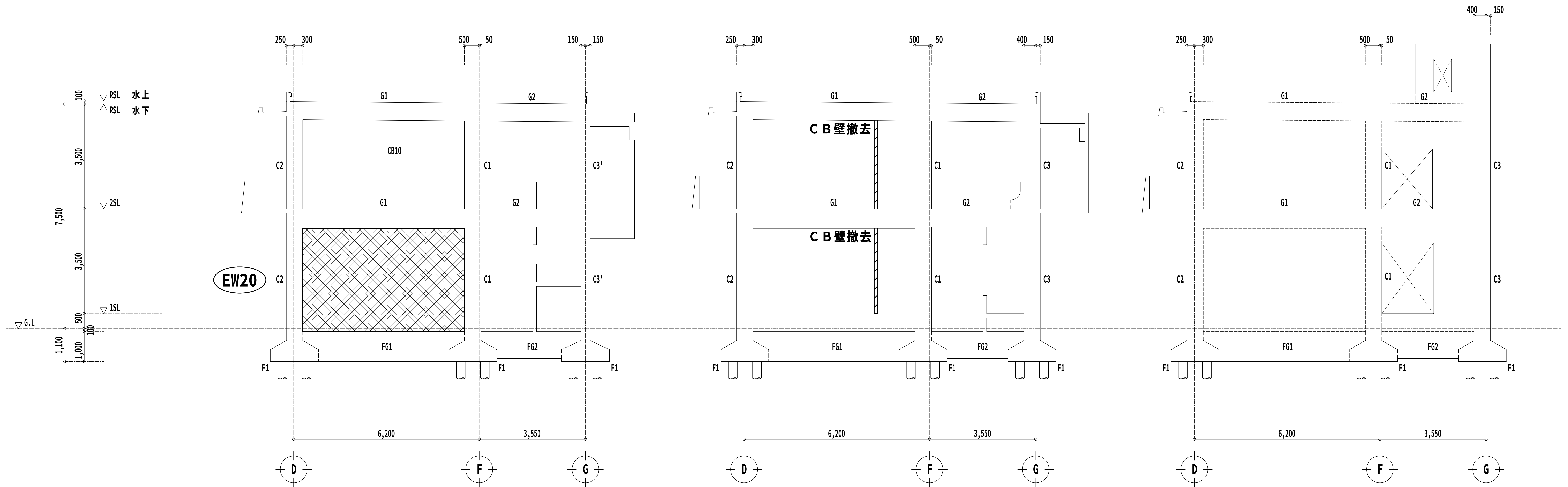
1　１通軸組図　1：100

2　２通軸組図　1：100



3　３通軸組図　1：100

特記事項	工事名	石動東部保育所耐震補強工事	設計	一級建築士 大臣登録 第108041号 可部谷 一成	検図	可部谷建築事務所	No.
	図名	軸組図３	縮尺	1/100(A2) 1/(100√2)(A3)	月日	一級建築士事務所富山県知事登録第（7）557号 管理建築士 一級建築士 大臣登録第108041号 可部谷 一成	S－08



4 ４通軸組図　　１：１００

5 ５通軸組図　　１：１００

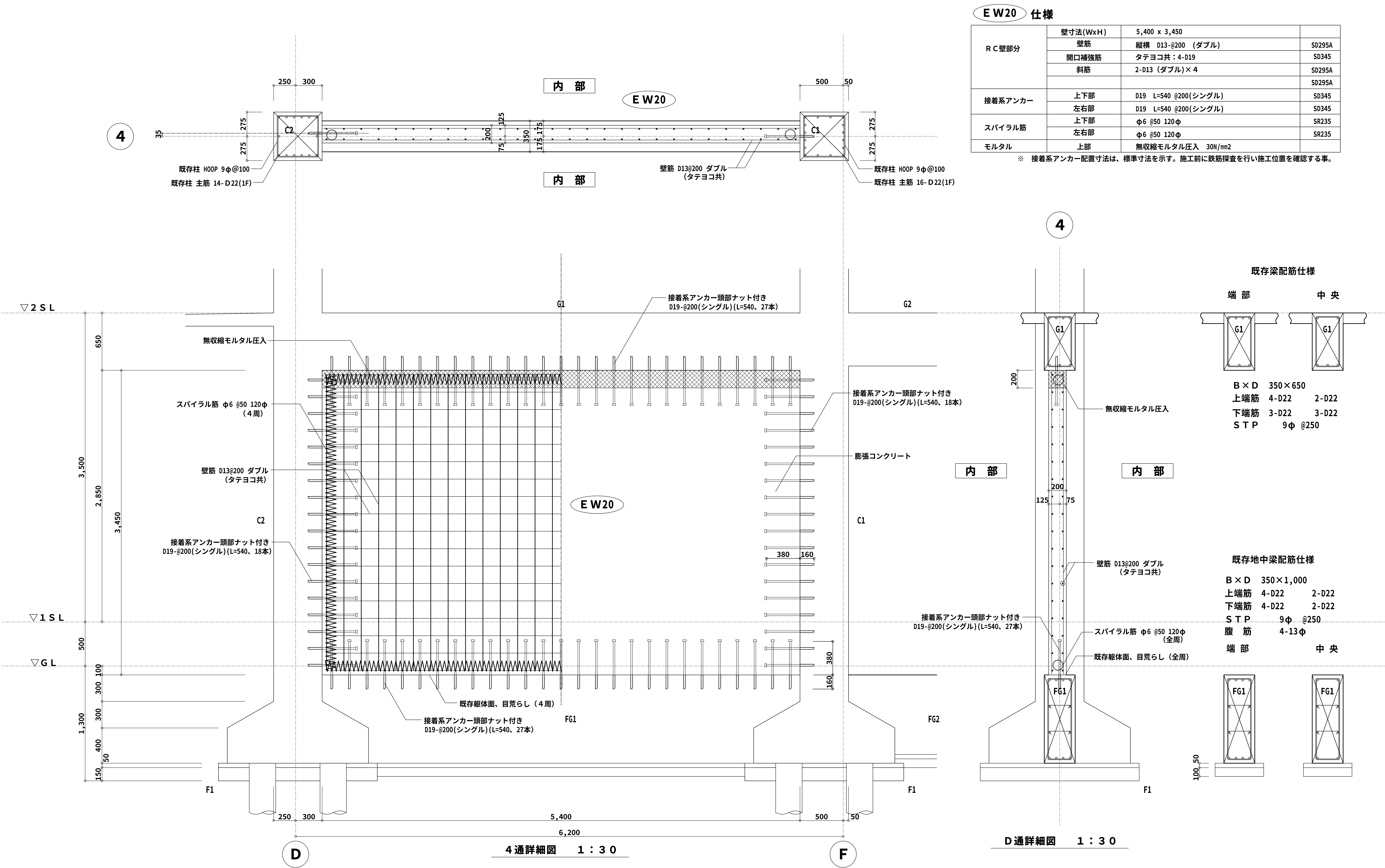
6 ６通軸組図　　１：１００

共通事項

１．特記なき壁は全てＷ１２とする。

２．ＦＧ梁天端は全てＧＬ－１００とする。

特記事項	工事名	石動東部保育所耐震補強工事	設計	一級建築士　大臣登録　第108041号　可部谷　一成	検図	可部谷建築事務所	No.
	図　名	軸組図４	縮尺	1/100(A2)　1/(100√2)(A3)	月日	一級建築士事務所富山県知事登録第（7）557号 管理建築士　一級建築士　大臣登録第108041号　可部谷　一成	S－09

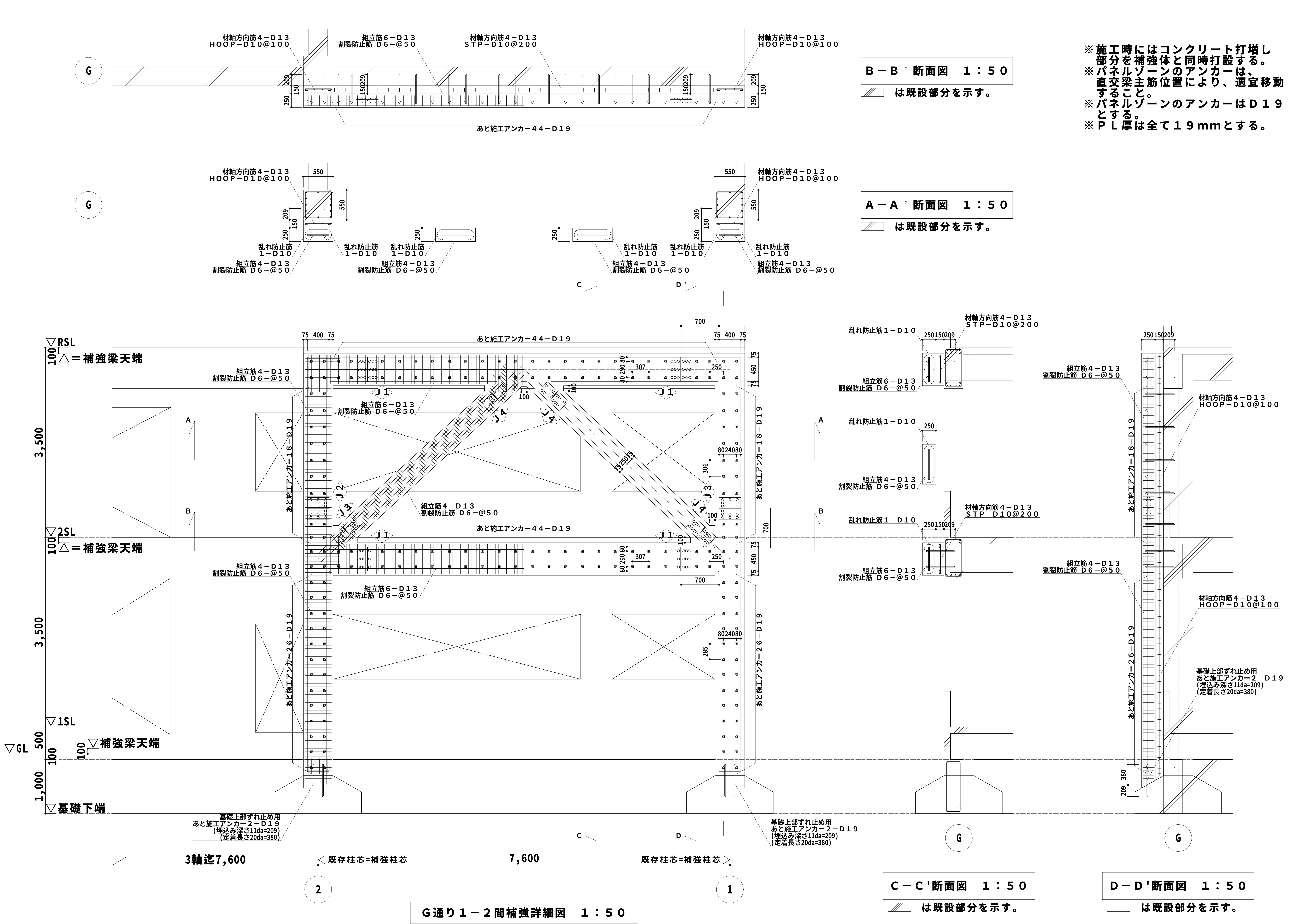


ＥW20 仕様

ＲＣ壁部分	壁寸法(WxH)	5,400 x 3,450	
	壁筋	縦横　D13-@200　(ダブル)	SD295A
	開口補強筋	タテヨコ共：4-D19	SD345
	斜筋	2-D13（ダブル)×４	SD295A
			SD295A
接着系アンカー	上下部	D19　L=540 @200(シングル)	SD345
	左右部	D19　L=540 @200(シングル)	SD345
スパイラル筋	上下部	φ6 @50 120φ	SR235
	左右部	φ6 @50 120φ	SR235
モルタル	上部	無収縮モルタル圧入　30N/mm2	

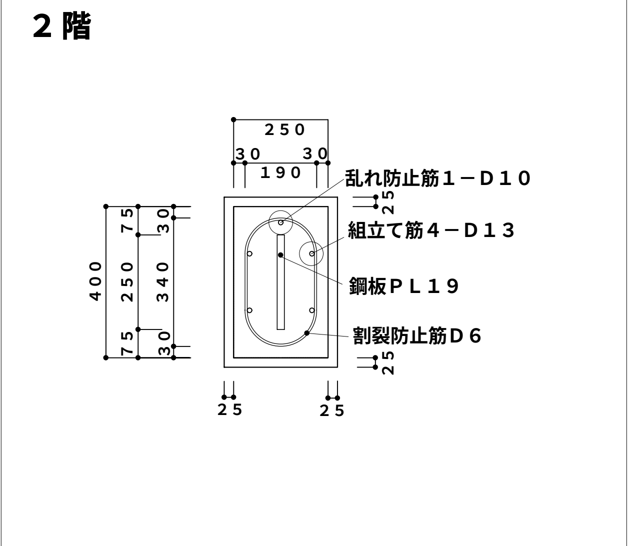
※　接着系アンカー配置寸法は、標準寸法を示す。施工前に鉄筋探査を行い施工位置を確認する事。

特記事項	工事名　石動東部保育所耐震補強工事	設計　一級建築士 大臣登録 第108041号 可部谷 一成	検図	可部谷建築事務所 一級建築士事務所富山県知事登録第（7）557号 管理建築士　一級建築士　大臣登録第108041号　可部谷　一成	No.　S－10
	図 名　ＲＣ増設壁補強詳細図	縮尺　1/30(A2)　1/(30√2)(A3)	月日		

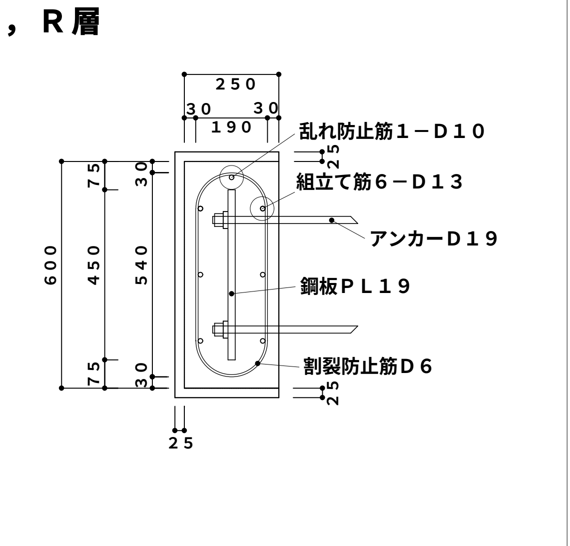


特記事項	工事名	石動東部保育所耐震補強工事	設計	一級建築士　大臣登録　第108041号　可部谷　一成	検図	可部谷建築事務所	No.
	図名	外部ブレース補強詳細図	縮尺	1/50(A2)　1/(50√2)(A3)	月日	一級建築士事務所富山県知事登録第（7）557号 管理建築士　一級建築士　大臣登録第108041号　可部谷　一成	S－11

補強ブレースリスト　１：２０



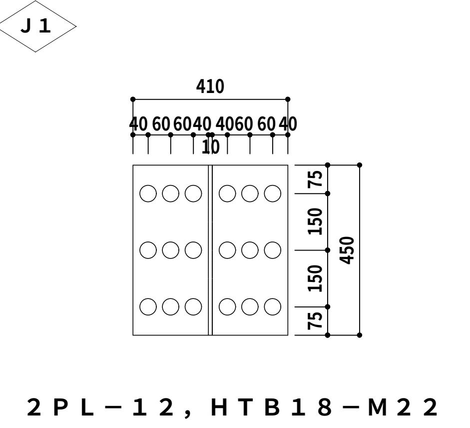
補強梁リスト　１：２０



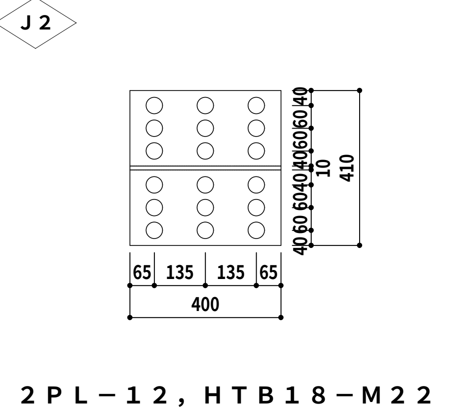
補強柱リスト　１：２０

全階

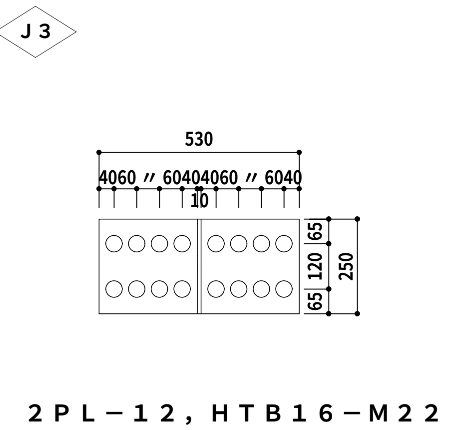
継手リスト　１：２０



２ＰＬ－１２，ＨＴＢ１８－Ｍ２２

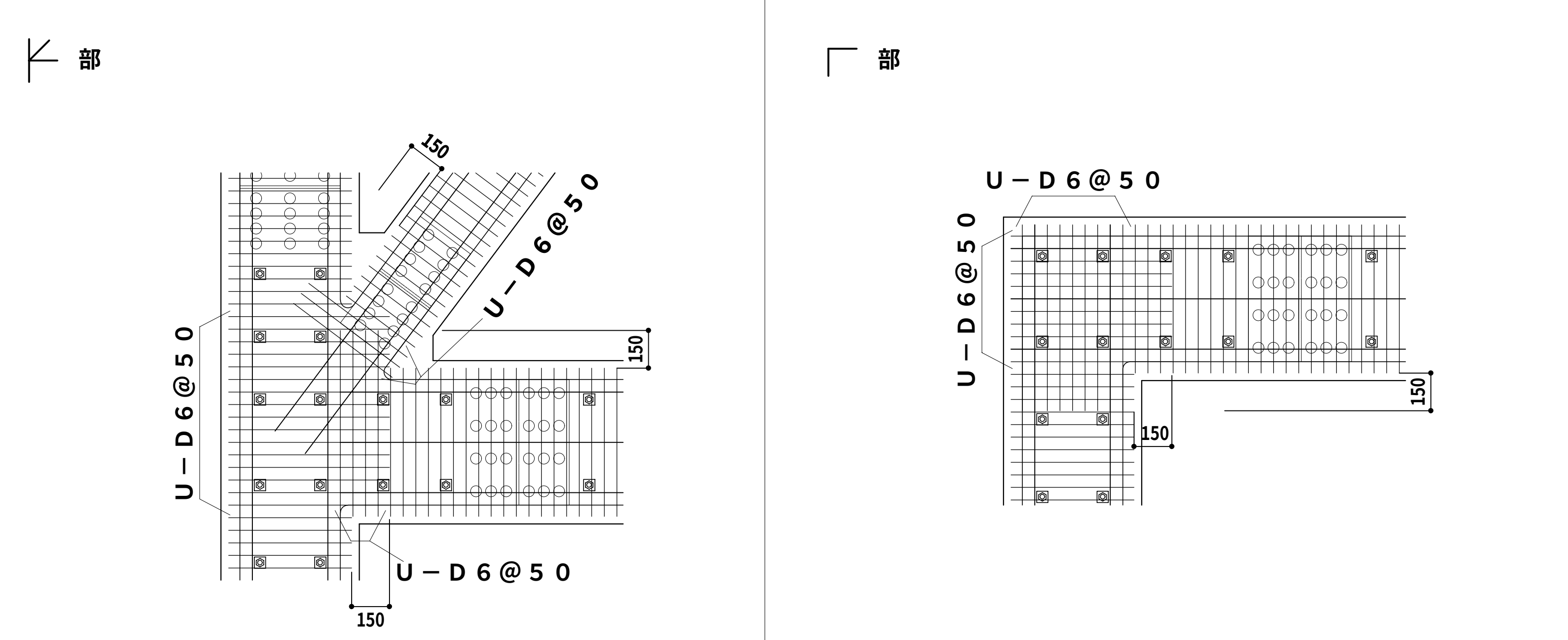


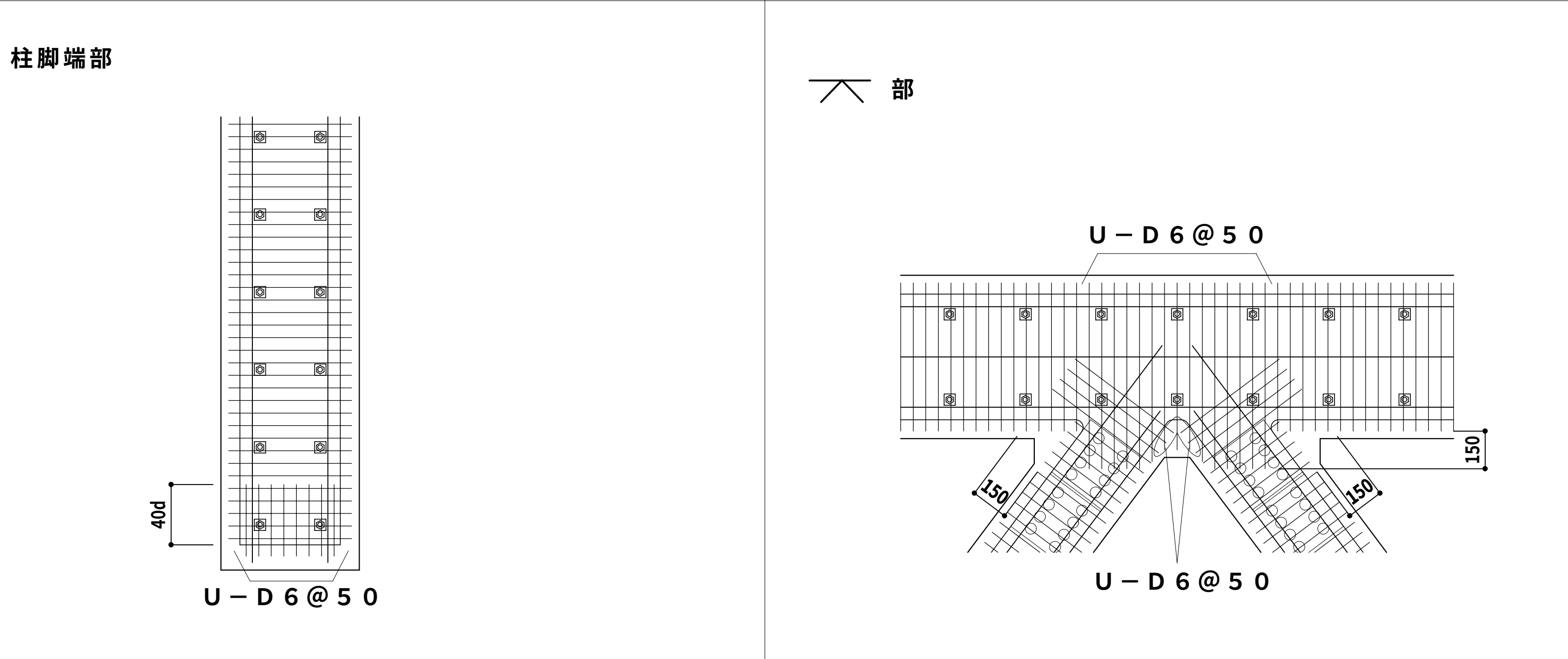
２ＰＬ－１２，ＨＴＢ１８－Ｍ２２



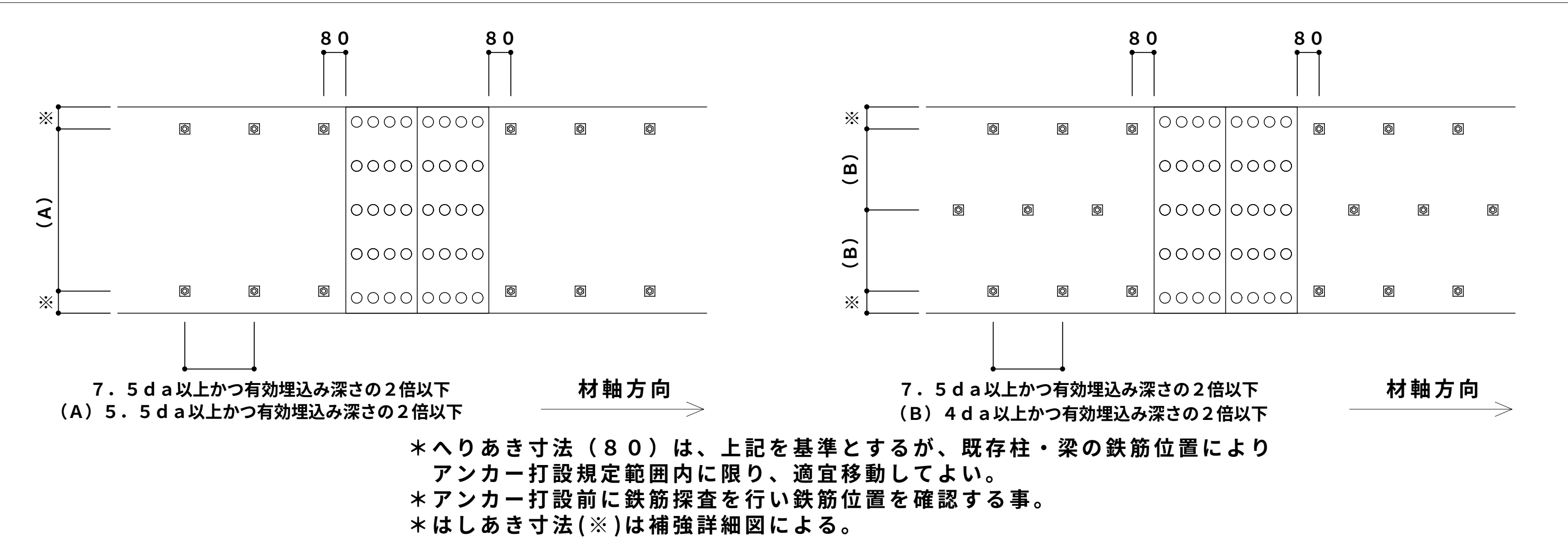
２ＰＬ－１２，ＨＴＢ１６－Ｍ２２

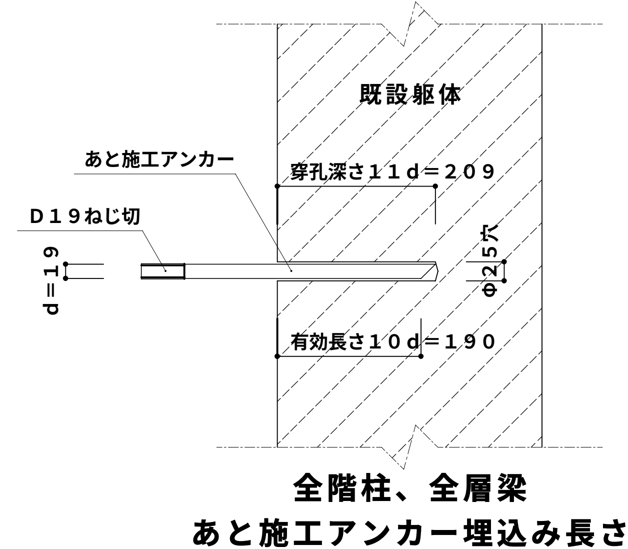
割裂防止筋配筋要領



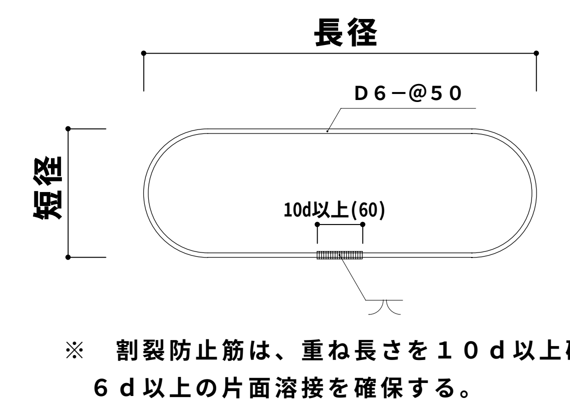


アンカー標準配置



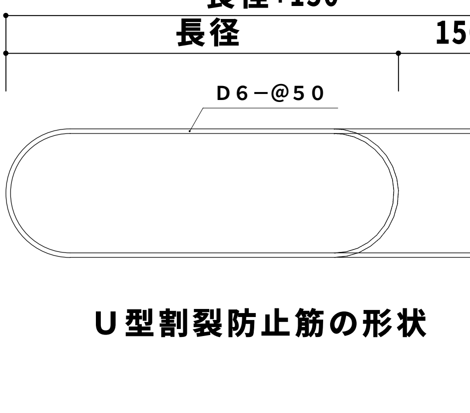


全階柱、全層梁
あと施工アンカー埋込み長さ



※　割裂防止筋は、重ね長さを１０ｄ以上確保し、
６ｄ以上の片面溶接を確保する。

割裂防止筋の形状と溶接



Ｕ型割裂防止筋の形状

１．使用コンクリート	：	Ｆｃ＝３０Ｎ／mm²
２．最大粗骨材寸法	：	２０mm又は２５mm
３．使用混和剤	：	高性能ＡＥ減水剤
４．スランプ	：	２１ｃｍ
５．使用鉄筋	：	ＳＤ２９５Ａ．Ｂ（Ｄ６，Ｄ１０，Ｄ１３）
６．使用アンカー	：	ＳＤ３４５（Ｄ１９・有効埋込み深さ１０ｄａ）
７．使用鋼材	：	ＳＮ４００Ｂ
８．使用高力ボルト	：	Ｓ１０Ｔ（Ｍ２２）
９．目荒らし	：	目荒らしは、十分行うものとし、範囲、程度に関しては特記仕様書による。
１０．施工上留意点	：	補強部材は薄厚であり、配筋が細かく、高力ボルト接合部もあるためコンクリートの充填性が非常に危惧される。コンクリート打設においては、慎重に行ない、細心の注意が必要である。このため、細径の軽便バイブレータや型枠バイブレータの使用を推奨する。

特記事項	工事名　石動東部保育所耐震補強工事	設計　一級建築士　大臣登録　第108041号　可部谷　一成	検図	可部谷建築事務所 一級建築士事務所富山県知事登録第（7）557号 管理建築士　一級建築士　大臣登録第108041号　可部谷　一成	No.　Ｓ－１２
	図名　部材リスト	縮尺　1/20(A2)　1/(20√2)(A3)	月日		

Ⅰ,工事概要

1. 工事名称　石動東部保育所耐震診断工事その1　工事
2. 工事場所　富山県　小矢部　㊊・郡　町・村　番地
3. 建築概要

構　造	階　数	延　面　積（㎡）	消防令別表	備　考
RC 造	2F	㎡	6　項	
		㎡	項	

4. 工事範囲〔●印をつけたものを適用する。〕

● 電灯設備　○ 動力設備　○ 高圧受電設備　○ 電話設備　○ 放送設備
○ 電気時計設備　○ ｲﾝﾀｰﾎﾝ 設備　○ ﾃﾚﾋﾞ共聴設備　○ 火災報知設備　○ 避雷針設備
○

Ⅱ，工事仕様

1共通仕様

図面及び特記仕様に記載されていない事項は、すべて国土交通大臣官房官庁営繕部監修の電気設備工事共通仕様書〔平成 13年度版〕、電気設備技術基準,内線規定,建築基準法,消防法,その他の関連各法規,規定による。

2 特記仕様

〔１〕章は●印,項目は番号に○印,特記事項は,●印のついたものを適用する。

章	項　目	特　記　事　項
● 一般共通事項	①, 適用基準等	● 設計の優先順序　1. 設計図　2. 特記仕様書　3. 共通仕様書
	②, 機材	● 材料指定銘柄表によるほか、同等品以上の場合は係員の承諾をうける。 ● 製作図の必要なものは、事前に承諾図を提出し、承諾をうける。
	③, 工事用電力・水	● 本工事に必要な電力．水などの費用は請負者の負担とする。
	④, 手続関係	● 本工事に伴う官公庁．署への諸手続等の費用の一切は請負者の負担とする。
	⑤, 施工従業者	● 自家用電気工作物においても、法令で定める電気工事士とする。
	⑥, 現場代理人	● 工事期間中は必ず専門技術者を現場代理人として、工事監督の任に当らせること。
	⑦, 施工図	● 着工前に施工図を作成し、係員の承認を受けた後、工事に当らせること。
	8, 残土処理	○ 構内敷きならし　○ 構内指定場所に堆積　○ 構外搬出適切処理
	⑨, 塗装工事	● 露出する管路はすべて指定色ｵｲﾙﾍﾟｲﾝﾄ2回塗りとする。
	⑩, 電線保護材料	○ 薄鋼電線管　○ ねじ無し電線管　○ 厚鋼電線管　○ ＣＤ管 ● 耐衝撃性硬質ﾋﾞﾆｰﾙ電線管　○ 可とう電線管　○ 波付硬質ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝ管 ○ ＰＥ ﾗｲﾆﾝｸﾞ鋼管　○ ＰＦ管
	11, 呼び線	○ 長さ1m以上の入線しない管路には1.2mm以上のﾋﾞﾆｰﾙ被覆鉄線を入線のこと。
	12, 接地工事	○ すべて屋外に施工するものとし接地箇所には標示杭.標示板を設置のこと。
	⑬, 用途別表示	● 器具を実装しないﾌﾟﾚｰﾄにはｴｯﾁﾝｸﾞﾌﾟﾚｰﾄ等を用いて用途を明示する。
	⑭, 回路名称	● ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ,端子盤など多数の電線が集合する箇所には回路名札を設けること。
	⑮, ﾌﾗｯｼｭﾌﾟﾚｰﾄ	○ 新金属　○ ｽﾃﾝﾚｽ　● 樹脂製（BL）　○ 特殊 ﾌﾟﾚｰﾄ（特注）
	16, ﾌﾛｱｰﾌﾟﾚｰﾄ	○ 水平高低調整式（空転防止ﾘﾝｸﾞ付）　○ 水平高低調整式
	⑰, 配線器具	● 全て大角連用型とし、ﾀﾝﾌﾟﾗｽｲｯﾁ,ｺﾝｾﾝﾄはﾈｰﾑ,使用用途表示入り、又換気扇用は、ﾊﾟｲﾛｯﾄｽｲｯﾁとする。
	18, 再使用機器	○ 取り外し再使用機器は清掃、保管、絶縁測定の上再取付けの事。（照明器具はﾗﾝﾌﾟ取替えの事。）
	⑲, 予備品	● ﾗﾝﾌﾟ、ﾋｭｰｽﾞ等（工事取付の 3 ％）　○ ﾒｶﾞｰ（500V） ○ ﾃﾞｼﾞﾀﾙ 表示照度計　○ 電気用補修に必要な工具（鉄箱入）
	⑳, 電線本数管路等	配線経路、電線本数及び配管ｻｲｽﾞ等は、設備の機能を優先させ、図面表示と多少相違しても差し支えない。 （時計.拡声.表示.ｲﾝﾀｰﾎﾝ.火報.制御及び操作設備等）
	㉑, ｺﾝｾﾝﾄ	● 一般ｺﾝｾﾝﾄ以外の特殊ｺﾝｾﾝﾄはﾌﾟﾗｸﾞ付とする。
	22, 標示杭	○ 屋外布設の配管.配線に対し、線路の屈曲箇所,道路横断箇所及び直線部分(30m ごと)に標示杭を設置の事。
	㉓, 工事保証及び経年検査	● 工事完成後、請負業者は契約書に準ずる期間保証の責に任ずる。 完成引渡し後 1 年目 — 年目には経年検査を行う、検査の結果、工事不良及び、壊れ等に準ずる理由により生じたと認められる破傷又は、不都合は監督員の指示により速やかに修理の事、これに必要な費用は全て請負者負担とする。
	㉔, その他	● 不要となった機器、配管配線、及び配線器具等は撤去する。 ● 本工事により既設機器、配管、配線に移設及び配線替え等の変更が必要となった時は本工事で行う
	㉕, 発生材の処理等	● 発生材は構外搬出処分とし、その費用も含め元請業者自らの責任において適 正に処理するものとする。 ● 運搬、処分委託契約書写し及び許可証写しの提出 ● マニフェストの写し提出(A、B2、D、E票) ● PCBを含む機器類は、PCBが飛散、流出及び地下への浸透等が無いよう適当な容器に納め、適切な場所に保管し、工事完了後、施設担当者に引き渡す。

章	項　目	特　記　事　項
● 電灯設備	①, 電気方式	幹線 ● 単相3線式 100V　○ 直流2線式 100V 分岐 ● 単相2線式 100V　● 単相2線式 200V ○ 直流2線式 100V
	2, ﾊｲﾃｰｼｮﾝ	○ 外部固定型　○ 内部固定型　○ 上下移動型　○ OAﾌﾛﾜｰ内ｺﾝｾﾝﾄ
	③, 照明器具	● 蛍光灯ﾗﾝﾌﾟ-- ● 白色　● 電球色　● LEDﾗﾝﾌﾟ 安定器の型式 -- ● 省電力型　○ 一般型 ○ 水銀灯ﾗﾝﾌﾟ-- ○ 水銀ﾗﾝﾌﾟ　○ 高圧ﾅﾄﾘｳﾑﾗﾝﾌﾟ ○ ﾒﾀﾙﾊﾗｲﾄﾞ　○ ﾊｲｶﾗｲﾄ 安定器の型式　○ 普通高力率型　○ 定電力型　○ 低始動電流型
	④, 非常照明器具(既設)	● 電池内蔵型　○ 電源別置型
	⑤, 吊りﾎﾞﾙﾄ	FL20W x 2, 40W x 1,以上,電池内蔵 20W x 1 以上,白熱灯 5Kg以上
	6, 予備配管	○ 分電盤より天井ふところ迄 C(31)____ 本を設ける。
○ 動力設備	1, 電気方式	● 幹線, 分岐共　三相3線200V
	2, 機器への接続	● 本工事制御盤より別途電動機への配線は本工事とする。
	3, 電動機の接地	● 単独接地　○ 共通母線式 ○ 金属管接地（7.5KWをこえるものは,接地専用線式とする）
	4, 電極棒	○ 本工事　○ 別途工事
○ 高圧受電設備	1, 電気方式	高圧 ● 三相3線6KV（既設ｷｭﾋﾞｸﾙ取替え） 低圧 ● 三相3線200V　● 単相3線式 200V/100V
	2, 盤形式	● 閉鎖型　○ 半閉鎖型　○ 開放型　○ 屋内　● 屋外
	3, 主遮断装置	○ ＣＢ型　○ ＰＦ-ＣＢ型　● ＰＦ-Ｓ型 定格遮断電流　○ 8 KA　● 12.5 KA
	4, 操作方式	● 手動式　○ 電気式
	5, 盤基礎	○ 本工事　● 別途工事
	6, 配線ﾋﾟｯﾄ及び蓋	○ 本工事　○ 別途工事
○ 電話設備	1, ﾛｰﾃｰｼｮﾝ	○ 一般用____個　● ﾎﾞﾀﾝ電話用 14 個
	2, 保安器用接地	本工事に　○ 含む　○ 含まない
	3, 電話機への配線	○ 内線電話1本につきTIVF0.65-2C 2m 2号ﾜｲﾔﾌﾟﾛﾃｸﾀｰ 1.5m見込む。　○ 内線電話1本につきICT0.4-4C 2m 2号ﾜｲﾔﾌﾟﾛﾃｸﾀｰ 1.5m見込む。
	④, 工事範囲	● 配管工事　○ 配線工事　○ 接地工事　○ 機器取付調整工事
○ 放送設備	1, 増幅器	種類 -- ○ 一般型　○ 非常放送用　○ 併用　○ BGM用(別途工事) 型式 -- ○ 卓上型　○ ｷｬﾋﾞﾈｯﾄﾗｯｸ型　○ ﾃﾞｽｸ型　○ 壁掛型 出力 -- ____W
	2, ｱﾝﾃﾅ	○ 本工事〔○ ＡＭﾎｲｯﾌﾟ　○ ＦＭ８素子〕　○ 別途工事
	3, 接地	○ 本工事　○ 別途工事
○ 電気時計	1, 親時計	____回線　○ 壁掛型　○ 自立型
	2, 時報子時計	親時計に　○ 内蔵　○ 別置
	3, ﾁｬｲﾑ	親時計に　○ 内蔵　○ 別置
	4, 停電対策	親時計,子時計共10時間以上駆動とする。
○ ｲﾝﾀｰﾎﾝ	1, 通話方式	○ 同時通話式〔○ 親子式　○ 相互式　○ 複合式　○ 交互通話式
	2, 型式	親機　○ 卓上型　○ 壁掛型 子機　○ 卓上型　○ 壁掛型
○ ﾃﾚﾋﾞ共聴設備	1, 配線方式	○ 直列ﾕﾆｯﾄ式　○ 幹線分岐式
	2, ｱﾝﾃﾅ	○ ＶＨＦ 12 素子〔BL規格〕　○ ＵＨＦ 20 素子〔BL規格〕　○ B,S 600φ〔ｵﾌｾｯﾄ型〕
	3, ｱﾝﾃﾅ支持	○ 壁面支持型　○ 自立型　○ 地上自立型〔鋼管ﾎﾟｰﾙ 7 m〕
	4, 同軸ｹｰﾌﾞﾙ	○ 標準ｹｰﾌﾞﾙ　○ 低損失ｹｰﾌﾞﾙ
	5, ﾋﾞﾙ陰調査	○ 本工事　○ 別途工事
○ 火災報知設備	1, 受信機	P 型____級____回線〔○単独　○他と一体〕(既設品移設)
	2, 副受信機	____回線　○ 複合型〔表示器〕
	3, 総合盤	○ 消火栓箱〔別途〕に組込み　○ 専用
	4, 消火栓ﾎﾟﾝﾌﾟ始動	○ 発信機と連動　○ 単独
	5, 連動制御盤〔器〕	____回線〔○単独　○他と一体〕（新設）
	6, 自動閉鎖装置	○ 防火扉用〔○磁石式　○ ﾗｯﾁ式〕〔○本工事　○別途工事〕 ○ 防火ｼｬｯﾀｰ用は〔○別途工事　○本工事〕
○ 避雷針設備	1, 導電部	○ 突針　○ 棟上導体　○ 金属手摺〔建築工事〕等
	2, 避雷導線	○ 銅より線　○ 建築構造利用
	3, 接地極	○ 単独
	4, 接地用端子箱	○ 黄銅製　○ 合成樹脂製　○ 鋼鈑製　○ ｽﾃﾝﾚｽ製
	5, 接地抵抗値	____Ω以下責任施工とする。

材料指定ﾘｽﾄ

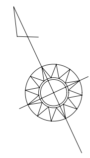
ｺﾝｸﾘｰﾄ柱	・日本海ｺﾝｸﾘｰﾄ　・日本ｺﾝｸﾘｰﾄ　・ｾｷｻﾝ　・
ﾊﾝﾄﾞﾎｰﾙ(蓋)	・小林鋳造　・長谷川鋳工所　・南濃鋳工所　・大蔵鋳工所　・小島製作所
計器類	・(株)東芝　・三菱電機　・横河電機　・立石電機　・
継電気類	・松下電工　・立石電機　・(株)東芝　・三菱電機　・
電力用遮断器	・(株)東芝　・日立製作所　・三菱電機　・富士電機　・
電磁開閉器	・日立製作所　・(株)東芝　・三菱電機　・富士電機　・松下電工
気中開閉器	・戸上電機　・富士電機　・三菱電機　・
ﾌﾞﾚｰｶｰ	・三菱電機　・松下電工　・富士電機　・(株)東芝　・
ｷｭﾋﾞｸﾙ及び受電盤類	・内外電機　・別川製作所　・大日製作所　・川崎電気　・河村電器
変圧器	・三菱電機　・日立製作所　・(株)東芝　・
進相ｺﾝﾃﾞﾝｻｰ	・三菱電機　・日立製作所　・(株)東芝　・日本ｺﾝﾃﾞﾝｻｰ　・
避雷器	・三菱電機　・日立製作所　・(株)東芝　・
電線管及び付属品	・松下電工　・東芝鋼管　・丸一鋼管　・日本ﾊﾟｲﾌﾟ製造
硬質ﾋﾞﾆｰﾙ電線管	・積水化学　・三菱樹脂　・ｱﾛﾝ化成　・古河電工　・
電線類	・古河電工　・住友電工　・藤倉電線　・大日電線　・矢崎電線
配線器具	・松下電工　・東芝電材　・寺田電機　・神保電器　・
配分電盤及び端子盤	・内外電機　・別川製作所　・大日製作所　・松下電工　・河村電器
照明器具	・松下電工　・東芝ﾗｲﾃｯｸ　・三菱電機　・
同上(水銀灯)	・松下電工　・東芝ﾗｲﾃｯｸ　・三菱電機　・
拡声機器類	・松下通信　・日本ﾋﾞｸﾀｰ　・ＴＯＡ　・
電気時計機器	・松下電工　・ｾｲｺｰ　・TIC ｼﾁｽﾞﾝ　・
ﾃﾚﾋﾞ共聴機器類	・ＤＸｱﾝﾃﾅ　・ﾏｽﾌﾟﾛ電工　・松下電工　・八木ｱﾝﾃﾅ　・
電話交換機器	・沖電気工業　・日本電気　・岩崎通信　・日立製作所　・松下電器
ｲﾝﾀｰﾎﾝ，ﾅｽｺｰﾙ類	・松下通信　・ｱｲﾎﾝ　・東芝電材　・
火災報知機器	・ﾎｰﾁｷ　・能美防災　・松下電工　・ﾆｯﾀﾝ　・
防排煙機器類	・ﾎｰﾁｷ　・能美防災　・松下電工　・ﾆｯﾀﾝ　・
避雷針機器類	・大坂避雷針　・ﾗｲｵﾝ 電機　・日本避雷針　・
蓄電池.充電器	・日本電池　・湯浅電池　・古河電池　・松下電器　・
表示器	・松下電工　・ｱｲﾎﾝ　・TIC ｼﾁｽﾞﾝ　・
発電機	・三菱電機　・日立製作所　・(株)東芝　・
原動機	・三菱重工　・新潟鉄工　・川崎重工　・ ・久保田鉄工所　・ﾔﾝﾏｰﾃﾞｨｰｾﾞﾙ　・
中央監視ｼｽﾃﾑ	・

※,提出書類

ｲ, 着手時	● 工事費内訳明細書　● 総合工程表　● 工事施工計画書 ● 現場代理人届　● 主任技術者届　● 協力業者採用一覧表 ● 設計図製本（2ﾂ折）〔電気〕 3 部 縮小版 — 部　● 製造業者一覧表 〔建築,電気,設備共〕 — 部 縮小版 — 部
ﾛ, 工事中	● 各種施工図　● 各種承諾図 3 部　● 各種試験成績報告書 ● 月間工程報告書(工程写真含む)　● 短期工程表 ● 工事日報　● 工事進捗及び出来高報告書 ○ 資材搬入簿　● 各種保健加入控え　● 打合せ記録簿 ○ 工事施工ﾁｪｯｸﾘｽﾄ(壁,ｽﾗﾌﾞ打設前,二重天井内配管時,入線時,機器取付時)　● 立会検査願い　○ 中間出来高検査願い書
ﾊ, 完成時	● 工事写真ｱﾙﾊﾞﾑ(ﾈｶﾞ及びﾍﾞﾀ焼付共) 3 部　● ｶﾗｰｻｰﾋﾞｽ判 ● 竣工図,施工図(原図共2ﾂ折製本金文字入) 3 部 ● 竣工写真ｱﾙﾊﾞﾑ(ﾈｶﾞ及びﾍﾞﾀ焼付共) 3 部　● ｶﾗｰｻｰﾋﾞｽ判 ● 竣工図CADﾃﾞｰﾀｰ、工事・完成写真 3 部　● 電子納品(CD-ROM) ● 縮小二次原図（A3版） 各 3 部 ● 各種試験成績報告書 3 部 ● 各種保証書及び取扱説明書 3 部 ● 竣工立会検査願い 3 部 ● 予備品及び備品一覧表 3 部 ● 諸官庁手続き書控え 3 部 ● 保守指導案内書 3 部

特記事項

工事名　石動東部保育所耐震補強工事その1	設計　一級建築士　大臣登録　第108041号　可部谷　一成	検図	可部谷建築事務所 一級建築士事務所富山県知事登録第（7）557号 管理建築士　一級建築士　大臣登録第108041号　可部谷　一成
図名　電気設備特記仕様書	縮尺　NO SCALE	月日	No.　E－01



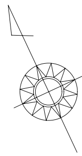
38,000
7,600 7,600 7,600 7,600 7,600
1,700 3,550 2,000 4,200 2,000 3,600 7,200 22,550

CE3.5゜-4C HIVE(22)
(既設配管,配線取替え)
ﾀｲﾑｽｲｯﾁ(24h,防水BOX入り)
(既設品取替え)
T.S

プロパン室
食品庫
雑庫
スロープ
ポンプ室
UP
UP
←EXP.J
配膳室
WC
配膳台
廊下
既設配線 VVF1.6 -3Cを
ﾒﾀﾙﾓｰﾙｼﾞﾝｸﾞ(新設)に入線
FC配管,配線立上げﾀﾞｸﾄ(樹脂製)
(既設)
2EET
2EET
既設配線 VVF1.6 -3Cを
ﾒﾀﾙﾓｰﾙｼﾞﾝｸﾞ(新設)に入線
既設ｺﾝｾﾝﾄ(露出型)取替え
(露出BOXに取付,既設配線に接続)
休憩室
教材室
教材室
保育室
保育室
保育室
ホール
玄関
WC
WC
テラス
下足室
ロッカールーム
足洗場
UP
WC
押入
事務室
宿直室
EXP.J↑

1階平面図 1/100

特記事項	工事名	石動東部保育所耐震補強工事その1	設計	一級建築士 大臣登録 第108041号 可部谷 一成	検図	可部谷建築事務所 一級建築士事務所富山県知事登録第（7）557号 管理建築士 一級建築士 大臣登録第108041号 可部谷 一成	No. E－02
	図名	改修電気設備配線図 1階	縮尺	1/100(A2) 1/(100√2)(A3)	月日		



38,000
7,600 7,600 7,600 7,600 7,600
1,700 3,550 2,000 4,200 2,000 11,750 3,600 7,200

A-11W
照明器具(自動点滅器内臓型)
(既設照明器具取替え)

CE3.5°-4C HIVE(22)
(既設配管,配線取替え)

臭突FAN(既設)

EWP(臭突FAN用)
(既設品取替え)

J.BOX
(既設品取替え)

CE3.5°-4C HIVE(22)
(既設配管,配線取替え)

CE3.5°-3C HIVE(16)
(既設配管,配線取替え)

機械室
(既設配管,配線)

配膳室

吹抜

スロープ

吹抜

雑庫

廊下

廊下

DN

教材室
保育室
保育室
WC

教材室
WC
保育室
保育室

教材室
WC
保育室

ベランダ

ベランダ

2階平面図 1/100

照明器具姿図

A-11W	LED16.5W x1(WP) 新設 LED防犯灯 FHP32形相当	1	既設照明器具	FL20W ×1灯用(WP) 撤去	1
	防雨型 自動点滅器内蔵 落下防止ワイヤー付 壁面取付金具含む 前面パネル：アクリル（透明つや消し仕上） 本体：アルミダイカスト（クールホワイト） 光源寿命６００００時間			防雨型 自動点滅器付	

特記事項	工事名	石動東部保育所耐震補強工事その1	設計	一級建築士 大臣登録 第108041号 可部谷 一成	検図	可部谷建築事務所 一級建築士事務所富山県知事登録第（7）557号 管理建築士 一級建築士 大臣登録第108041号 可部谷 一成	No. E－03
	図名	改修電気設備配線図 2階	縮尺	1/100(A2) 1/(100√2)(A3)	月日		

特記仕様書

I・ 工事概要

1．工事名称　石動東部保育所耐震補強工事

2．工事場所　小矢部市　畠中　　地内

3．建物概要　（建物名称）

構造	階数	延面積m2	消防施工令別表	備考
RC	2階			

4．工事種目　（ ○印のあるものを適用する）

（1）　給排水衛生設備工事　・衛生器具設備　・給水設備　・排水設備　・給湯設備　・ガス設備　・消火設備　（　　）　・浄化槽設備　（・単独処理槽　・合併処理槽）

（2）　空気調和設備工事　・主要機器設備　⊙配管設備　・風導設備　⊙給油設備　⊙換気設備　（・機器設備　・風導設備）　・自動制御設備　（・機器設備　・電気配管配線設備）　・床暖房設備　・　・

II・ 工事仕様

1．共通仕様

設計図及び，特記仕様に記載されていない事項は，

・国土交通大臣官房官庁営繕部監修［機械設備工事共通仕様書］及び［機械設備工事標準図］による。（平成１６年度版）

・監督員の指示による。

2．特記仕様

章は○印の付いたもの 項目は○印の付いたもの，特記事項は○印の付いたもの

また、特記事項覧内の※印項目は全て適用。

III．　特記仕様

章	項目	特記事項
⊙一般共通事項	① 適用基準等	設計書の優先順序　1．設計図　2．特記仕様書　3．共通仕様書
	② 官公庁への手続	本工事に必要な工事用電力・水及び諸手続き等の費用一切は，全て請負者の負担とする。
	③ 工事範囲	設計図に記載なくとも構造、機能、美観上、当然必要と認められるものは、請負金額の範囲内で施工のこと。
	④ 施工の立ち会い	共通仕様書及び次に記載されている施工の際は、監督員の立会いを受ける。但し監督員の認める軽微な場合はこの限りではない。 （a）主要機器の設置。 （b） サク井の検尺、ケーシング沈設、砂利充填、ポンプ据付等。 （c）設備機器総合試運転。
	⑤ 施工計画	着工に先立ち、施工計画表．実施工程表．機器承諾図．施工図等を提出し、監督員の承諾を得て後施工のこと。
	⑥ 工事提出図書	《提出図書の部数等は、原則として建築図特記仕様書による。》
	(1)工事写真	工事の進捗状況が把握できる設計略図、寸法、日付等、記入した小黒板を置いて撮影のこと。 工事中 → ｶﾗｰｻｰﾋﾞｽ版１部　完成時 → ｶﾗｰｻｰﾋﾞｽ版１部
	(2)設計図	着工時 → 縮小版製本１部（建築図・電気図・設備図合同製本）
	(3)完成図	工事完成後２５日以内に完成図として、黒表紙製本１部（施工図共）
	(4)試験成績表 測定表	（a）サク井 ＝ 揚水量・自然水位・運転水位・電気探査値 （b）冷暖房空調 ＝ 風量・風速・温湿度・騒音 （c）換気 ＝ 風量・風速・温湿度・騒音 （d）排煙 ＝ 風量・風速 （e）
	(5)保守指導案内書	機器保守に関する指導案内書を提出し、取扱い責任者に対し適切な指導をすること。
	7 発生材の処理	引渡を要するもの。・なし　・あり（　　） 引渡を要しないものは、全て構外に搬出自由処分とするも 産業廃棄物の処理に係る法律等 関係法令に従い適切に処理のこと
	8 はつり	既存のコンクリート床及び、壁の配管．風導貫通部の穴開けはダイヤモンドカッターによるコアー抜きとする。
	⑨ 耐震措置	機器・配管・風導等は耐震を考慮し、堅固に据付け取付け又は支持を行う。
	⑩ その他	残土処分　・構内敷ならし　⊙構外搬出適切処理 埋戻し土　・根伐中の良質土（但し管の周囲は山砂）・購入土 耐火構造等の防火区画等を貫通する管は、建築基準法施工令第112条第15項．及び建設省告示第3183号の規定に基ずき、適切に処理の事
・衛生器具設備	1 衛生器具 附属品	ＪＩＳマーク表示品　※ 洗浄弁は節水型とする 大便器には ・耐火カバー（ピット内不要）・アスファルト被覆　・バキュームブレーカー（洗浄弁の場合）付
	2 洗浄方式	大便器 ・洗浄弁方式　・タンク方式（防露型） 小便器 ・洗浄弁方式　・タンク方式（防露型）　・個別感知フラッシュ弁（・埋込 ・露出）　・集合感知ハイタンク弁
	3 小便器洗浄管	・露出 ・埋込　配管（・SGP-PD ・SGP-VB）
	4 その他	水栓こまは原則として、節水コマとする。 寒冷地の場合水抜き栓を使用する。 （水栓は耐寒水栓とし、衛生器具附属のものは固定コマ式）

章	項目	特記事項
・給水設備	1 給水方式	・水道直圧給水方式・高置水槽方式・圧力水槽方式 ・上水・井水 ・受水槽＋給水ポンプユニット方式（吐出圧一定 台数制御）
	2 上水道引込み	引込み口径 ＝ 250mm 引込納付金 ・要（・別途 ・本工事 ￥178,500円）・不要
	3 量水器	親メーター（・貸与品 ・本工事）　子メーター（・本工事） 隔測式リモートメーター　機器（・本工事 ・別途工事）　電気配管配線（・本工事 ・別途工事）
	4 弁・量水器桝	・建設省標準図 VC MC型　・水道事業者仕様
	5 弁類	水道直結部分 JIS（・10K　・管端防蝕弁） その他の部分 JIS（・5K ・10K ・管端防蝕弁）
	6 配管材料	屋内配管 ・ﾗｲﾆﾝｸﾞ鋼管（・ﾎﾟﾘ粉体ＳＧＰ-ＰＤ ・塩ビHIVP）　・ステンレス鋼管（SUS304TPD） 地中埋設配管（建屋土間内） ・外面被覆ﾗｲﾆﾝｸﾞ鋼管（・ﾎﾟﾘ粉体ＳＧＰ-ＰＤ ・塩ビSGP-VD） ・耐衝撃性硬質塩化ビニール管（HIVP） 地中埋設配管（屋外埋設） ・外面被覆ﾗｲﾆﾝｸﾞ鋼管（・ﾎﾟﾘ粉体SGP-PD ・塩ビSGP-VD） ・耐衝撃性硬質塩化ビニール管（HIVP） 水道引込管（屋外埋設） ・水道局指定管材料 ・ ※ ライニング鋼管のネジ込み継手は、管端ｺｱ-防蝕継手とする。 ※ 給水管の最小口径は、２０mmとする。 ※
	7 管の埋設深度	一般敷地 ＝ ４５０mm以上　車両通路 ＝ ７５０mm以上 寒冷地 ＝ 凍結深度以上
	8 可とう継手	・ベローズ型（鋼板製水槽廻りに使用） 寸法 ２５Ａ以下＝３００Ｌ　５０Ａ以下＝５００Ｌ　１５０Ａ以下＝７５０Ｌ ・合成ゴム製（ＦＲＰ製水槽廻りに使用） 寸法 ４０Ａ以下＝３００Ｌ　８０Ａ以下＝５００Ｌ　１００Ａ以上＝７００Ｌ
	9 防振継手	鋼製フランジ付で補強材挿入した合成ゴム製又は、三山ベローズ型
	10 その他	・６５Ａ以上の弁はバタフライ弁（ウォームギァー式）とする ・被覆鋼管に取り付ける鋳鋼弁は、ライニング弁とする ・水頭圧３０m以上は衝撃式逆止弁とする ・
・排水設備	1 排水方式 新設公共桝に放流	汚水放流先（・公共下水 ・単独浄化槽 ・合併処理浄化槽） 雑排水放流先（・公共下水 ・合併処理槽 ・排水路 ・側溝） 雨水放流先（・公共下水 ・排水路 ・側溝） 特殊排水（　　） ※ 建物内の汚水・雑排水は原則として、２管分流方式とする
	2 配管材料	汚水 ・ﾒｶﾆｶﾙ型排水鋳鉄管（HASS210）・鉛管（HASS203） （・ＰＳ天井内 ・建屋土間内 ・トレンチ内） ・ﾗｲﾆﾝｸﾞ．ｺｰﾃｨﾝｸﾞ鋼管（・WSP042 ・WSP032） （・ＰＳ天井内 ・建屋土間内 ・トレンチ内） ・塩化ビニール管（JIS K 6741） ＶＰ一般管 （・ＰＳ天井内 ・建屋土間内 ・トレンチ内） ・石綿二層管（建設大臣認定品） （・ＰＳ天井内 ・建屋土間内 ・トレンチ内） 雑排水 通気 ・配管用炭素鋼鋼管（JIS G 3452） ＳＧＰ－白 （・ＰＳ天井内 ・建屋土間内 ・トレンチ内） ・ﾗｲﾆﾝｸﾞ．ｺｰﾃｨﾝｸﾞ鋼管（・WSP042 ・WSP032） （・ＰＳ天井内 ・建屋土間内 ・トレンチ内） ・塩化ビニール管（JIS K 6741） ＶＰ一般管 （・ＰＳ天井内 ・建屋土間内 ・トレンチ内） ・石綿二層管（建設大臣認定品） （・ＰＳ天井内 ・建屋土間内 ・トレンチ内） 屋外排水 ・塩化ビニール管（・ＶＰ管 ・ＶＵ管） ・耐衝撃性硬質塩化ビニール管（ＨＩＶＰ）（※ＨＩと図示部分） ・ヒューム管（JIS A 5303）外圧管１種のＢ形
	3 洗面器の排水管	・洗面器及び手洗器に直結する排水管寸法は、器具トラップより１サイズアップとする。 ・既製流し台等の床上露出部の配管は、硬質塩化ビニール管ＶＰでもよい。
	4 桝・マンホール	汚水桝 ・標準図ＳＣ形 ・ＳＡＳＢ形 ・塩ビ小口径桝 ・市販形 排水桝 ・標準図ＲＣ形 ・ＲＡＲＢ形 ・塩ビ小口径桝 ・市販形 雨水桝 ・標準図ＲＣ形 ・塩ビ製小口径桝 ・市販コンクリート形 マンホール、蓋 ・ＭＨＡ ・ＭＨＢ ・コンクリート製 ・塩ビ製 ※ マンホールは、図示にて使用区分する。 ※ マンホールは、コンクリート打込 上縁タイプとする。 ※ 蓋には、『汚水』『雑排水』『雨水』と鋳出す。
	5 保温	排水鋳鉄管の保温は、グラスウール保温帯とする。
	6 その他	・ ・
・給湯設備	1 配管材料	・保温付被覆銅管（硬質Ｍタイプ 発泡断熱材１４mm以上） ・銅管（ＪＩＳ Ｈ ３３００ 硬質Ｍタイプ） ・ステンレス鋼管（ＪＩＳ Ｇ ３４４８） ・給湯用耐熱性塩ビライニング鋼管（Ｃ－ＶＡ） ・

章	項目	特記事項
・給湯設備	2 給湯機器の種類	・給湯ボイラー（型式 ・貯湯式 ・瞬間式 ・真空式）（燃料 ・灯油 ・ＬＰガス・都市ガス） ・ガス給湯器（型式 ・瞬間式 ・貯湯式 ・　・　）（排気 ・ＦＦ型 ・ＦＥ型 ・バランス型） ・電気温水器　・ヒートポンプ式 エコキュート ・
	3 弁類	※ 給水設備の項にならう。青銅弁の弁棒は耐脱亜鉛材料とする。
	4 その他	・図示なくともボイラー・貯湯槽には防蝕用電極装置具備のこと。 ・異種金属管接続には、絶縁継手使用のこと。（鋼製ボイラー等） ・銅管の支持は、ゴム絶縁支持金具使用のこと。 ・ステンレス鋼管の接続方法は、呼び径ＳＵ６０以下の場合は、（・プレス ・拡管 ・溶接 ・その他　）とする。 ・湯沸器の排気筒の隠蔽部分は断熱（ロックウール）のこと。 ・
・ガス設備	1 使用ガスの種類	・都市ガス（発熱量　Ｋcal／m3） ・プロパンガス（発熱量 １２０００ Ｋcal／Ｋg）
	2 配管材料	・配管用炭素鋼鋼管（ＪＩＳ Ｇ ３４５２） ＳＧＰ－白 ・ポリエチレン被覆鋼管（ＰＬＰ） 屋内屋外埋設配管用
	3 ガス集合装置	・本工事（ Ｋg 本立 ） ・別途工事
	4 弁・コック・栓	※ガス事業者の規定に合格したもの。又は承認されたもの。
	（1）弁	・ボール弁 ＪＩＳ１０Ｋ（都市ガスの一次側） ・玉形弁 ＪＩＳ２０Ｋ（ＬＰガスの一次側） ・仕切弁 ＪＩＳ１０Ｋ（都市ガス・ＬＰガスの二次側）
	（2）コック	・ヒューズコック（３／８）・ネジコック ・可とう管コック ・メーターコック ・
	（3）接続具	・ゴム管 ・強化ゴム管 ・金属可とう管 ・金属管
	5 ガス漏れ警報器	・設置する（外部警報端子 ・有 ・無）　・設置しない
	6 埋設深度	一般敷地 ＝ ４５０mm以上　車両通路 ＝ ７５０mm以上
	7 試験	・都市ガス 気密保持時間 ６０分 ・ＬＰガス 気密保持時間 ２４分 ※ 気密試験結果のチャートグラフ提出のこと。
	8 ＬＰボンベ庫	・本工事（・鋼板製市販品２０Ｋg × ２本入）・別途工事
	9 ＬＰボンベ本体	※ 別途支給品とする。但し基礎及び転倒防止用鎖等は、本工事
	10 ガス計量器	・親メーター（・貸与品 ・　）※メーターコックは本工事 ・子メーター（・貸与品 ・　）※メーターコックは本工事
	11 その他	・
・消火設備	1 消火設備の種類	・屋内消火栓設備（・1号 ・2号）・屋外消火栓設備 ・スプリンクラー設備（・高感度型 ・一般型 ・　） ・特殊消火設備（・ハロン消火 ・泡消火 ・粉末消火　） ・補助散水栓設備 ・連結送水管設備 ・
	2 配管材料	・配管用炭素鋼鋼管（ＪＩＳ Ｇ ３４５２） ＳＧＰ－白 ・圧力配管用炭素鋼鋼管（ＪＩＳ Ｇ ３４５４） ＳＣＨ４０以上 ・消火用ポリエチレン外面被覆鋼管（ＳＧＰ－ＰＳ） 地中配管用
	3 屋内消火栓箱	・ＨＢ－１Ａ ・ＨＢ－１Ｂ ・ＨＢ－４Ａ ・ＨＢ－４Ｂ ・ＨＢ－２０ ・総合形 ・消火器箱併設形
	4 消火栓放水弁	・10Kg/cm2 圧力調整弁付（水頭圧３０m以上は衝撃式逆止弁付）
	5 消火器	・機械室 ＝ ＡＢＣ１０型 本 ・本工事 ・別途工事 ・貯油槽用 ＝ ＡＢＣ１０型 本 ・本工事 ・別途工事 ・ＬＰ庫 ＝ ＡＢＣ１０型 本 ・本工事 ・別途工事 ・電気室 ＝ ＡＢＣ１０型 本 ・本工事 ・別途工事 ・建物用 ＝ ＡＢＣ 型 本 ・本工事 ・別途工事 ・ ＝ 型 本 ・本工事 ・別途工事 ・格納箱 ＝ １本入 個 ２本入 個 ・ＳＵＳ製 ・鋼板製
	6 その他	・屋内消火栓配管 ・スプリンクラー配管の保温（・要 ・不要） ・ポンプ室．機械室内露出配管の保温（・要 ・不要）
・し尿浄化槽設備	1 建築の用途	JIS A 3302-1988による用途『　』
	2 処理対象人員他	処理対象算定人員 ＝ 人　処理水量 ＝ m3／日
	3 放流水質	ＢＯＤ ＝ ppm 以下
	4 単独処理槽	図示による　人槽（・重耐圧型 ・一般型）ポンプ槽（・有 ・無）
	5 合併処理槽	図示による。
	6 槽材質	※建設大臣型式認定品 ・ＦＲＰ ・ボックスカルバート ・ＲＣ
	7 ブロワー	吐出風量 ＝ ﾘｯﾄﾙ／min　入力 ＝ w
	8 マンホール類	ＭＨＡ蓋（チェッカープレート類は、ロック式とする。）
	9 消毒剤	１か月相当分以上具備のこと。
	10 流入管底	ＧＬ－ mm
	11 試運転調整	浄化槽使用開始３か月後、１回放流水質の測定結果報告提出のこと。
	12 その他	山止め ・要（　）・不要 埋戻し土 ・根伐土の中の良質土（但し槽の周囲は山砂）・山砂
・融雪設備	1 方式	・井戸水散水式 ・無散水式
	2 配管材料	送水管 ・耐衝撃性硬質塩化ビニール管（ＨＩＶＰ） 散水管 ・配管用炭素鋼鋼管（ＪＩＳ Ｇ ３４５２）ＳＧＰ－白
	3 弁類	※ 給水設備の項に準ずる。
	4 融雪ノズル	・調圧弁内蔵形頂部ＳＵＳ製 ・穴明きパイプ ・オールステンレス製全面散水開閉形 ・無散水融雪パネル
	5 その他	※ 散水ヘッダーの端部には、排泥弁を取り付けのこと。 ※ ノズルの配置配列は、路面勾配等充分考慮の上決定のこと。
・その他	1 設備内容	
	2 配管材料	・配管用炭素鋼鋼管（ＪＩＳ Ｇ ３４５２） ＳＧＰ－白 ・圧力配管用炭素鋼鋼管（ＪＩＳＧ ３４５４） ＳＣＨ４０以上 ・塩化ビニール管（JIS K 6741） ＶＰ一般管 ・ﾗｲﾆﾝｸﾞ鋼管（・ﾎﾟﾘ粉体SGP-PB ・塩ビSGP-VB）

章	項目	特記事項
・空気調和設備	1 設備概要	
	2 設計温湿度	（下表）
	3 主要機器仕様	・製造メーカー標準　・建設省仕様
	4 機器附属制御盤	・故障表示及び表示用無電圧接点、端子を設ける。 ・インターロック端子付。 ・建設省仕様制御盤については、建設省共通仕様書による。
	5 煤煙濃度計	・設ける　・設けない
	6 煤塵量測定口	・設ける（測定口は径８０φとし、煙導の直線部に取付）・設けない
	7 配管材料	・空調用給水管 ―― ・給水設備の項に準ずる。 ・冷温水管 ―― ・配管用炭素鋼鋼管（JIS G 3452） SGP－白 ・冷却水管 ＜ ・配管用炭素鋼鋼管（JIS G 3452） SGP－白　・ライニング鋼管 JWWA K 116 SGP-VA ・機器ドレン管（断熱 要）＜ ・配管用炭素鋼鋼管（JIS G 3452） SGP－白　・硬質塩化ビニール管（JIS K 6741）VP一般管 ・冷媒管 ―― ・冷媒配管用銅管（製造メーカー標準品） ・蒸気管 ＜ ・配管用炭素鋼鋼管（JIS G 3452） SGP－白　・圧力配管用炭素鋼鋼管（JIS 3454）STPG３８ ・膨張管空気抜き管及び膨張タンクよりボイラー等への補給水管は配管用炭素鋼鋼管（ＪＩＳＧ３４５２）ＳＧＰ－白とする。
	8 防振継手	・給水設備の項に準ずる。
	9 可とう継手	・給水設備の項に準ずる。
	10 弁類	・給水設備の項に準ずる。 図示によりバタフライ弁を使用するときは、本体鋳鉄製、弁体は耐熱耐磨耗性の完全密閉構造とする。（ｳｫｰﾑｷﾞｬｰ式）
	11 その他	・ ・
・風導設備	1 風導	低速ダクト（・共板工法 ・アングル工法）
	2 チャンバー	・打貼りを施すチャンバーの表記寸法は、外寸法を示す。 ・外壁に面するガラリに直接取り付けるチャンバー・ホッパーには排水管（２０Ａ）を取付、屋外又は間接排水口に導く。
	3 ダンパー	・風量調節ダンパー（１．２mm以上の鋼板製） ・防火ダンパー（１．６mm以上の鋼板製 防火性能評定品） ・防煙ダンパー 復帰方式（・遠隔 ・　） ・ピストンダンパー 復帰方式（・遠隔 ・　）
	4 保温	・還りダクトの保温要（保温厚２５mm、範囲は図示による） ・外気ダクトの保温要（保温厚２５mm、範囲は図示による） ・隠蔽ダクトのフランジ部（補強を含む）は、厚さ２５mmの保温を重ね巻きする。 ※チャンバー及び風導の消音内貼（図示箇所）部分は外部保温不要
	5 制気口	・１．０mm以上のアルミニゥム製、指定色メラミン焼付仕上げ
	6 その他	・空気調和器に取付るサプライチャンバー、レタンチャンバー及び消音内貼したチャンバーには、点検口を設ける。（点検口の大きさは、図示による。） ・
⊙換気設備	1 換気方式	・第一種換気 ・第二種換気 ・第三種換気
	2 風導	・低速 ・高速 ・亜鉛引鉄板 ・亜鉛引スパイラルﾀﾞｸﾄ
	3 排気フード（厨房天蓋等）	⊙ＳＵＳ３０４製 １．０mm以上　・亜鉛引鉄板製１．０mm
	4 たわみ継手	・送風機吸込側に取付る物はピアノ線入り（風導設備も共通）
	5 その他	・厨房系統の排気ダクトは共通仕様書より一番手厚い物を使用。 ・排気ダクトのシール（・厨房系統 ・浴室系統 ・　） ・外気取り入れダクトは断熱のこと。 ・
⊙給油設備	1 燃料の種類	・灯油　⊙Ａ重油　・特Ａ重油
	2 貯油槽	・地上型 ・簡易地下埋設型 ・地下タンク室築造型
	3 総容量	「190 ﾘｯﾄﾙ」 法定指定数量 ・超えない ・超える
	4 保護被覆材	・タールエポキシ樹脂仕上げ
	5 配管材料	・外面被覆付鋼管（屋外露出部分） ⊙配管用炭素鋼鋼管（ＪＩＳ Ｇ ３４５２） ＳＧＰ－黒　地中埋設部は、防水麻布巻き
	6 弁類	・ＪＩＳ１０Ｋ 油用鋳鋼弁
	7 可とう継手	・ベローズ型 ２０Ａ ３００Ｌ　２５Ａ～４０Ａ ５００Ｌ　５０Ａ ７００Ｌ
	8 その他	⊙露出配管全て指定色塗装仕上げ
・自動制御	1 制御方式	・電気式 ・空気式 ・電子式
	2 監視方式	・個別式 ・中央式
	3 二次側電気工事	・本工事（電気設備共通仕様書に基ずく）・別途工事
	4 その他	・ ・
・排煙設備	1 風導	・高速 ・亜鉛引鉄板 ・普通鋼板（１．６mm）
	2 排煙口の型式	・天井取付 ・スリット型 ・スイング型 ・壁面取付 ・スリット型
	3 排煙口開放装置	・手動 ・手動及び、遠隔操作可能な物。
	4 その他	・ ・

設計温湿度

	外気 温度ＤＢ	外気 湿度ＲＨ	室内 一般系統 温度ＤＢ	室内 一般系統 湿度ＲＨ	室内 系統 温度ＤＢ	室内 系統 湿度ＲＨ
夏季						
冬季						

被覆塗装仕様

G＝グラスウール　R＝ロックウール　FP＝フォームポリスチレン

章	区分	給排水・消火管	給湯・温水管	冷温水管	井水管	蒸気管
配管	屋内 露出（機械室）	1．G 保温筒 2．鉄線 3．厚紙 4．Alｶﾞﾗｽｸﾛｽ	1．G 保温筒 2．鉄線 3．厚紙 4．Alｶﾞﾗｽｸﾛｽ	1．　保温筒 2．鉄線 3．厚紙 4．綿布 4．Alｶﾞﾗｽｸﾛｽ	冷温水管仕様に準ず	給湯管仕様に準ず
	天井内ＰＳ内 空隔壁内	1．G 保温筒ALK 2．Al粘着ﾃｰﾌﾟ 3．亀甲金網	1．G 保温筒ALK 2．Al粘着ﾃｰﾌﾟ 2．鉄線 3．亀甲金網 3．Alｶﾞﾗｽｸﾛｽ	1．　保温筒ALK 2．Al粘着ﾃｰﾌﾟ 2．鉄線 3．Pｰﾌｲﾙﾑ 4．亀甲金網 4．Alｶﾞﾗｽｸﾛｽ	冷温水管仕様に準ず	給湯管仕様に準ず 但し外装はAlｶﾞﾗｽｸﾛｽ
	床下・暗渠内（ピット内）	1．FP保温筒 2．鉄線 2．粘着テープ 3．Pｰﾌｲﾙﾑ 4．防水麻布 5．プライマー（２回塗り）	1．G 保温筒 2．鉄線 3．防水麻布 4．鉄線 5．プライマー（２回塗り）	1．　保温筒 2．鉄線 3．Pｰﾌｲﾙﾑ 4．防水麻布 5．鉄線 6．プライマー（２回塗り）	冷温水管仕様に準ず	給湯管仕様に準ず
	屋外 露出 多湿 箇所（浴室厨房）	1．FP保温筒 2．粘着テープ 3．Pｰﾌｲﾙﾑ 4．SUS鋼板 0．3t	1．G 保温筒 2．鉄線 3．SUS鋼板 0．3t	1．　保温筒 2．鉄線 3．Pｰﾌｲﾙﾑ 4．鉄線 5．SUS鋼板 0．3t	冷温水管仕様に準ず	給湯管仕様に準ず

保温材厚さ	管径	厚み	管径	厚み	管径	厚み	管径 厚み	管径 厚み
	15A～80A 100～150A F保温筒 15～150A	20㎜ 25㎜ 20㎜	15A～80A 100～150A 200A以上	20㎜ 25㎜ 40㎜	15A～25A 32～200A 250A以上	30㎜ 40㎜ 50㎜	冷温水管仕様に準ず	

※ 配管防露・保温特記事項

1 排水管の暗渠内及び、屋外露出部は断熱保温不要

2 土中及び、コンクリート内埋設の裸管（鋼管類）は防蝕テープ1/2重ね２回巻き。

3 鋼管類のネジ切り部は、サビ止め塗装のこと

4 暗渠内の裸管（鋼管類）は、コールタール塗り。支持金物は溶融亜鉛ﾒｯｷ製とする

5 冷媒管の保温は機器メーカーの標準仕様とする。屋外露出部は、化粧カバー仕上げ

6 機器ドレン管の保温は、排水管の項に拠る。

7 保温を施さない屋内屋外露出管は、指定色仕上げとする。

8

章	区分	仕様
風導	屋内露出 機械室倉庫	1．鋲 2．ｱﾙﾐｶﾞﾗｽｸﾛｽ化粧保温板（ｸﾞﾗｽｳｰﾙ２号 40K 50㎜） 3．ｱﾙﾐｶﾞﾗｽｸﾛｽ粘着ﾃｰﾌﾟ
	居室廊下	1．鋲 2．ｸﾞﾗｽｳｰﾙ保温板（２号40K50㎜） 3．着色亜鉛鉄板
	屋外露出 多湿箇所	1．鋲 2．ｸﾞﾗｽｳｰﾙ保温板（２号40K50㎜） 3．ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ 4．鉄線 5．ステンレス鋼板
	屋内隠蔽	1．鋲 2．Alﾎｲﾙﾍﾟｰﾊﾟｰ付保温板（2号32K25㎜） 3．亀甲金網
	保温内貼 一般制気口	1．鋲 2．ｸﾞﾗｽｳｰﾙ保温板（2号32K25㎜） 3．ガラスクロス
	サプライチャンバー	1．鋲 2．ｸﾞﾗｽｳｰﾙ保温板（2号40K50㎜） 3．ｶﾞﾗｽｸﾛｽ 4．銅亀甲金網

※上記風導被覆仕様は矩形風導仕様とする。円形風導仕様は保温板を保温帯に読み替える

章	区分	仕様
機器類	1鋼板製水槽圧力水槽	1鋲又は接着剤 2ｸﾞﾗｽｳｰﾙ保温板 3ﾙｰﾌｨﾝｸﾞ 4鉄線 5ｱﾙﾐ板
	2排気筒	1ﾛｯｸｳｰﾙ保温帯（50㎜） 2鉄線 3ｱﾙﾐｶﾞﾗｽｸﾛｽ 4亀甲金網
	3煙導	1ﾛｯｸｳｰﾙﾌﾞﾗﾝｹｯﾄ（75㎜） 2鉄線 3着色亜鉛鉄板
	4温水槽還水槽熱交換器	1鋲 2ｸﾞﾗｽｳｰﾙ保温板（2号50㎜） 3鉄線 4アルミ板
	5膨張水槽	1鋲 2ｸﾞﾗｽｳｰﾙ保温板（2号25㎜） 3鉄線 4アルミ板
	6冷温水管寄せ	1鋲2ｸﾞﾗｽｳｰﾙ保温板（2号50㎜）3ﾙｰﾌｨﾝｸﾞ4鉄線5アルミ板
	7温水・蒸気管寄せ	1鋲 2ｸﾞﾗｽｳｰﾙ保温板（2号50㎜） 3鉄線 4アルミ板
	8	

機器メーカー指定

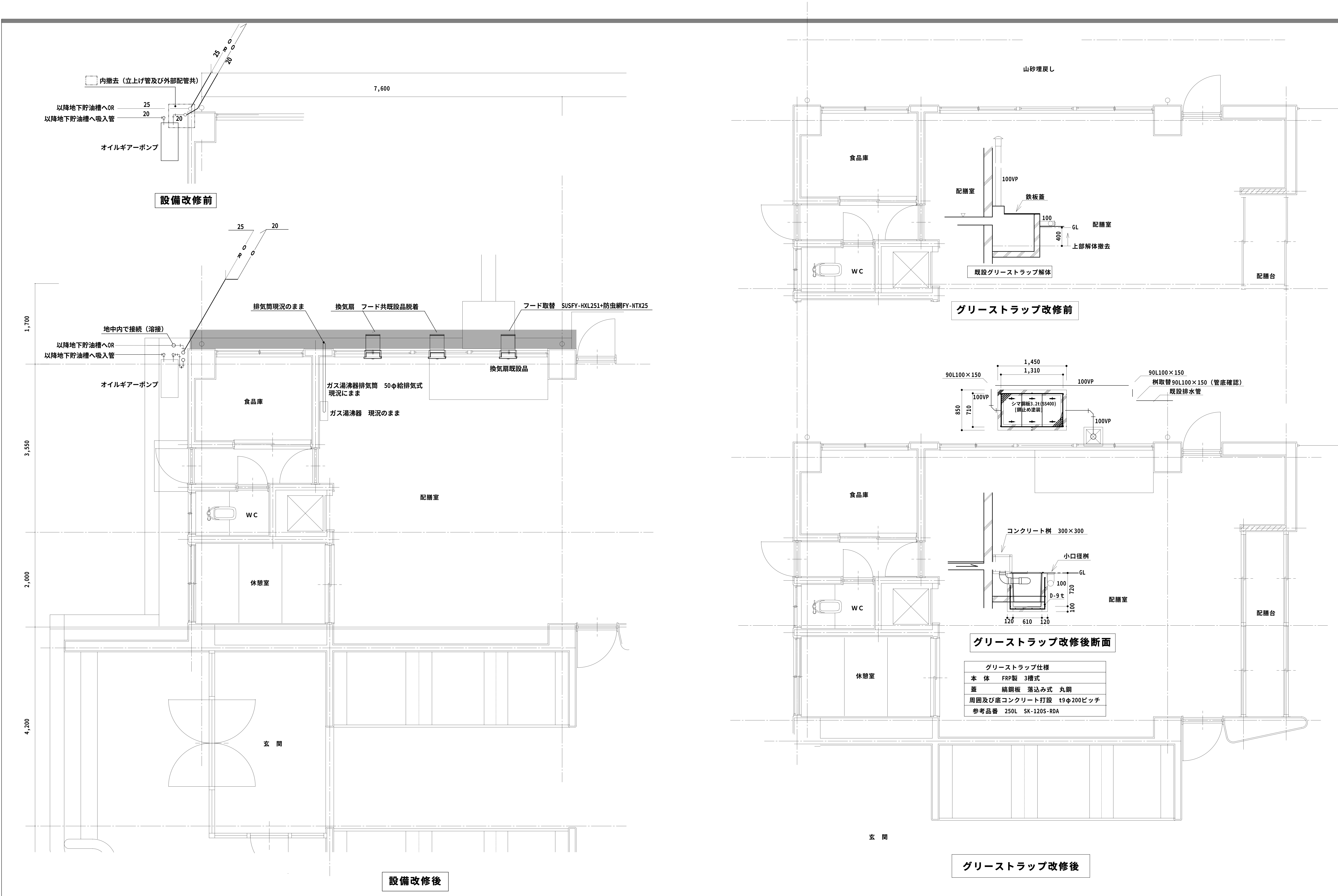
1・下記製造メーカーもしくは、同等品以上とする。

2　下記項目に記載なき機器、材料はＪＩＳ規格品とする。

3

換気扇	三菱電機　パナソニック電工		

特記事項	工事名	設計	検図		No.
	石動東部保育所耐震補強工事	一級建築士 大臣登録 第108041号 可部谷 一成		可部谷建築事務所 一級建築士事務所富山県知事登録第（7）557号 管理建築士 一級建築士 大臣登録第108041号 可部谷 一成	M － 01
	図名：機械設備特記仕様書	縮尺	月日		

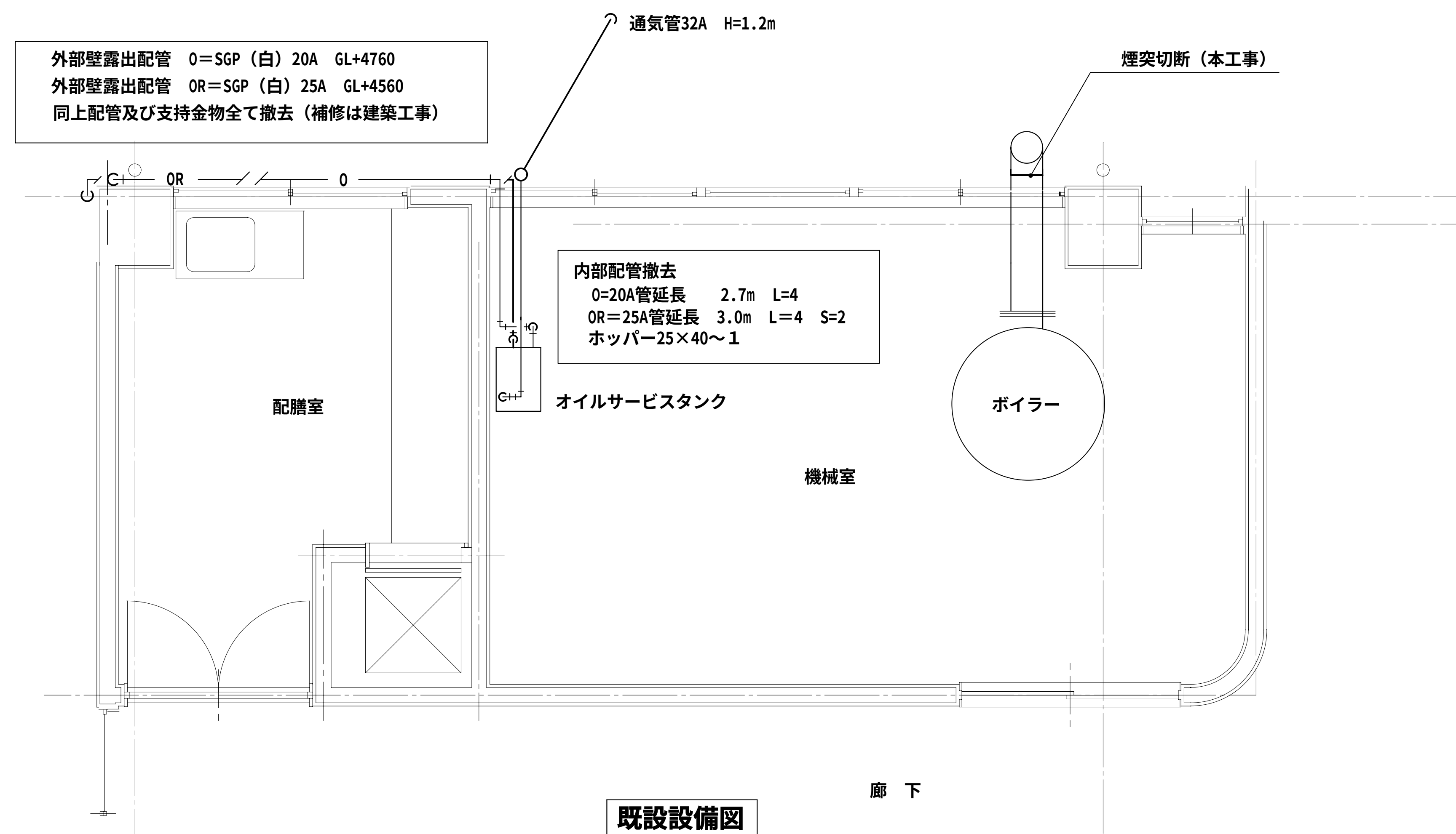


グリーストラップ仕様	
本　体	FRP製　3槽式
蓋	縞鋼板　落込み式　丸鋼
周囲及び底コンクリート打設　t9φ200ピッチ	
参考品番　250L　SK-120S-RDA	

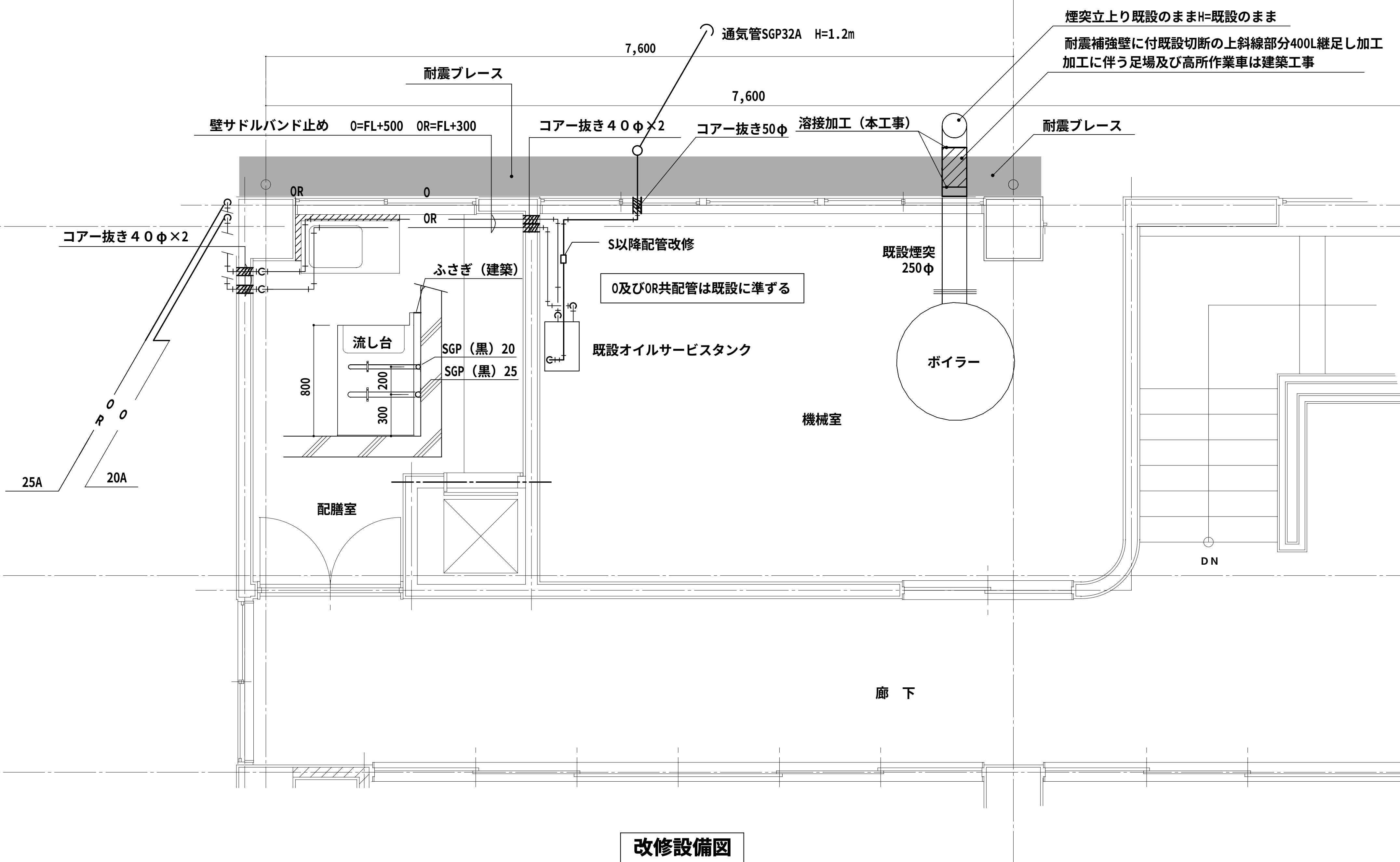
特記事項	工事名	石動東部保育所耐震診断工事	設計	一級建築士　大臣登録　第108041号　可部谷　一成	検図	
	図名	機械設備１階改修図	縮尺	1/100(A2)　1/(100√2)(A3)	月日	

可部谷建築事務所
一級建築士事務所富山県知事登録第（7）557号
管理建築士　一級建築士　大臣登録第108041号　可部谷　一成

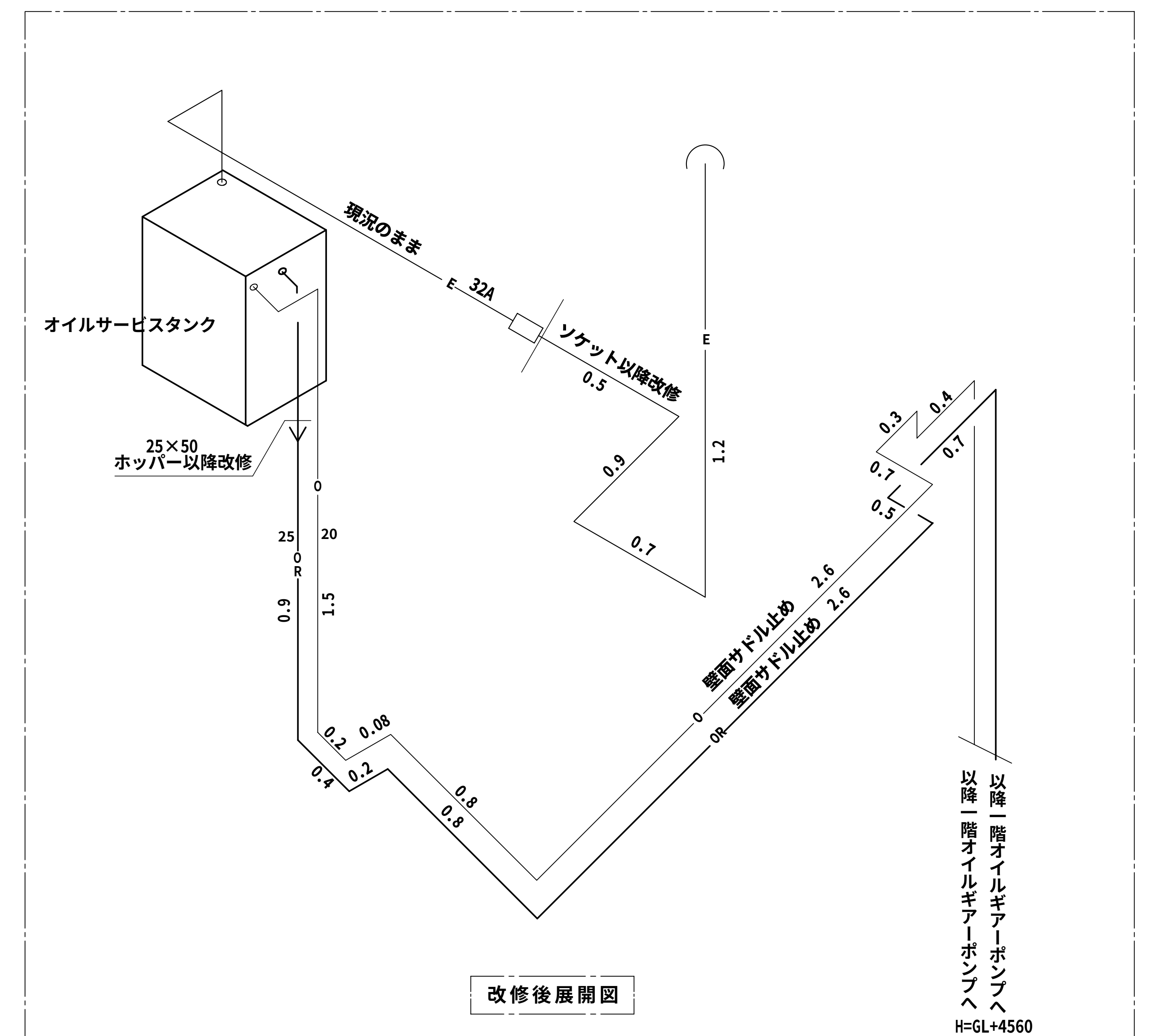
No. M ― 02



既設設備図

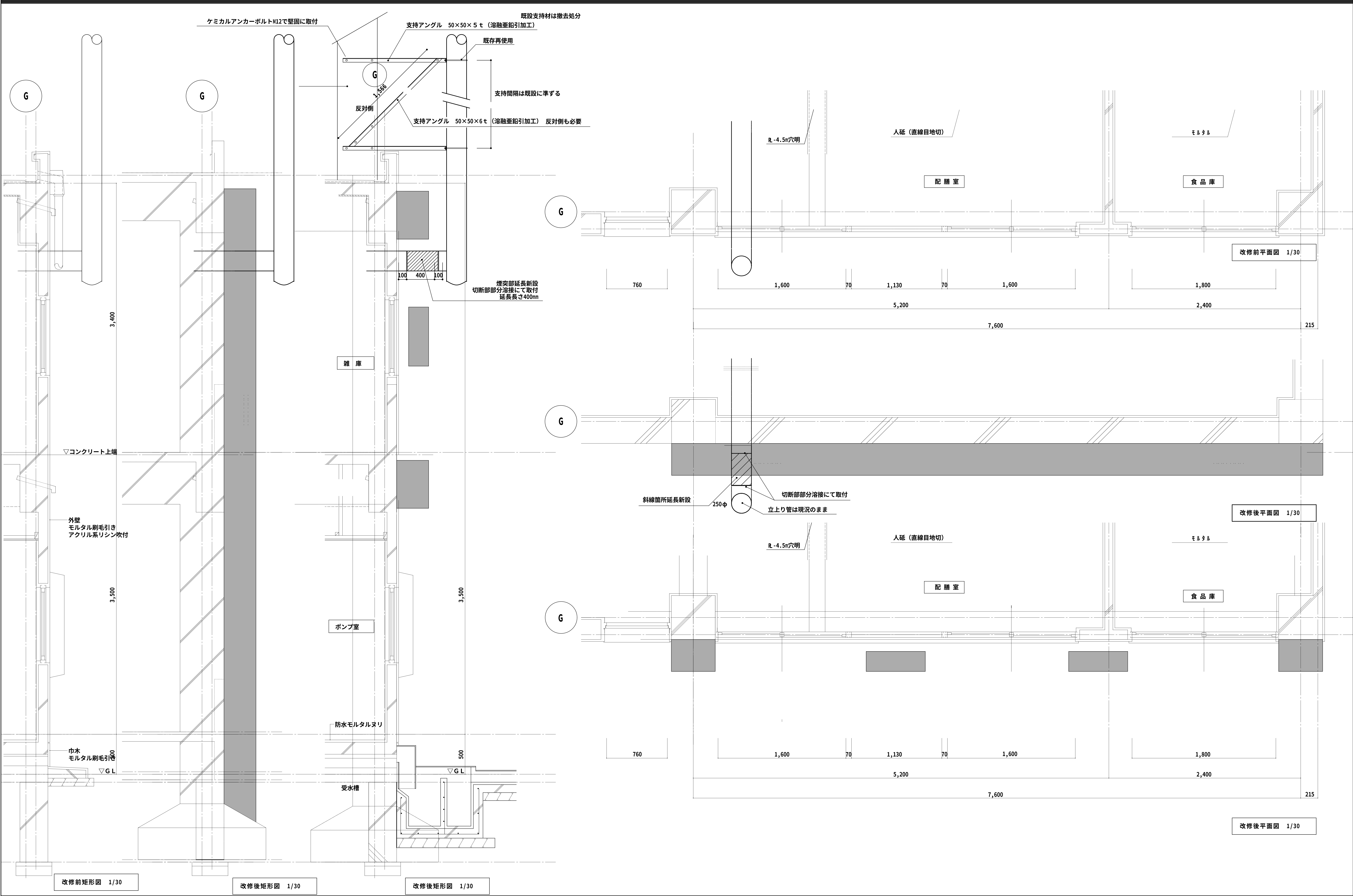


改修設備図



改修後展開図

特記事項	工事名　石動東部保育所耐震補強工事	設計　一級建築士　大臣登録　第108041号　可部谷　一成	検図	可部谷建築事務所 一級建築士事務所富山県知事登録第（7）557号 管理建築士　一級建築士　大臣登録第108041号　可部谷　一成
	図名　機械設備２階改修図	縮尺　1/50(A2)　1/(100√2)(A3)	月日	No.　M － 03



特記事項	工事名 石動東部保育所耐震補強工事	設計 一級建築士 大臣登録 第108041号 可部谷 一成	検図	可部谷建築事務所 一級建築士事務所富山県知事登録第（7）557号 管理建築士 一級建築士 大臣登録第108041号 可部谷 一成
	図名 外部煙突支持詳細図	縮尺 1/30(A2) 1/(30√2)(A3)	月日	No. M － 04